



追 悼

神戸大学名誉教授，前水泳部長，山田幸男先生には，昭和58年8月8日未明，神戸中央市民病院に於て，「癌性悪液質」のため逝去されました。享年63との事であります。

御病状並に，御葬儀の様子は，先に「訃報」を以てお知らせ致しましたので省略致しますが，吾々水泳部に賜りました，永年に亘る御尽力に感謝し，生前の御遺徳を偲んで，ここに山田先生追悼の特集号を編纂致しました。

多くの方々から寄せられました先生の思い出，追悼のお言葉と共に，亡き先生を偲び，その霊の安からん事を，皆様と共に祈り致し度いと存じます。

合 掌



5 3.5.14 姫路・木場ヨットハーバーにて
左より小山会長，萩原，山田先生，野田，山口



5 3.5.14 家島群島・男鹿島にて
後列左より 石井，萩原，野田，山口
前列左より 小山会長，高橋嬢，山田先生



5 3.5.13 凌泳会第一回全国大会にて
左から小山会長，白山源三郎長老，山田先生



5 6.3.14 兵水連創立 50 周年祝賀会にて
後列左より 山口，橋本，石井
前列左より 野村，小山会長，松本氏，山田先生
(註) 松本氏は早大OB 元日水連関西支部長



58.8.9 御自宅での密葬で先生の柩をお運びする水泳部員



58.8.24 神戸サンボーホールに於ける御本葬



先生にお供えした花瓶

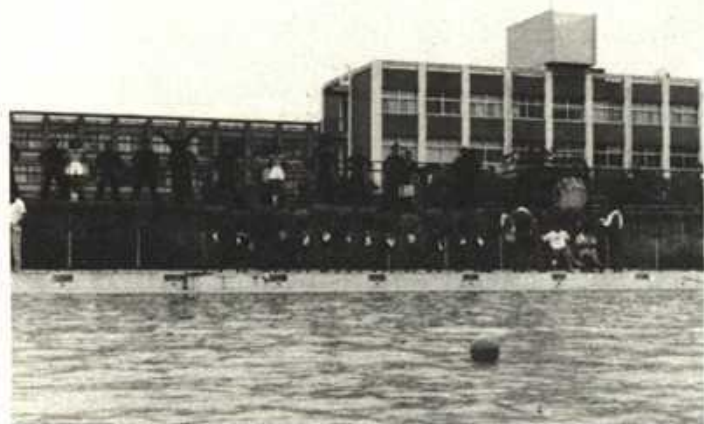


5 8 . 6 . 8

凌泳会東京支部会（於 成城クラブ）



58.6.13 ~ 18 夏期合宿中の宿舎にて。向かって右下が田中克己コーチ，中央下OBの金氏，左下太田氏



5 8.7.17

三商大戦(於 市大プール)
遂に、一橋ボロを破った
神大水球陣。
上は神大応援団と

チアガール

完全優勝の三商大戦
カップは全て神戸に。
中央、吉野副会長
その下、佐敷氏
向かって右端下
長谷川氏



5 8.8.26

近国体V3
(於 西代プール)
堯天学長の胴上げ

昭和58年度凌泳会東京支部会	昭52E 丸末 一之	28
三商大水球観戦印象記	昭15学 吉野 栄	31
会員からのお便り		
總會案内状返信より		33
月見の宴案内状返信より		40
現役部員寄稿		
強者の理論と弱者の甘え	主将 吉田不二彦	47
水球主任として	副将 浦野 敏明	48
ビギナーがスイマーになる時	二回 波戸 智久	48
「あらあら日記」より	現役部員一同	50
六甲台プールよいざさらばク	昭和59年卒部者一同	55
現役部員紹介	二回生一同	59
昭和58年度活動報告		66
昭和58年度行事報告		85
現役部員自己ベスト一覧		86
歴代十傑表		88
凌泳会会則		94
凌泳会役員名簿		98
凌泳会会員名簿		100
「商神」「応援歌」		126
編集後記		131

山田幸男教授略歴

- 大正 8年 11月 7日 出生
- 昭和 12年 3月 東京都麻布中学校卒業
- “ 16年 3月 浦和高等学校文科甲類卒業
- “ 22年 3月 東京帝国大学法学部政治学科卒業（昭和 18年 11月から昭和 21年 2月まで兵役のため休学）
- “ 22年 4月 東京大学大学院特別研究生
- “ 25年 8月 31日 神戸大学法学部助教授
- “ 26年 7月 18日 連合王国（ロンドン大学）に出張（昭和 28年 10月 1日まで）
- “ 33年 4月 1日 神戸大学法学部教授
- “ 36年 11月 1日 大阪大学法学部教授（併任）（昭和 42年 3月 31日まで）
- “ 37年 2月 20日 「現代行政法の展開と市民法との関係」の研究をもって東京大学から法学博士の学位授与
- “ 37年 9月 3日 アメリカ合衆国に出張（昭和 38年 9月 14日まで）
- “ 40年 6月 1日 神戸大学評議員（昭和 42年 5月 31日まで）
- “ 40年 10月 日本公法学会理事（現在に至る）
- “ 41年 8月 2日 連合王国、スイス、ドイツ連邦共和国、フランス及びアメリカ合衆国に出張（昭和 41年 11月 4日まで）
- “ 43年 5月 2日 学術審議会専門委員（同年 12月 31日まで）
- “ 43年 12月 21日 神戸大学法学部長、同大学院法学研究科長、同大学評議員（昭和 45年 12月 20日まで）
- “ 44年 4月 1日 神戸弁護士会懲戒委員
- “ 46年 1月 21日 司法試験（第 2次試験）考査委員（昭和 57年度まで）
- “ 46年 4月 1日 神戸弁護士懲戒委員
- “ 47年 8月 租税法学会理事（現在に至る）
- “ 51年 4月 8日 連合王国、スウェーデン及びドイツ連邦共和国に研修旅行（同年 5月 22日まで）
- “ 54年 4月 1日 神戸大学法学部夜間学部主事（昭和 55年 3月 31日まで）
- “ 58年 4月 1日 神戸大学退職
- “ 58年 4月 2日 神戸大学名誉教授
- “ 58年 8月 8日 死去（63才）

なお、同教授は、次の国、または地方公共団体の各委員会において、委員長もしくは委員として

活動されました。

自治省・地方財務会計調査委員（昭和34年10月～昭和36年9月）
大蔵省・公務員行政法研究会会長（昭和41年4月～昭和44年3月）
大阪国税不服審判所・租税法研究会顧問（昭和45年10月～現在に至る）

大阪府公害対策審議会（昭和39年11月20日～昭和49年1月31日）
神戸市開発審査会（昭和51年12月1日～昭和57年11月30日）
神戸市交通事業審議会（昭和52年2月26日～昭和54年2月11日）
兵庫県公害対策審議会（昭和52年7月5日～現在に至る）
西宮市建築審査会（昭和52年9月14日～昭和53年7月19日）
神戸市都市計画審議会（昭和53年1月27日～現在に至る）
神戸市土地利用審査会（昭和53年1月27日～現在に至る）
神戸市宅地保全審議会（昭和53年4月1日～昭和55年3月31日）
兵庫県自治振興制度調査会（昭和53年8月11日～昭和54年2月16日）
兵庫県消費者苦情審査会（昭和54年3月8日～昭和56年2月20日、昭和56年7月24日～現在
に至る）
神戸市交通事業審議会（昭和54年6月1日～昭和56年5月31日、昭和56年7月24日～現在
に至る）
兵庫県議会議政調懇話会（昭和56年11月11日～現在に至る）

山田幸男教授著書・論文目録

I 主要著書

（論文名）	（発表出版社名）	（発表年月）
デニング・法と自由（訳）	有斐閣	昭和30年4月
行政契約論	日本評論社	" 31年10月
公企業法	有斐閣	" 32年8月
ゲルホン・基本的人権（共訳）	有斐閣	" 34年12月
行政法の展開と市民法	有斐閣	" 36年11月
広域行政の経済効果（共著）	学陽書房	" 43年11月
法律学の基礎知識（共編）	有斐閣	" 44年6月
都市計画・区画整理・収用の法律相談（共編）	有斐閣	" 46年10月
公害行政講座②（共編）	ぎょうせい	" 52年8月
公害行政講座③（共編）	ぎょうせい	" 51年12月

演習 行政法 上 (共編)	青林書院新社	昭和54年 2月
演習 行政法 下 (共編)	青林書院新社	" 54年 3月

II 主要論文

(論文名)	(発表雑誌名)	(発表年月)
自由裁量の観念について	法律時報 22 卷 7 号	昭和 25 年 7 月
仏蘭西に於ける自由裁量問題	神戸法学雑誌 1 卷 1 号	" 26 年 3 月
英国行政法学界の近況	公法研究 10 号	" 29 年 4 月
地方団体の会計検査 — いわゆるディストリクト・オーディット について	自治研究 30 卷 9 号	" 29 年 8 月
福祉国家行政とその問題点 — 英国行政法の発展	法律時報 27 卷 7 号	" 30 年 7 月
最近の判例よりみた自由裁量問題	判例評論 2 号	" 30 年 9 月
行政の自由裁量の性質について (英文)	神戸法学雑誌 5 卷 1・2 号	" 30 年 10 月
英国の公社制度の背景と問題点	「公共企業体の研究」(有斐閣)	" 31 年 1 月
公共企業体の概念	ジュリスト 102 号	" 31 年 3 月
英米行政法序説	「行政法講座」第 1 卷(有斐閣)	" 31 年 9 月
福祉国家	「行政法講座」第 1 卷(有斐閣)	" 31 年 9 月
イギリスの行政訴訟制	公法研究 15 号	" 31 年 10 月
裁判官の選任方法及び身分の保障に関する 比較法的研究 II イギリス	比較法研究 12	" 31 年 10 月
北村教授の「公企業に関する若干の疑問」 ほか数点の論文をめぐって	神戸法学雑誌 6 卷 3 号	" 31 年 12 月
福祉国家と行政法の理論	法哲学年報 1956 年	" 32 年 4 月
イギリス憲法(諸外国の憲法・特質と概観)	ジュリスト 146 号	" 33 年 1 月
パブリック・コーポレーションの研究	比較法研究 17	" 33 年 10 月
イギリスにおける警察官の職務権限	法律時報 30 卷 13 号	" 33 年 12 月
行政法の解釈と運用	公法研究 21	" 34 年 10 月
ニューサンスとは何か — その条例による規制の必要性 —	都市問題 51 卷 5 号	" 35 年 5 月
宅地造成規制法案をめぐる諸問題	ジュリスト 234 号	" 36 年 9 月
自治行政法の理念と現実(一)	神戸法学雑誌 13 卷 4 号	" 39 年 3 月
公害行政の位置づけ	自治研究 40 卷 8 号	" 39 年 8 月
行政法の市民法に対する異質性と補完性 — 渡辺洋三「現代福祉国家の法学的検討」 にこたえる	法律時報 36 卷 12 号	" 39 年 11 月

「行政事務の配分」を中心とする 国と地方公共団体の関係	ジュリスト 311号	昭和 39年 12月
自由裁量	『行政法講座』第2巻(有斐閣)	〃 39年 6月
福祉国家における経済と行政の関係	公法研究 28	〃 41年 10月
給付行政法の理論	『現代法』4(岩波書店)	〃 41年 11月
都市圏広域行政の諸問題	ジュリスト 372号	〃 42年 6月
計画行政法における若干の法律問題 — 工業団地造成事業をめぐって	地方自治法 20周年記念自治論文集	〃 43年 3月
ロブソン報告と行政の視点	法律時報 40巻3号	〃 43年 3月
公害行政の位置づけ	日本行政学会編『公害行政』 (頸草書房)	〃 43年 4月
イギリスの公務員法制と労働基本権	ジュリスト 404号	〃 43年 8月
環境保全問題を科学的にどう考えるべきか — とくに法律と条例上の問題について	ジュリスト 471号	〃 46年 2月
行政過程と住民参加	杉村章三先生古稀記念 『公法学研究』下(有斐閣)	〃 49年 7月
公務員制度 公務員の労働基本権を中心として	ジュリスト 600号	〃 50年 11月
公共企画に関する若干の考察	田中二郎先生古稀記念 『公法の理論』下Ⅱ(有斐閣)	〃 52年 9月
福祉国家と自方自治	地方自治 30周年記念論文集(自治省)	52年 12月
イギリスにおける「法の支配」と行政法 — わが国の継受の回顧と展望	磯崎辰五郎先生喜寿記念 『現代における「法の支配」』 (法律文化社)	〃 54年 5月

山田さんを偲んで

元神戸大学長 戸田 義郎

山田さんの入院以来、ひたすら再起を願いつづけて来ましたが、願いはかなえられず、山田さんは到頭亡くなりました。

山田さんが亡くなって、私は「また大学紛争の犠牲が出た」「山田さんも到頭大学紛争の犠牲となられた」「山田さんを紛争の犠牲としてしまった」という思いにとらわれざるを得ないのです。

山田さんは十年余り前、大学紛争がほぼ收拾されたところに、病気をされ、入院されました。この病気は胃腸系統のものでありましたが、われわれ素人には奇病としか思えない異常のものでしたから、退院後も常に健康をお案じていました。それだけに、もしこの病歴が無かったら、今回の死亡原因となられた病気に対しても、なお、全身的対応力をより多く残しておられて、再起可能であったのではないか、—あるいは今回の病気は発生しなかったのではないか、とさえ思われるのです。そのように考えることは、不合理であり、愚痴に過ぎないかも知れません。しかし私にはそれと知りつつ、なおかつ、そうとさえざるを得ないほど、紛争時の山田さんの献身的対応は激烈であったと、深く、深く、印象づけられているのです。

神戸大学に大学紛争の形が濃厚化したのは、15年前の昭和43年11月ごろからであると言えます。それから大学が研究、教育の場としての機能を回復し、また、新規程のもとで選出された学長を先頭に大学の改革を検討し、実行に移すという体制が確立され、さらに紛争処理上の残務の処置も完了して、名実ともに紛争收拾が達成されるまでの間に尽くされた、全学の関係者の方々の努力は容易なものではありません。わけても学部長、研究所長、図書館長、病院長、事務局長等々の部局長の方々の払われた努力は、筆舌に尽くしがたいものがあります。

山田さんが法学部長に就任され、評議員、協議員を兼ねて、学部及び大学管理の要員として登場されたのは、大学紛争状態が激発してから約1カ月目の、昭和43年12月のことですが、当時の部局長は、山田さん以外は、紛争激発以前からの方々でした。その点から、山田さんは初めから紛争への対応と收拾の任務を課せられて登場した最初の部局長であり、かつまたその種の部局長の中では、紛争激発の初期から登場された最古参の部局長でありました。

山田さんは昭和45年12月、2年の任期を全うして法学部長を退かれましたが、当時は紛争收拾上の主要課題はすべて一応の処理を終わり、残務処理期に入ろうとする時期でありました。こうして見ると、山田さんは任期中、紛争收拾に専念され続けて、遂に收拾の目的を達して、部局長を退かれたということになるわけで、端的に言えば山田さんは「紛争処理学部長」であったと言えます。山田さんは、その第1号学部長として、学部と大学の激動の最盛期に対処されたのであります。

神戸大学の大学紛争の收拾過程には、いくつかのヤマバ、即ち「切所」がありました。

その一つは、昭和44年1月と2月に行われた、いわゆる「公開団交」です。この「団交」は、

評議員有志と、住吉寮生及びその同調者学生との間で、全学教職員、学生の自由出席の公開の場で、寮生の要求を中心にして行われた対話の場でありました。

「団交」は、両度とも、徹夜で行われましたが、その時、山田さんと、今日の葬儀・告別式の委員長を勤めておられる大竹さんとは、時々、私にサジェスションを与えてくれました。このサジェスションによって、私は自分の対応について自信を得、自信を持ち得たために、繊細な身体で徹夜に耐えることができました。

切所の二は、昭和44年3月に発生した、学生及び学外者の集団による、共産党員学内拉致、監禁、リンチ事件です。被害者の救出のための対応は、学生会館横の陸橋を境界にして、学生会館側と教養部学舎側との間で、事を聞き伝えて集まってきた、そのあたりの空間を埋めつくさんばかりの学生及び学外者の群集の環視の中で行われましたが、夜を越すこととなりました。緊迫する空気の中で、夜中、相手方の拠点に入って交渉を行うには、大学の後事に対する配慮が必要でありました。その時、頭の中に、何の屈折もなく、極めて自然の形で浮かび上がってきたのが、山田さんの姿でありました。私は周囲の方に、山田さんに評議会、協議会の議長代理をお願いするように、伝達をお願いしました。

切所の三は、昭和44年7月の高倉山市街地造成地での「全学集会」であります。

学生や学外者によって大学建物の封鎖が行われており、「全学集会」に対する集団妨害が懸念されるという情勢のもとでは、集会の場を学外の適当な地に求める外はありませんでした。その地の選定と確保には難渋いたしました。ほぼ確実と見られた候補地も、最終段階で、周辺地の方の了解拒否に会いました。大学は孤児となってさまよいました。

その時、高倉山造成地を見つけてきてくれたのが山田さんです。

「全学集会」をまがりなりにも開催することができ、学生が大多数をもって封鎖解除と授業再開を求めていることを、集会妨害で混乱する中で、確認しえたことは、それから後の紛争収拾活動の展開に決定的な影響を与えました。

山田さんの学外社会活動の余沢が、高倉山造成地の発見と使用を可能にしたのです。

切所の四は、昭和44年8月から着手して45年6月に完了した、新「神戸大学長選考規程」と「同施行細則」の制定です。新規程に基づく学長選考は昭和45年6月から7月にかけて実施されました。この規程制定と学長選考は、学内的には、かねて多数意響の存するところと見られてきた、教職員、学生を含む大学構成員全体による直接選挙方式が採用されたことと、「新学長のもとでの大学改革の検討と実行」という体制が確立することから、既に設置されている改革準備委員会による改革案の発表とも相まって、事実上、大学紛争収拾の当面の決定的な最終打となりました。そういう役割を果たした学長選考規程とその施行細則の草案から原案に到る起草は、関係会議で期せずして、全員一致をもって、山田さんに委嘱することを決定したものであります。これを引き受けて、見事に任務を全うされた山田さんの労に対しては、今更ながら、全員とともに感謝の念を厚くするものであります。なお個人的にも山田さんに感謝している点があります。それは学長の選定は、協議会の権限に属することを示すために、特に用語の吟味をお願いした点であります。

山田さんはこの要請によって、「選定」という文字の外に、「算定」という文字を考え、この2つの用語の使い分けをしてくれました。

この2つの文字を使い分けた草案や原案は、評議会、協議会で、ともに承認を受けました。「算定」の文字を用いることについては、山田さんは不満であった様子でした。「選定」の文字1本で、学長選考の各段階における選考を表記してこそ、新選考規程の精神が生かされるのであって、「算定」の文字を加えたりしては、規程や細則の草案や原案の起草に、何のために骨を折ったかわからない、という気持を持っておられたようです。しかし山田さんはその不満を抑えてくれました。おかげで、私は後に起こった文部省からの新規程、新細則に対する非難と質問に答えるに、この2つの文字の使い分けの主旨を説明することをもって対応し、文部省の了解をとりつけることができました。

切所としては、なおこの外に、先に述べたリンチ事件を一つの契機としての暴力否定宣言、改革準備委員会の設置、情報委員の委嘱、学内情報の編集と配布、封鎖解除というような全学的切所があり、それに加えて、さらに、部局、部局での切所があるのですが、山田さんは他の部局長の方々と同じように、そうした切所にも対応されたのですから、敬務のほども推測でき、心身の負担のほども推察に余りがあります。

紛争処理に関する問題として、教員の国家公務員法抵触行為に関する審査と処分がありました。処分後、当事者の提訴に基づいて人事院の公平裁判が行われた際、それに伴って発生する不測の事態に対処するため、私は裁判に出席しないで、学内に待機することとし、法廷へは山田さんに私の代理人として出席することをお願いしました。この問題に関連する当事者再度の提訴によって開かれた昭和57年3月の公平裁判の時は、私は既に神戸大学を退職していましたが、この時も、大学は山田さんに学長代理人を委嘱されました。この裁判の結果、大学の処置に仮疵、欠陥なしとの主旨の判決があって、これで神戸大学の昭和43年激発の紛争は、激発後14年にして、漸く、未処理の問題を残さず、一切の処理を終了したことになります。

第1号紛争処理学部長の山田さんは、同時にまた紛争処理の最後の衝に当たった人ともなられる筈でありました。しかし山田さんは学長代理人たることを承諾されたのですが、それを実行することはされませんでした。山田さんは裁判の直前で倒れました。そして入院されました。病気は治癒したかのようでありましたが、潜伏していました。それは進行し、悪化し、山田さんは遂に起たず、到頭亡くなったのです。

山田さんは大学紛争収拾の切所、切所において私を助けてくれました。頼めば処理してくれました。紛争とは、直接、関係はありませんが、激動の最中にしばしば発生した教職員組合の要求の申し入れにも、私の要請を容れて介添人として話し合いの場に臨んでくれました。私は山田さんを自分を理解してくれる方であり、頼むに足る方であり、頼めば助けてくれる方であり、助けるとなると強力な援護を与えてくれる方だと、心の底から頼りとしていました。私のこの山田さんに対しての心の傾斜の中に、私の山田さんを同志と見る心が育ってゆきました。山田さんは大学紛争処理をともにした同志でありました。

山田さんは今年の4月をもって定年で神戸大学を退職されました。重い病気の身の中で、神戸大学教員を完全に任期満了まで勤め上げるのだと気力をはげましながら生きつづけてきて、遂にその成功を見届けた時、力尽きた。戦い抜いたその病は紛争収拾の激務が種子を蒔いたものであり、紛争収拾の激務を経験しなかったならば、かくも戦い抜かなくてもすんだ病であったかも知れません。私は定年退職まで気力を励まして病と戦いつづけて、定年退職を見届けた山田さんの死に、紛争との戦いの今一つの戦いを戦い抜いた同志の、壮絶ではあるが、誠にいたましい死を見る思いがします。

山田さんの亡くなった日は八月八日でした。この日は封鎖解除の日です。紛争との今一つの戦いを勝ち抜いた第1号紛争処理学部長が選んだ人生最後の日は、紛争収拾の最大切所ともいえる封鎖解除の日でした。私はこの山田さんの紛争とのつながりの深さに暗然たる思いがします。

山田さんは緑色のインキで、小さな文字で書きつづけたメモを作るのがお好きでした。私は8月8日の日記に、その山田さんの姿を偲びつつ、万腔の思いをこめて、山田さんと同じように緑色のインキをもって小さな文字で、

「第1号紛争処理学部長、封鎖解除の日、紛争の犠牲となる」
と書きました。

(註) このお言葉は、告別式に於て、戸田元学長が山田先生を偲び、その霊に切々と語りかけられたものです。その後、凌霜会機関誌「凌氷」に掲載されましたが、山田先生のお人柄、又紛争時に於ける御苦勞が詳しく語られておりますので、凌霜会員以外の方々にも読んで頂き度く、ここに転載させて頂いた次第です。

尚、転載に当り、凌霜会並に戸田先生に御了承をお願い致しました所、何れも御快諾頂きました。殊に戸田先生には、「凌氷」誌の為に別に一文を草してやろうと、御多忙の中、時間をさいてお書き下さいました。それが、次に掲載の「山田さんを偲んで(その二)」です。(石井記)

山田さんを偲んで(その2)

元神戸大学長 戸田 義 郎

石井さんからの御懇望で山田さん追憶談が「凌氷」に掲載されることになりました。この追憶談は紛争時に山田さんが私のために払って下さった犠牲的御苦勞を偲び、改めて深い感謝を捧げるといふ個人的な立場からの追憶になっています。しかしそれだけに止まらず、私としてはさらに神戸大学人としての立場で、参葬の皆さんに山田さんが紛争時に大学のために尽された献身的な御貢献を知って頂き、神戸大学関係者として感謝して頂けたらという願いと、神戸大学の紛争の収拾、研究、教育活動の中断の回復、人心の荒廃からの立直りは、人の死も犠牲として達成されたものであることを記憶して頂きたいという願いをこめたものでもありました。けれども自分の能力の不足と

15分という時間制限のために、意を尽さない点が多く、誠に恥づかしいものとなりました。そこでこの「炭泳」への転載の機会を借りて少し言葉を加えさせて頂きたいのですが、お許し下さい。

追憶談で触れた点でも山田さんの御苦労が容易でなかったことが御察し願えると思いますが、山田さんにはなおそれ以外に法学部長としての仕事があり、それから来る心身の負担も大変なものでありました。大学には評議会、協議会があって全学的問題の処理方針や方法の検討に当たりますが（現在では協議会はありません）、学部長は役職上当然評議員、協議員となります。他に各部局から選出されるものを加えると、評議員、協議員は30数名に達します。煩わしくなりますから、以下、評議会、協議会は評議会とのみ申すこととしますが（評議員、協議員についても同じ）、紛争への対応のために評議会は頻繁に開催されました。紛争最盛期のころの8か月間には、平常の3年分余に相当する回数の評議会が開催されたと、当時、ある評議員が話されたことがあります。その評議会は大学会議室という一定の場所で、3時間ばかりの平均会議時間をかけて開催されるといったのではなく、不法占拠された大学の外の市内のレンタル・ルームをその都度探しまわり、転々と会場を設営し、5時間、6時間の長時間をかけて会議するのですから、開催回数の激増という以上に、会場への往復にも負担が加わり、会議の内容も密度が濃厚であり、外食の増加で食費の個人負担が重加する有様で、評議員や大学本部事務職員の労苦は非常なものでありました。評議会開催前にはあらかじめ問題点について検討を加えておくため、学部長及び教養部長、研究所長、図書館長、病院長より成る部局長会議が開かれますが、この会議には紛争処理以外の経常的業務の執行上の連絡や協議も行なわれます。部局長にはその上にお自部局の部局単位での紛争への対応や、経常的業務の処理のための、部局役職者会議や部局教授会（教授会のない部局もあります）を召集、司会しなければならぬ大役があり、超激戦といってもなお余りがあるのが当時の部局長職の実態でありました。犠牲者が出ないことを心の底から祈り続けていましたが、果して避けることが出来ませんでした。これは後に述べます。案じていた部局長さんの御家庭にまで犠牲は及びました。山田さんは法学部長としてのそういう超々激戦の上に、まだ追憶談で述べたような仕事まで負担して下さいましたのです。

法学部長としての山田さんの学部単位での仕事については法学部の先生に説明して頂くのが最適であることは言うまでもありません。しかしここで私は数ある山田さんの仕事の中で一つだけを御紹介しておきたいと思います。それは山田さんが、法学部が最後まで法学部長代行（正式の職名は法学部長事務取扱）を置かないで紛争を乗り切ることに、学部教授会をまとめてゆかれたことです。当時、評議会は学長選考規程の検討を約束していましたが、ほとんどの学部（教養部をふくむ）がまた学部長選考方式の検討を考へており、それまでは学部長代りを置くことにして、学部内を説得、対処していました。そういう状況の中で、法学部がその必要なしとして姿勢を買かれたことは見識であります。同時にそれは山田さんの信念の貫徹でもあり、また山田さんの手腕のあらわれでもあります。

心身の過労から来る健康障害の態様は、人の体質によって違いがあります。過労だから心不全とはきまっていません。山田さんの場合は追憶談で申しました通り、まず消化機能の障害となつてあらわれました。また、発生した健康障害は一旦回復したかに見えて、時をおいて再発することもあり、別の障害を誘発することもあります。山田さんは先の入院の時とは違った病名で亡くなりましたし、その病気は先の入院からは相当時をおいて発病となったものでありますが、私は追憶談でも、またここでも記している通り、山田さんの超激戦を知るだけに、後の病気は先の病気で障害を受けられた体調の弱体化によるものと思っています。山田さんがあの超々激戦に就いていられなかったら、水泳で鍛えられた体質をもってして、あのようによく早く亡くなられることはなかったに違いありません。

紛争の最中、丹波経営学部長は心筋拘塞で急逝され、家森医学部教授（評議員）は神経性潰瘍と思われませんが、入院のまま遂に再起されず、佐々木経済経営研究所長は奥さんの発病を見ながら看護の手を十分に差しのべることが出来ず、夫人は不帰の客とされました。紛争中に病を発し、紛争後、それが再発又は他の病を誘発したかして、嘉納図書館長は幽冥境を異にされ、そうして山田さんもその例となりました。紛争中の発病以来、今日なお医療を続けていられる方には、林名誉教授、大竹名誉教授、その他があります。

紛争の收拾はこれらの犠牲の上で達成されたものであります。犠牲とされている方々は、いずれも神戸大学が誇る日本学界を代表する学者であり教育者でもあります。紛争の功罪については議論の余地もあるでしょう。しかし神戸大学が紛争によって、貴重な、取返しのつかない大損失を蒙ったことと、その大損失の上に紛争は收拾されたことは隠れもない事実です。犠牲者を悼むとともに、感謝の念を持ちつづけて頂くことをお願いすることが出来るならば幸甚です。

山田先生を悼む

凌泳会会長 小山賢之助（昭7学）

私が山田先生と親しくおつきあいを願う様になったのは、故古林前凌泳会々長の追悼ビアーパーティー以来のことである。先生は昭和28年水泳部長に御就任以来、毎年の総会は勿論、月見の宴、対外試合等必ずお見え下さって、現役部員の面倒を見て戴いたと、承知していたが、私は凌泳会々長に就任したとはいうものの、関東在住なので、関西に出掛ける回数が少なかったが、部長の山田先生が之を十分にカバーして下さいました。私は先生に常に感謝の念を懐いており、少くとも毎年5月に開かれる総会だけは必ず出席するよう努力した。先生も必ず出席されるので、毎年お目にかかってお話しをするのが楽しみであった。私が会長就任して以来お亡くなりになるまでの間に色々な思い出があるが、特に思い出されるのは昭和53年5月のことである、この年はあたかも母校創立75年に当たるというので、凌泳会としても年次総会とは別に凌泳会全国大会を開いた、5月13日に大学全体として校庭に園遊会式場をしつらえたのであるがその中に凌泳会も会場（テント一張）を

設けてあったので水泳関係以外の人も三々五々訪ねて来て旧交を温めたのであった。その時丁度白山源三郎先輩も見えたので、山田先生との両先生から水泳の話をきっかけに私は色々御話を伺うことが出来た、山田先生は、昭和26年7月から昭和28年9月迄ロンドン大学に居られたのであるが、私は昭和28年7月から昭和29年5月までロンドンに居たがロンドンでは残念ながらお会い出来なかった。当時、英国ではまだ植民地は独立しておらず、又英国病にまだかかっていなかったもので、その時の英国についてのお話を、うけたまわったのであった。又先生は浦和高校の水泳部に居られたのであるが、私も私と同時代の同校の水泳部の人を2名ばかり知っていたので、(勿論先生とこの2名は連絡はなかった)旧制高校の水泳部に関して色々お話を、うかがったのであった。ところが園遊会の翌14日、OB有志の間で、山口仁郎君所有のヨットで家島諸島の内の男鹿島の民宿で魚の「生造り」を食に行こうということになった。参加者は、山口君を始め石井義章、野田浩志、萩原武の諸君と山口門下のクルー高橋輝子さんであったが、ヨットに尚収容力があるので、誰かOBに参加して頂くかということになったが、各地から来た先輩は皆地方に帰ってしまっているので山田先生を呼んではどうかということになった。私は私なりにこんなパーティにお偉い部長先生が御参加下さらないのではないかと懸念していたが、石井君以下はそうは思わない、必ず来て下さるだろうと言う、果して先生は招きに応じて来て下さった。

菱泳会は古林先生を失って大きい打撃を受けたのであるが、私は山田先生が会員と「ツーカー」の間柄にあるのを知って一驚すると共に神大水泳部は善い部長先生に恵まれたと、心から水泳部のために万歳を叫んだのであった。

私は昭和33年であったか、大正海上人事部長時代、僅かな厚生部等の内から大枚25万円を投じて、シーホースというヨットを購入し、ヨット部長になったのであるが、このヨットは競技用で、ヨット部の女子部員の中には泳げないのもいるというので部長を押しつけられた様な次第で、楽しいクルージングなどというものをしたことがなかったが、このクルージングは、山口名スキッパーのお蔭で実に楽しいものとなった。山田先生は、全く特別会員という、「上下(かみしも)」を脱いで菱泳会の一員として御参加下さったので私共はクルージングを十二分に楽しむことが出来た。

次に思い出されるのは昭和56年3月に開かれた、兵庫水泳連盟創立50周年のことである。兵庫水連は昭和6年創立で、46年の40周年は大同海運出身の吹田会長(関学OB)が客船のサロンで記念式典を行ったが、50周年は神戸外人クラブで開催された。

関西の各府県の内、大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山はかつて高石勝男氏が日本水連の関西支部長当時、ブロックを形成するという特別な関係にあったから、主催者兵庫を除く四府県の水連代表も友好団体として招待されていたが、神戸の外人クラブK.R.A.C.(KOBE REGATTA & ATHLETIC CLUB)の代表者も来ておられ盛大なパーティとなった。

関東からは野村弘君と私が参加したが、昔の功労者は既に40周年で表彰されていたので、50周年で表彰されたのは主として兵庫水連の現役の方々であったが、各方面のOBの中で最も多数出席したのは山田先生を部長とする菱泳会であった。中でも先生はK.R.A.C.のダウン氏と「楽しみに談笑しておられた」言葉の関係から余り他の人の寄りつかないという事情もあって氏の

相手は主として先生が当られた。通常こういう会合には体育の先生は別として、学問の先生が出られるような、大学運動部は名門とされている。神戸大学水泳部はまさしく名門校の仲間入りをしたのであった。

1985年には神戸のポートアイランドを中心にユニバーシアードの世界大会が開かれる。その水泳の役員の中に多数の愛泳会々員が参加しているが、之は吹田兵庫水連会長がこうした神大水泳部とOBの実力を高く評価された結果でないかと思う。

山田先生が部長として、30年の長きに亘って御世話下さった水泳部を益々発展させることが、残された私共の責務であると思う。

それでは山田先生！ 思い出は尽きませんが、安らかにお眠り下さい。

以上

心のこり 山田先生を偲んで

愛泳会副会長 吉野 栄(昭15学)

それは、昭和53年9月の月見の宴の時でした。永年の御無沙汰の御詫びにと数十年振りに出席したプールサイド。其処で山田先生に始めて御目にかゝり、初対面と云うのに、暮れなづむプールサイドで熱っぽく語り合いました。そして最後に新しいプールの建設をどうしても遂行し度いと、心底から水泳部を思う真情を吐露されました。此の先生の熱意にほだされたとても申せましょうか、小生の水泳部へののめり込み、疎遠のOB間の親睦をと、愛泳会全国大会招集への傲を飛ばす事になり、やがて56年5月24日全国大会総会が開かれ、心ならずも副会長を引き受けるはめになりました。引続いて金竜閣での宴会。OB達の晴れやかな顔又顔、山田先生の元気を嬉しさ一杯の温顔。それは記念写真と共に、今だに脳裡に焼きついています。一致団結の意気は燃え上り、やがて57年7月24/5日の旧三商大50回大会での優勝となります。体育館での盛大なミーティング、先生はどんな気持ちで居られたか、記念写真にその御姿を見付ける事は出来ません。その年の月見の宴は頗る盛会でした。共に盃を上げる先生はなく、いたゞまれぬ想いで、12月14日、神戸中央病院に石井君と御見舞に上りました。面会謝絶のまゝ持参のカトリアに思いを託しました。今に元氣な御姿にと希望を抱いていたのですが、翌58年7月17日旧三商大戦で念願の完全優勝を遂げ、何れ直々に御報告に参上と考えていた矢先の8月8日、とうとう帰らぬ人となりました。8月24日の告別式は水泳部現役諸君の心からの奉仕の中に盛大にとり行なわれました。正面に飾られたあの温容の御写真、“良くやった”と今にも語りかけられる様でしたが、心なしか一抹の寂しさ。それはプール建設への果せぬ夢への心のこりではなかったでしょうか。

山田先生への記念品贈呈への呼びかけに寄せられた皆様の御芳志を未亡人に御渡しする悲しい役目を石井、岡田両名共々、12月18日に果たす事になりました。冬晴れの寒い日でした。渦ヶ森の御宅では未亡人が我々を待って居られました。そして楽しかった先生との思い出話に一時を過しました。一年前の12月14日中央病院の先生を御見舞した時持参し、しおれても捨てるなど愛し

んで下さった、あのカトレア、ポナンザ“コルヌコピア”を今日又、霊前にお供え致しました。つきぬ名残を惜しみながら辞し去る庭前に先生遺愛の植木の数々が、ひっそりと。そしてサツキの一鉢にこぼれ咲きの一輪が。思はずジュベテローゼンと独りごとを洩らしました。（合掌）

山田先生の思い出

石井義章（昭27学）

私は今、昭和52年度の「夔泳」を手にかけています。表紙にはジョッキをかざされた古林先生が黒枠の中で微笑んでおられます。巻頭には山田先生の筆になる「告別の辞」が掲げられています。

あれから7年、今又山田先生の追悼特集号を編集しようとは誰が予想したでしょう。ありし日の先生の面影が私の脳裡を走馬燈の様に駆け巡ります。いつもニコニコと微笑をたたえ、耳を傾けないと聞き落しそうな小さな声で話された先生。山口君のヨットで家島群島に遊んだ時の若々しい先生。次々と思出は尽きませんが、そのすべてを書いては、いくら紙数があっても足りません。その中で2～3、私の心に残っている山田先生像について書いてみたいと思います。

私は昭和27年の卒業ですから残念乍、先生の講義を聞く機会はありませんでした。初めて先生にお目にかかったのは何時の事か思い出せませんが、私の心の中に定着した先生像は、背広をキチット着て、物静かで、几帳面で、いつも口元に微笑を絶やされない、やさしい方という事です。

何年の事か忘れましたが、確か、三商大戦が六甲台プールで行われた時の事です。先生が婦人同伴でお見えになった事がありました。「あれは誰？」と学生に尋ねますと奥さんですとの事。古い事は知りませんが、恐らく奥様同伴で応援に来られた水泳部長は、山田先生が初めてではないかと思えます。先生は一所懸命、水球競技のルールとか試合の仕方を説明しておられました。誠に微笑ましく、先生の明るい御家庭が偲ばれる様で、心温まる思いがした事を今もはっきりと思い出します。

これも何年の事か……。やはり六甲台の試合で、予定の時間が来ても先生がお見えにならないので、止むを得ず年嵩の私が開会の挨拶をし、競技を開始しようとした所へ、先生が自動車で駆け付けて来られました。何か急用が出来て遅れたとの事でしたが、真夏の暑い日でしたのにネクタイを締め、背広を着込んでおられました。大会々長としてのエチケットを重んじられる先生の厳しい姿勢を見る思いがして、ポロシャツ1枚で出て来た自分が申し訳ない気がしたものでした。

今一ツ、昭和56年3月、兵庫県水泳連盟創立50周年記念式典が、神戸の外人クラブで開催されました。神戸大学関係者は、小山会長始め、野村弘、宮本伯夫両OB、それに山田先生も招待を受けられ、私も末席を汚しました。

式典が一段落し、次の懇親パーティに移る間、しばらく時間がありましたので、夫々顔見知と雑談していました。所が先生は、当日唯一人の外人参列者であるダウン氏（昭和初期、水球競技で日本選手権に優勝したK.R.A.C.チームの一員）と親しげに話しておられます。「ダウン氏と

はどんなお知合なのですか」と後で尋ねた所、「いや、今日が初対面だよ、話相手もなく一人ボツンとしておられたから話しかけただけだ」との御返事。私は改めて先生の御配慮の細かさと、そのやさしいお心使いに深い感銘を覚えました。尤、これも先生が英語に御堪能だったから出来た事、吾々ならいくら気がついてでも真似の出来ない所です。

最後にこれは夙泳にも書きましたが、先生は六甲台プールの改造につき、大変気にしておられました。今のプールが50年も経つ古い物で、水漏れはするわ、木の葉が落ちてすぐに水は汚れるわ、第一開学当時僅々数百人の学生を対象に作られたプールが、今や1万人の学生を擁する総合大学となっているのに、そのまゝでは無理だ。水泳部員も常時40～50人を数える様になり、練習も尻ならない。これは何とか根本的に考へ直さねばならぬ時に来ている。自分の在職中に改造なり、新設なり何分の目鼻をつけておき度い。と機会ある毎に口にしておられました。これは吾々としても願ってもない事、是非実現させて頂き度い。若し、夙泳会が募金等側面的に動いてよいものなら大いに協力したいと私なりの意見を申し述べていたのですが、その直後、御病気になられ、遂にお目にかかれぬまゝ、昨年4月の定年退官を待つ様に逝ってしまわれました。

まだまだ長生きして頂き、新しいプールで御一緒に泳げる日の来る事を夢見ていましたのに、返す返すも残念です。今は唯先生の御冥福をお祈りするばかりです。亡き先生を偲び、取り留めもない事を書きました。

先生、やすらかにやすみ下さい。

合 掌

昭32J 松 田 司 朗

私が山田先生にお会いしたのは昭和29年の秋六甲台のシニア課程に移り、先生の行政法を受講したのが初めての出会いと記憶しております。古林先生が丁度学長に就任せられ「学長が一部の部長を兼任するのはまずいので学長の間だけでも適任者はいないだろうか」と云う古林先生のお話を聞き、時々我々の練習風景を御覧になる山田先生を見かけていましたので、私の発案で古林先生にその旨申し出ますと、古林先生も「それはいいのでは」と云われましたので私がたまたま同じ学部でもあり、山田先生に是非後任をとお願いに参った所心よく快諾して頂き、爾来三十年近くも我々の部をお世話頂きました事を今度のお便りで知り、本当に感無量なるものがあります。当時山田先生は30才も前半でそのたくましいお身体でたまには泳いでおられました。その端正な顔立ちと端正なクロールを覚えております。当時まだ六甲ハイツがあり米軍家族がプール西側等に居住しておりそこから米人の子供や小中学生がよくプールに遊びに来ておりましたがその時先生の流暢なキングズイングリッシュを聞いたのを昨日の様に覚えております。

本当にお世話になりました。ここに先生の御冥福を皆様と共に祈り致します。

(昭35. B8) 村岡英樹

山田先生の熱い情熱を抑えられた温い眼差しを想い出します。本当に清潔で男らしい先生でした。先生さようなら。

(昭37. T10) 萩原武

はるか九州の地より、なき先生の御冥福を祈りおります。波乱の年月を経て迎えられた安らぎもつかの間、還らぬ人となられた先生、どうか安らかに……………。

(昭40. T13) 丸山昱也

年下の者が年輩者の訃報に接しその追悼文を書くのは序列からして当然のことだが山田先生の場合は悲しい。

在学中雲の上の存在であり学部も異なる先生から御面識を載くことになり、兄を通じてあつかましくも僕の結婚の仲人の労を取って下さるようお願いしたところ快諾して載いたことは、今思えば若気の至り、猪突猛進の類いで冷汗三斗の感がする。

大学紛争時に学生相手の交渉役を引き受けられ奮闘されたことは御自身からも聞かせて載いたし先生の告別式の弔辞にもあったが先生には優しさに裏打ちされた男気、俠気があったようだ。我々の仲人役を引き受けて下さったこともそうだし、僕達新婚夫婦が姫路で挙式後新婚旅行へ出発時、面倒な役割を終え帰神される先生御夫妻と偶然同じ特急に乗ることになった時もそうであった。先生方は勿論グリーン車、我々は普通車である。発車後すぐ御夫妻が我々の乗っている車輦に見えられグリーン車とかわってあげよう、車掌にも言うておいたから、とのこと。恐縮しながら生れて始めて座った特急のグリーン車の椅子の座り心地の良さと先生の暖かい心尽しは忘れない。

先生に対して英国紳士なる言葉があるが領けない部分もおありだ。僕の洒落が全然通じなかった記憶が一、二度あるからだ。それは渦ヶ森の御宅へ家族を連れてお伺いし、先生がめがねの向うで目を細めながら手許では初めの時機はパイプを後年は紙巻煙草をもて遊ばれながら法律談義を工場技術者の僕に実にひそやかな声でされる、そういう会話の合いの手に僕が口をはさんだ時のことであった。

八月九日、新聞の誤報に騙され午後2時すぎに渦ヶ森へ駆けつくと既に密葬はすんだあと。惘然と立ちすくんでいると間もなく御遺族が戻られ、お蔭で奥様、御令息と親しく会話ができた。今日になって考えてみるとこの誤報は久し振りに親しくお話しするために運命が仕組んだように思えてならない。心ならずも入院御見舞に行っていなかったから。

世は権威の失墜時代であると思う。大臣、高級官僚、裁判官、教師、警察官、役人等々。大学教授も然り。然し先生は最後の大学教授であると思う。

先生の御冥福を祈ると同時に奥様がこの悲しみから早く立ち直られることを祈ります。

(昭57. E30) 後 藤 芳 光

山田先生の思い出。テストの1週間程前にたまたま部室に来られた所、「答案用紙の最後にカッパのマークを書いておきなさい」とおっしゃられ、素直に書いていたところ、しっかり良を頂きました。

先生御冥福をお祈り申し上げます。

以 上

山田先生を偲ぶ座談会

8月9日、御自宅に於ける密葬の後、参列したOBが、住吉川のほとり、「ロイヤルホスト」に集まり、先生の思い出を語り合いました。誰の発言か記憶が定かではありませんのでABC……とさせて頂きました。

(出席者) 石井義章(27学), 岡村司(34J), 宇賀史郎(35E), 岡田重義(37B)
佐敷定雄(49A), 酒井正人(53A), 村田邦夫(53J)

◇

◇

◇

- A) 本日は皆さん、お暑い中、先生の御葬儀に参列頂き有難う御座いました。しばらくここで汗を入れながら先生を偲んで思い出など話合おうではありませんか。
- D) 本当に残念ですね。63才だったそうですが昨今の年令ではまだまだ若いですからね。
- C) それに先生は、お年よりずっと若く見えたり、お身体も頑丈だったのにな。
- D) 今春、大学を定年御退官になり、それに伴って水泳部長もおひきになったので、謝恩会を開きたい。その為にも是非御病気の全快を祈っていたのにな。
- A) 今年の凌泳総会でもその事が議題となり、謝恩会が先になりそうなら、不取敢記念品でもお贈りして感謝の意を表してはと話合ったのですが、何分御入院中の事とて、何が良いか名案も浮ばぬまゝ、保留となり今日まで来てしまいました。まさかこんな事になるとは思はず、何とも残念です。
- C) 先生には何年位部長をお願いしたのかな。
- A) 古林先生が学長になられたのが28年の暮で、その折、学長が特定の部の部長をやっているのは公平を欠くとの御配慮から、山田先生にバトンタッチされたと聞いているから、29年からでしょう。
- B) そうすると約30年、随分永くやって頂いたものですね。
- D) 歴代水泳部長の中で一番永いんじゃない。
- A) 古林先生がその前の北村先生から引継がれたのが昭和15年と聞いているから、13年間。北村先生は大学に昇格した昭和4年からだそうだから、11年間。実にこのお二人を合せたよりもまだ永い訳だ。

- B) 先生の神戸着任が25年で、部長になられたのが4年後。御年33才、正に新進気鋭の学究だった訳だ。
- A) 私にとって先生は非常に物静で几帳面で、いつもニコニコと笑顔を絶やされない、やさしい方と云う印象が強いね。
- G) しかし、先生仲々ビールがお好きだったんですよ。お茶代りと云った感じでグイグイ飲まれ、それにピッチが早いで参った事がありますよ。こちらが一口か二口飲んでる間に、先生のコップはもう空になってるんだから。
- A) そうだってね。昨晚お通夜に行っておさんから伺った話だけど、麦茶をコップに入れて持っていくと、「おい、このお茶、泡が立ってないぞ」なんて言われたそう。
- B) 古林先生もビールがお茶代りだったけど、新部長の犬童先生はどうなのかな。
- G) 犬童先生もお強いですよ。どうもビール好きは水泳部長の伝統の様ですね。
- A) それから、これも昨晚伺った話だけど、先生は最後迄学生時代の気持で居られた様で興がのると寮歌など大声で歌はれたそう。御近所に旧制高校出身の方がおられて、寮歌集のレコード聞きにいらっしやいと誘われて出かけられた所、夜も更けてから二人で大声で寮歌を放吟しながら帰って来られたそう。近所の方が、何かと窓を開けて見るし、身の縮む思いがしたと話しておられた。そんな先生は僕には一寸と想像出来ないね。
- E) 大学紛争時代(昭和43~44年頃)先生は随分御苦労なされた様です。中には逃げた先生もあつたらしいが、山田先生は敢然として正面から立向かかれ、全力でブチ当たられたそうです。
- A) とにかく何事も真面目に取組み、いい加減な事で放っておけない御気性だった様だ。これについて面白いエピソードを聞いて来た。或る時、先生が、英語、独語、仏語の辞書をひっくりかえして「おかしいな、無いな」とつぶやいておられたそう。奥さんが「何を探してらっしゃるのですか」と尋ねられると「最近耳にする、アデランスと云うのがどういう意味か調べているのだ」といはれたそう。正に世俗を超越した学者先生の面目躍如といった話だね。
- F) 先生は浦高時代水泳選手だと聞いているけど、どの程度泳がれたのかな。
- E) そういえば、プールサイドにはよく顔を見せて頂いたけれど、泳がれた姿は記憶がないな。
- B) 古林先生がすぐ裸になって飛込まれたのと対症的だな。
- D) 相当ビールを飲んでから「さあ泳ぐぞ」と水着に着替えられるのだから。傍で見てる吾々の方が、ハラハラさせられたな。
- A) 奥様にも遂にタイムは話されなかったそう。唯、戦前のインターハイに出場し、神宮プールで泳いだ事を非常に誇りにしておられたそう。
- G) 昨今はタイムのレベルが変ってしまって、知らない人は、そんなタイムは小学生並だなんて思いかねないものね。
- F) 何せ、戦前のオリンピックの優勝タイムを中学の女の子が上回る御時勢なんだから。
- C) 今日、現役の水泳部員が沢山参列してくれたのは嬉しかったな。
- E) 丁度、明日から、全国国公立戦の為、広島へ立つ所で、今日午前中、最後の仕上げをした後、

全員で来てくれたんです。

- B) 御出棺の折、水泳部員が棺を抱えて出て来たが、先生もきっとお喜びの事だっただろうな。
- E) 藤井正太郎先生の際は僕が現役の頃で、棺を担がせて頂きました。藤井先生は重かったな…。
- D) 古林先生の際は誰が担いだの？。
- B) あの時は、例のミュンヘン五輪の金メダリスト田口選手などが担いでたな。
- A) 何といっても残念なのは、先生がプールの新設或は全面改造を考へているのだといっておられたのに、その直後から入院されて、遂に実現しなかった事。先生もお心残りの事だろうけれど、吾々も絶好のチャンスを逸した思いだ。何とか御遺志を継いで実現したいものだね。
- C) 凌泳会が音頭取って、プール改造キャンペーンでも展開しますかね。
- D) 今の場所を掘下げて、三階建室内プールでも作り、合宿もミーティングも出来る様にし、古林先生が口癖の様にいっておられた、1年365日泳げる温水プールが実現すると素晴らしいね。その時は、「古林、山田記念プール」とでも命名してさ……。
- A) さて、話してれば、いつまでも名残はつきないけれど、これから会社へ戻る人もあるし、そろそろこの辺で、お開きにしましょうか。皆様どうも御苦労様でした。

(文責 石井)

山田先生謝恩追悼募金御報告

先に小山会長が発起人代表となって、お呼びかけ頂きました、山田先生に対する謝恩追悼募金につき、御報告致します。

募金趣意書にもあります通り、30年の永きに亘り、水泳部長として格別の御尽力を賜りながら、晩年、病を得られました為、何のお礼も出来ぬまゝ逝ってしまはれました先生に対し、せめてその御霊前に吾々の感謝の気持をお供え致し度く、募金を行った次第です。

結局、105名の方々より合計384960円の浄財をお寄せ頂きました。この収支明細につきましては、末記、会計報告欄を御高覧願います。

さて、記念品として何が良いか、その選択に苦慮致しましたが、小山会長並に吉野、山口両副会長より、御意見或はサジェスチョンを頂き、又、幹事諸君とも相談の上、スランスは、サン・ルイ社製、クリスタルガラスの花瓶に決めさせて頂きました。先生と吾々を結ぶ最も強い絆である水にゆかりを求め、コバルトブルーに採色された、高さ約30cmの物です。又、別に現金10万円をお包みし、去る12月18日、吉野副会長、岡田重義幹事と3人で、先生のお宅を訪問、その御霊前にお供えして参りました。

奥様は、永い間の御看病と、悲しい結末からの御心痛で、一時体調を崩しておられましたが、この日は御気分も良ろしい様で、御長男、英男様も交え、約2時間、お写真など拝見しながら、亡き先生を偲んで思い出話などさせて頂きました。奥様からも夙泳会の皆様に宜敷く伝えてくれる様にとの事で御座いました。

以上簡単ながら御報告とさせて頂きます。

(石井 記)

特別会計報告

〔収入の部〕

384960円 105名

〔支出の部〕

30,000円	御香料(夙泳会)
48,000円	供花料(夙泳会 水泳部)
	しきみ 2対 8,000 - 盛花 2対 4,000 -
21,650円	計報並に募金印刷費
4,960円	通信費(切手代)
160,000円	記念品(花瓶)
100,000円	お供(現金)
20,350円	追悼号印刷費に繰入

計 384960円

(注) 換出者御芳名は別掲一覧表を御参照願います。

尚、岡田幹事の方で取まとめてくれました、供花料としての募金もこの一覧表に合計で計上しましたので、御了承願います。

礼 状

昭和59年1月8日

吉 野 栄 様
御待史

山 田 治 子

今年は例年になく、暮からこの方、お寒さ酷いお正月でございましたが御一統様お揃い慶き新年をお迎いの御事とお喜び申し上げます。

昨年暮には、ご多用の中をわざわざ御光来下さいまして、競泳会水泳部の皆々様の過分の御厚志を御恵与賜わりましたありがとうございます。また、水色のクリスタルの輝きを拝見いたします度に、主人を偲び、皆々様の面影を想い浮べさせていただいております。私共の方こそ、長い間の御交誼による楽しい思い出をお与え下さいましたことと、告別式の折の御助力を深謝申し上げますのに、恐縮に存じております。厚く御礼申し上げます。

未整理の写真を取り出しますと、競泳会、水泳部の皆々様とのスナップが沢山出てまいりました。体力に恵まれ健康そのものでした主人の明るい笑顔を次々になつかしく眺めております。

多忙にまかせまして、行き届かぬ点、やり残しましたことも多いことと申し訳なく存じますが、本当に皆様のお蔭で、主人も万年青年の心を保って良き人生でありましたことを、ありがたく、改めまして長い御厚誼に心よりの御礼を申し上げさせていただきます。

どうぞ小山様はじめ競泳会の皆様、水泳部の皆々様に、感謝の気持をお伝え賜わりますように御願ひ申し上げます。

末筆になりましたが、皆々様の御健勝とますますの御健闘と御活躍を心より祝福申し上げます。

かしこ

大阪水泳協会創立70周年に思う

小 山 賢 之 助

近代オリンピックの創始者、フランスのクーベルタン男爵がオリンピック運動の一層の発展策として、アジアにおいて日露戦争に勝った日本に着目し、アジア代表として日本に対し、正式にオリンピック参加を求めたのは1909年(明治42年)であった。男爵は駐日フランス大使を介して、「オリンピックには東洋からは未だ委員も競技者も参加していないが、東洋諸国を代表してオリンピックに参加しないか」と日本の嘉納治五郎氏に正式交渉が持ち込まれた。日本代表に嘉納氏が選ばれたのは、氏が当時既に講道館柔道の創始者として令名あり、又東京高等師範学校の校長(明治35年発令)として、同校生に長距離競走を奨励し又、明治42年以来毎年夏房州において水泳を行わせていたことによるものであった。又男爵は氏に対し、I O C委員となることを求め、オリンピック大会参加について必要な推薦母体及び組織について指示するところがあった。嘉納氏はこの招請に応じ自らI O C委員となるとともに、1911年(明治44年)7月日本体育協会を創立した。

日本体協は、1912年(明治45年2月)三島弥彦(東京帝大、陸上短距離)と、金栗四三(東京高師、マラソン)とをストックホルム、オリンピックに派遣した。

1913年(大正2年)2月、比島(ヒリッピン)から、日本体協に対し、極東大会をやるから日本も参加せよと熱心を勧誘があったが、体協は積極的に動かず、明治大学野球部と大阪毎日新聞の選んだ陸上選手2名とが参加したのみで総勢僅か20名であったが、之に対し比島80名、中国約40名で、日本は第3位に甘んじた。

こうした国際状況に対応するため、大正2年9月、日本体協は規約を改正して、嘉納会長を補佐する副会長として、武田千代三郎氏を選任すると共に総務委員8名、評議員22名を選任したが、この両役員に水泳として本田存氏の名が見える。本田氏は東京高師教授であると共に水府荒太田派の家元であった。

武田副会長は明治22年東京帝大法科を卒業、在学中英人ストレンヂ氏の指導を受けた東大運動会の先達であった。

1915年(大正4年)5月、上海において第2回極東大会が行われた。参加者数は中国200名、フィリッピン90名に対し、日本は僅か10名で、出場者はそれぞれ健闘した。例えば水泳の場合、鶴飼弥三郎氏1名であったが4種目に優勝、12点を獲得した。然し全体としては多勢に無勢、再び第3位に甘んじた。鶴飼氏は横浜在住で横浜の外人クラブでオーストラリアンクロールを会得していて、始めはクロールで後は片手で泳いだという。

1916年(大正5年)はオリンピックイヤーであったが、欧州大戦のため中止となった。

1917年(大正6年)5月第3回極東大会が東京で行われた。日本は極東大会で始めて全種目に出場し、日本120点 比島80点 中国49点で初めて優勝した。特に水泳では総点48点の

内42点を獲得した、神戸高商の白山源三郎氏は日本チームのポイントグッターの一人であった。

1919年(大正8年)5月、比島はマニラにおいて第4回極東大会を開催すると通知してきた。東京の体協では5月では選手の大部分が学生であるので、8月に延期され度いと要求したが容れられなかったので、3月17日 極東大会よりの脱退を声明した。この旨を知った大阪在住の武田副会長は、「極東大会出場を目標に練習をしてきた選手達が可哀そうだ」というので、「日本青年運動クラブ」を組織して主催国比島に対し、少数選手団でも参加を認めて欲しいと提案した、比島がえを承認したので、日本は 陸上12名(内3名水泳と兼務) 水泳 4名(内3名陸上と兼務) テニス 3名の計16名を選抜して、5月比島に派遣した。競技の結果は比島が第3回の日本に優るとも劣らない圧勝を遂げた日本選手団で、水陸兼務選手の中に神戸高商教員多田徳雄氏、テニス選手の中に岡誠治氏(神戸高商、明治45年卒)の名が見える。水泳の専門選手としては、内田正練氏と白山源三郎氏が推薦されたが、白山氏は文部省の官立学校生の参加禁止方針のため参加出来なかった。内田氏は参加して3種目に優勝して9点を獲得した。

大会終了後、日本国内の世論は脱退を通告した東京の体協を非難し、むしろ大阪の関西支部長武田千代三郎の率いる日本青年クラブの母体である大阪市体育協会を支持した。又比島の体協は極東大会の日本における選手推薦母体として、大阪体協を認知した。この大阪体協の代表権は昭和9年まで存続した。

大正10年5月第5回極東大会が上海で行われたが、前回にこりた日本は、関東、関西合同して大選手団を送った。当時の委員長は関東の岸清一氏、副委員長は関西の木下東作氏であった。

大正8年7月、日本体協は大阪体協を正式に体協の関西支部とする規約を制定し、事務局長に武田副会長を任命した。その時武田氏は大阪市立高等商業学校の校長であった。

当時の事情について田畑政治氏は、体協時報1977年12月号「スポーツと共に半世紀-3」において次の様に述べている。

「第4回極東大会、大正8年マニラは比島との間で日程が折れ合わず、日本は不参加を表明した。……結局は日体協関西支部長武田千代三郎氏が中心となり……日本青年運動クラブを作って関西から16人の有志(水泳は内田正練君ひとり)が参加して、もめ事は一応収ったが、このようなトラブルはしょっちゅうだった……これがのちのちまでも日本スポーツ界に禍根を残した」と書いている。

大阪体協は大正2年に設立されて居り、その水泳部会である大阪水協も同年(1913年)に設立されているので、1983年(昭和58年)が創立70周年に当る。

大正2年大阪水協の役員となった茨木中学の杉本伝先生は校庭にタンク(当時プールをタンクと呼んだ)の建設を計画し、大正4年御大典記念として之を完成した。先生は更にクロールのコーチとして、帝国水友会の中田留吉、今田四郎両氏を任命した。帝国水友会は香榎園に水練場を持って居り、神戸の外人クラブのK.R.A.C.(KOBE REGATTA & ATHLETIC CLUB)と対抗試合をやる等の方法によって、クロール泳法を修得していたのである。日本人で初めて1500米をクロールで泳破した茨木中学の入谷唯一郎氏は「大正9年関東に遠征したところ、試

合終了後、角帽をかぶった大学生(多分東京帝大生)にクロールを見せてくれといわれて、何回も泳がされて、へばってしまった」と私に洩らされたことがある。当時クロールは関東より関西の方が進んでいたと思われる。

尚、当時東京でも日本水連を作る気運があったが、日本体協の総務委員であった本田存氏の反対で結成に至らず、インターカレッジの方が先に出来て、日本水連の出来たのは大正13年(1924年)であった。昭和59年(1984年)が設立60周年になる。

大正8年大阪高商の校長に就任した武田氏は翌9年、神戸高商に水泳の対抗試合をしようと申込んだ。神戸高商は、之を受けて阪神高商の水泳対校戦が大正9年に第1回が行われた。この対校戦が水泳での日本最古のイベントであるという名誉を担うこととなった。神戸の学友会で水泳部が正式承認されたのは翌年の大正10年であった。

武田校長は昭和3年まで在任したが、その間水泳の極東大会選手を次の様に入学させている。

小野田幸一 (和歌山中学)

岡本 幸吉 (田辺中学)

金森文太郎 (茨木中学)

神戸ではこれらの優秀な泳手に対抗するのに随分苦勞をしたものである。

昭和4年は阪神高商戦の第10回大会であったが、試合当日には大阪体協代表、木下東作氏を始め、茨木中学(大阪水協)の杉本伝氏、今田四郎氏、中田留吉の諸氏が大会会長藤井正太郎氏と共に役員の勞をとられた。当時は関西の水泳選手は東京何するものぞというプライドを持っていたのである。

(以上の原稿は昭和58年11月26日、大阪水泳協会70年記念祝典において、入谷唯一郎氏等と共に私が表彰された時に、パーティの卓話として話した原稿に加筆したものである。)

参考文献

日本体育協会50年史

日本水泳連盟40年史

以上

先輩からのお電話

(昭27.学) 石井義章

昭和58年9月10日、溝口大先輩(大13)より思いがけずお電話を頂きました。58年度号「愛泳」に“月見の宴は何時頃、誰が始めたのか知らないが……”と書いたのをお読みになってその起源を教えてやろうとの事なのです。

所が、そのお話は、月見の宴に限らず、水泳部草創期の面白い事を色々伺いましたので、これは是非皆様にもお聞かせしたいと思い、筆を執った次第です。



「やあ！ 溝口です。いつも“凌泳”送って頂いて有難う。楽しく読ませて頂いております。」

「いえ、どう致しまして、こちらこそお世話になりまして有難う御座います。」

「今年の“凌泳”読みました。例の日本記録のお嬢さんどうしましたかね。」

「あゝ、前田琴さんですか、この春、高校に進学されました。名門、茨木高校に入られたのですが、その受験勉強のため、充分練習が出来ず、今シーズンは残念ながら振はなかった様です。でも、何分負けず嫌いのお嬢さんですから、来年は頑張ると張切ってる様です。」

「来年のオリンピックで活躍して欲しい物ですね。所で、貴方が書いてた“月見の宴”の起源について、お知らせしようと思って電話したのですが……。その前に私が記憶している古い事から順を追ってお話しましょう。私が神戸高商に入学したのは大正9年ですが、その時3年生に白山さん(大10)がおられました。白山さんは京都二商の御出身で、小さい頃から辣水で泳いでおられた様で、水泳の達人でした。神戸在学中に極東オリンピックに出場されたのですよ。」

「えゝ、その事は先年、小山先輩がお書きになった“水泳部の歴史”で読ませて頂きました。当時は官学の学生が授業を休んで競技会に出るなどという事は許されず、学校に無断で出場されたとか……。」

「極東オリンピックといえば、多田徳雄という先生がおられて、この方は槍投げの選手だったんですが、水泳も強く、大正8年の大会にはリレーメンバーで泳いでおられますよ。」

「多田先生なら私の頃も大学に居られました。そんな関係で、凌泳会の特別会員だったのですね。残念ながら10年程前にお亡くなりになりました。」

「当時はまだクロール泳法が入っておらず、白山さんも多分“一重のし”で泳がれたと思いますよ。この頃、大学昇格問題が起りましてね。東京、神戸両高商が大学昇格運動を起したのですが、東京のみ承認され、神戸は保留になりました。そこで神戸の学生が激昂して、学生大会で全員退学も辞せずという所まで行ったのです。その時白山さんが学生委員として演説をされました。理路整然とした実に格調高い名演説でした。結局、学生大会は全員退学を保留し、時期を待つという事で無事収拾をみたのですが、それには、この白山さんの演説に負う所が大きかったのです。又当時神戸高商には“友団”というのがありまして、出身地別に学生を組織したのですが、毎年春に敏馬の浜で友団対抗ボートレースをやっていました。水泳はそのボート部の付属という格構だったのですが、これを切離し、水泳部として独立させたのも白山さんですよ。」

「白山先輩は正に水泳部の生みの親ですね。先日、“日本水連40年史”という本を読んでいましたら、日本の水泳の揺籃期には随所に白山源三郎氏のお名前が出て来ます。吾が国の近代水泳を確立された、大先達でもある訳ですね。こんな大先輩を持つ、吾が水泳部を非常に誇りに思いました。」

「そんな事で水泳部も次第に基礎が固まり、やがてプールが欲しいという事になりました。その頃この近辺でプールがあるのは茨木中学(現茨木高校とYMOA位のものでしたからね。吾々水泳部といっても青谷の池で泳いでいたのですよ。当時神戸高商に“ヤッコラヤノヤ節”という歌がありまして、その中に、

“神戸高商に高いものニツ
裏の煙突と石橋さん”

という文句がありました。この石橋さんとは商業地理の先生で背が高かったのです。も一つの煙突ですが、赤煉瓦で築いた高い煙突でした。」

「そうですね、神戸商大は昔から煙突が好きなのです。私の頃にも本館の裏手に鉄筋コンクリートの大きな煙突がありました。戦前は暖房用の燃料でも燃したのでしょうが、戦後はそれどころでなく、煙を吐くのは一度も見た事ありません。正に無用の長物でしたが、唯どこからでも良く見えて、人に説明するのに良い目印になりました。」

「さて、その煙突を取壊す事になったのですが、そうすると沢山の煉瓦が出るので、これを利用してプールを作ろうと思いついたのです。この間の経緯については高森さん(大14)に聞いて下さい。彼がマネージャーで、水島校長とかけ合ってくれたのです。そんな事で大正12年か13年に上筒井の校庭の西南隅に25メートル5コースのプールが出来上りました。話が飛びますが、六甲台にプールが出来たのは何時頃だったのでしょうか。大学に昇格し、六甲台の新学舎に移ったのが、昭和9年ですから、その時既にプールが出来ていたとすれば、10年頃だと思います。新しいプールで現役諸君の労を犒い、納めの会をやるうじやないかと、三輪君、井関君らと語って宴を張ったのが“月見の宴”の始まりですよ。」

「その頃から“月見の宴”とってたのですか。」

「さあ、はっきりは記憶しませんが、シーズンが終って、中秋の頃、月見でもしながらという事で、そう呼びならわされたのでしょう。」

「そうですね、六甲台開学当初から行われていた訳ですね。私はもっと後になってから始めたものかと思っていました。そうすると今年で48年目、その内“月見の宴”50周年記念でもやらなはいけませんね。どうも貴重なお話を有難う御座いました。今年も間もなく“月見の宴”です、ご都合つきましたら、是非御出席下さい。では失礼します。」

以上

58年度凌泳会総会並に善後対策報告

(昭27.学) 石井義章

昭和58年度凌泳会総会は、5月28日(日)、東京よりはるばるお越し頂きました、小山会長並に山口副会長を始め、多数の会員の出席を得て、例年通り、六甲台教官食堂に於て開催致しました。山田先生御退官に伴い、本年より水泳部長となって頂きました犬童教授も出席され、新任の御挨拶を頂きました。

総会の議事並に経過につきましては、既に議事録を以て報告済でありますので、省略させていただきます。唯、会計報告につき、初歩的なミスを犯し、多数の会員に御迷惑をおかけしました件につき

ましては、深く反省し、議事録と共にお送りしました。お詫び状にも書きました通り、その善後対策につき検討致しました結果、下記の通り改める事と致しました。

即、従来凌泳会の会計は学生に委任しておりましたが、58年度より、幹事会の方で掌握する事とし、不取敢本年は、私自身が担当致しました。

御送金を受け入れる郵便振替口座、並に銀行口座もすべて作り直し、又〇B回り等で直接現金を受取った場合にお渡しする領収書も三枚複写の物を購入、一連番号を打った上で学生に交付し、その取扱規程も明文化し、責任の所在並に収支の経路を明確に出来る様なシステムに改めました。

さて、1年やってみまして、成程、これは大変だと痛感しております。殊に本年は山田先生の追悼募金という特殊事情も御座いましたが、会費か、寄付か、募金か明記のない方。会費額に満たぬ為、どの意図で送って来られたのかわからぬ方。一度もらっているのに再度送って来られた方。等、更に様々です。一番困りましたのは、会費を頂けない方です。現役時代活躍され、卒業後も熱心な会員であるのに何故か送金が無い。月見の宴の案内と共に再依頼状を出しても梨の蔭。〇B回りに出向いた学生に尋ねて見ても振込んでおくからとの返事だったので……。との事。岡田幹事の方からも別途催促してもらいましたがあまり効果をなし。今年会費を6,000円に値上げしたのがいけなかったのだろうか。現幹事会の運営方法に不満があるのだろうかと反省したり、色々思い悩む次第です。勿論それもある事と思いますが、大部分の方は、その内にと思っている間に忘れておられるのだと思います。しかしあまりくどく催促するのとはばかられ、今年はこの辺でとあきらめたのが実状です。何とか来年はお忘れなき様、シーズン初めに振替で御送金賜ります様、お願い申し上げます。

又、凌泳会幹事会も59年度は新人を入れて若返りを計り、新進気鋭の強力布陣を以て再出発したいと考えておりますので、何卒、事情御諒承の上絶大なる御協力を賜ります様お願い申し上げます。

以上

昭和58年度凌泳会東京支部会

水も恋しくなる初夏6月8日、東京は有楽町の成城クラブに於いて東京凌泳会恒例の懇親会を開催致しました。出席者は、凌泳会々長 小山氏(学1)を始め総勢20名。懐しい六甲台プールの思い出話や、各々の近況報告等、時のたつのを忘れ、大いに飲んで愉快な一時を過ごしました。

出席者(敬称略) 小山賢之助(学1) 草野嘉一(学1) 山口宗樹(学10)

平井 洋(学11) 富中 暁(学13) 田淵五郎(新B3) 渋谷俊昭(新3)

榊原修造(B3) 村田邦夫(J3) 山本哲弘(B7) 村岡英樹(B8)

上村久治(E8) 黒田英雄(B8) 井上隆史(B10) 丸山卓也(T11)

樋口修平(B14) 中畑勝明(B14) 阿部洋三(T15) 菊田修三(T18)

丸末一之(E 25)

なお、会員の方で東京方面へ転勤・転居された方、ぜひ東京凌泳会(〒100 千代田区丸の内
3-1-1 帝劇ビル地下2F 凌霜会東京支部内)へご連絡下さい。

(E 25 丸末 記)

小山賢之助(昭7 学1)

東京支部長 山口君のきも入りで成城のクラブで東京凌泳会を開催
— いつもと異なったアトモスフィア — いい会が持てると思います。

草野 嘉一(昭7 学1)

明後6月10日から月末までヨーロッパ旅行(東独 チェコ ハンガリーなど)に出掛けます。
出発前にこの会を開いて貰ったので諸兄に会えて幸いです。

山口 宗樹(昭16 学10)

久しぶりに5月29日の総会に出席し母校の空気を味わい東京でも早速今年初めての会を催し約20名集り、思い出話に花を咲かせ愉快的な時を過ごしました。裸の付き合いを長く続けたい
ものです。

平井 洋(昭16 学11)

久しぶりで東京凌泳会に出席し、ラオボンユーにお会いでき満足です。ご案内いただければ
つとめて出席させて貰います。あとしばらくやとわれマダムをやり、そのうち老後第2の人生に入ります。

私の好きなコトバ — 王将も飛車も歩もゲームが終われば一つの箱の中にほりこまれる —

富中 暁(昭18 学13)

久々に皆様の御元気を姿に接し感激。小生ゲームは10年前に終わらせ専ら健康保持に努め
相変わらず毎日泳いでいます。今日は400mだけですが— 凌泳会の戦前からつづくよき
伝統を是非そのまま保持育成致し度。

田淵 五郎(昭30 B3)

久しぶりの東京凌泳会に久しぶりの海外帰りの渋谷君も迎えて愉快です。この春以来胃を壊
して居りますが、治療法など皆さんに教わって居ります。

榊原 修造(昭30 B3)

1年振りの凌泳会で皆様と会え非常に喜んでます。若干体調が悪いのが気になりますが愉
快に飲んでおります。

村田 邦夫(昭30 J26)

東京にまだおりますので1年振りに凌泳会に出席出来ました。懐しい顔に久しぶりにお目に
掛かりお元気そうで誠に結構です。これでお酒が飲めます。再々やりたいものです。幹事様
お世話になります。

渋谷 俊郎(昭30 新3)

私は水泳部の田淵氏他同期生に勤められて部員名簿の末席を汚させて載せましたが、卒業以来凌泳の会合にも余り顔を出した事がないと云う不出来なOBで誠に汗顔の至りがあります。先日外国駐在から帰りました直後、田淵氏に声をかけて載せましたので出席させて載せました。今後宜敷く御願申し上げます。

井上 隆史(昭37 B10)

今年も初夏が来た。水が恋しくなる頃凌泳会の東京支部会も毎年開催されています。久しぶりに先輩、後輩、多勢の人に会い楽しい一夜でした。

村岡 英樹(昭35 B8)

井上君からの誘いがあったので参加しました。大阪から東京へ来て2年目になりますが、昔、冷たい六甲の水からあがって、たき火にあたっていた仲間旧交を温めることができ、楽しいです。同年の永野が早く帰国しないかなと思ったりしています。

山本 哲弘(昭34 B7)

同じ会社に勤める村岡君が大阪より東京に転動になってから色々な会合に誘ってくれる様になり海外に居て御無沙汰していたブランクをせせと埋めている所です。楽しい会合です。

上村 久治(昭35 B8)

最近は泳ぐ機会もなく過ごしていますが、考えるところもあり、又、女房からの強いすすめもありますので、今年からは復帰したいと思っております。村岡君、黒田君とも久しぶりに逢え楽しい一夕となりました。

黒田 英雄(昭35 B8)

東京は二度目の住居地となり、あしかけもう10年以上、神戸に次ぎ第二の故郷となりそう。凌泳会は久しぶりの出席で凌霜会に出たときと同様伝統を強く感じます。同期前後の人達と会えて楽しい一時になりそうです。

中畑 勝明(昭41 B14)

年初に東京転動になり今回初めて東京凌泳会に出席させて頂きました。現役時代以来初めて会うという方もおられ大変懐しく感じております。今はなかなか泳ぐ機会がありませんが近くに屋内プールがあり暇をつくって泳ぎたいと思っております。

阿部 洋三(昭42 T15)

あと少しで40代という年令にいつのまにか達してしまいました。仕事の方はTQC専任とおよそ学校時代と違ったことをやっています。水泳の方は相も変わらずYMOAで週3回を目標にやっています。50mインターバル8本程度ならなんとかこなせるという状態です。とにかく水泳を引くと残るのがほんの少しという生活を送っています。

菊田 修三(昭45 T18)

ひさしぶりに会に出席したのに、同世代の人が出席していないとはこれいかに、奮って参加しよう。

丸山 卓也(昭38 E10)

去年はプールへ入ったのは数える程であったが、今年は10回入る事にしたい。諸先輩に負けず泳いで記録(泳いだ距離)を伸ばしたいと思ふ。泳げば楽し。

樋口 周平(昭41 B14)

とうとう40代となりました。運動の回数が週に2回から1回に減り腹廻りがかなり太くなった様です。これ以上太らない様気をつけたいと思ふ。

丸末 一之(昭52 E25)

同年代の諸兄の出席が少ないのが残念です。これも幹事の一人である私の努力不足と反省しております。

神宮プールで行われました日本学生の折、東京慶泳会の先輩方には、選手への格別の御配慮をいただきましてありがとうございます。4年生久保田以下、坂東、川原田、皆喜んでおりました。これらの者達と共に紙面を借りましてお礼申し上げます。(主務 黒川)

三商大水球観戦印象記

(昭15学9) 吉野 栄

今年の寒さは又格別 老骨にしみると思っている今日此頃、先夜突然 神大水泳部の黒川君から三商大水球の観戦記をと求められました。

極寒の中で、あの酷暑のプールサイドを想い出しても、中々ピント来ません。確か、当日はOBの殆ど全員が、夫々尤もな理由で欠席していたので、止むなくと引き受け、初めての大阪商大プールに赴きました。

午前の競泳は予想通りの大勝で、午後からは愈々念願の完全優勝をかけての水球戦 OBは、たしか長谷川君と小生の二人、楽勝と気楽に観戦と構えていました。練習を見る限り美事なもので、自信満々の選手諸君、こちらは、すっかり安心していました。

• 第一戦(神大対市大)

スコア(20:3)の示す如く美事を勝ちっぷり、相手次第では作戦も充分通用していた様です。

• 第二戦(一ツ橋対市大)

市大の善戦が見られました。此の試合を見る限り 第三戦の一橋戦も簡単にいたゞきと思はれたのですが、一橋は次の神大戦に備えて、かなりメンバー乃至 作戦に手ごころを加えていた様に考えました。

• 第三戦(神大対一橋)

スコアは8対6

相手が市大の場合、泳ぎ勝ちで楽勝できたのですが、扱て一橋となると敵もボロではの自負と自信、気合が違っていました。然し当方は全く動ずる処なくと書き度いのですが、スコアは 第1クォーター3：1 第2クォーター3：2 第3クォーターに至っては0：1 あゝこの調子では又々逆転かと、ひやひやさせられました。どうやら 第4クォーターは2：2の対スコア、Total 8：6 でどうやら逃げ切りました。やっ、泳ぎ勝ったと云う処、それでも、勝ち勝ちは勝、御目出度うと云って置きましょう。御世辞にも技術で勝ったとは残念乍ら 申せません。弱い相手なら、見事をテクニックと、思い通りの作戦も見せて呉れるのですが、水球を知っている相手では未だ未だこちらの泳ぎも、テクニックも通用しません。もう少し作戦がうまくゆけばと泳ぎが、格段の差がある丈に、歯がゆく思いました。然し一橋に少々花をもたすべく手心を加えてやったのではと邪推もし度くなりました。その証拠に、次の都市大戦（於神大プール）では見違える程見事に戦って呉れ、あれが同じチームかと、びっくりしました。田中コーチの指導がやっ、と花咲き、将来に希望を託したく思います。

いくつかのフォーメーションを決め、その組立てがうまくゆき、その為には、コントロールタワーの勉強、そして昔のボロとは違って、常にバスケットボールと同じく、敵ボールからスタートする為、バックのインターセプトからの攻撃となり、それだけに作戦も亦、立て易いと思えます。バックの守備の位置、そして、バックがボールをとった場合 すかさず フォワードの動きと対応、こんな事は先刻 御存知と思えますが、老婆心乍ら申し添え、今年こそ、競泳乞様 黄金時代の再現 切望して 撰筆します。

（吉野）

会員からのお便り

総会案内状返信より

○山田 幸男(特)

全く予想外の大病になってしまい、閉口しております。5月末に退院はちょっと無理のようで6月になるでしょう。小山大先輩はじめ諸先輩によりしく申し上げて下さい。現役の諸君、御苦労様でした。

○溝口 卓郎(大13 高18)

本年、体調は割合に良好です。凌泳復刊第30号に、小山氏筆 北村先生の思い出文中にオリンピック講演会に高右君不参加の記事を見て、思い出を綴ると、御当人 昭和2年度入試受験を勧誘受験させた。そして我々の努力も実らず、到々早稲田に取られて終ったいきさつがあったのだ。本人、後年の大成のためにはそれはそれで良かったのだと思つて居るが、当時はとても残念だったものだ。

○白井 儀三(昭3 高22)

御案内状を頂き有難う存じました。儀三、去る1月15日に永眠いたしました。生前中の御厚情の程、厚く御礼申し上げます。(白井 芳)

○三吉 吉郎(昭6 高25)

昨年末より半日勤務嘱託となりましたが、体調はすこぶる良好です。皆様によりしく。

○植木 実就(昭6 高25)

御案内状をいただきながら、いつも欠席で申し訳ありません。昨年秋、仕事をやめてから、体調を維持するため、毎日1時間歩くことを勤行しています。総会当日、相憎にやむを得ない所用あり、欠席致しますが、宜敷く御願ひ致します。母校水泳部の本年度の一層の活躍を御祈り致します。

○草野 嘉一(昭7 学1)

お蔭様で元気です。「毎日サンデー」の日々ですが、日本サラリーマンユニオン関係、出身校関係、ワイン関係、会社のOB関係と訪会合に忙しく過しております。

○山田 常雄(昭7 学1)

おかげで健康で、毎日忙しく働いております。隠居などとんでもありません!

○板野 亀八郎(昭9 学3)

12年前の心筋梗塞以来やめたもの…… たばこ、ゴルフ、水泳。10年前から意識的にやっていること…… 歩くこと(なるべく速く)。泳ぎたい気持ちがないのではないが、場所と時間がうまく合いません。残念です。

○富岡喜一郎(昭13 学7)

動脈硬化症で静養しております。

○太田 正元(昭13 学7)

6月の総会で三洋金属社長退任の予定。東京の五日会では、小山先輩、山口(宗)さんと時々会っております。

○福永 拓造(昭14 学8)

総会当日は、慶応大学病院に入院中。

○大内 義仁(昭14 学8)

広島市内に老若共に楽しめる市営のファミリープールあり。今年から65才以上のBoy並びにGalに無料解放されたので、せっせと通り所存です。

○尾原 芳行(昭16 学8)

2月18日に他界いたしました。生前中はいろいろお世話になりました。(妻 フジヨ)

○満野 公介(昭16 学8)

相変わらず元気です。一度総会のおりに久瀧をじょしたいと思っておりますが、此度はさしひかえ出席できず、残念に思います。

○中村 市治(昭15 学9)

よい季節、なつかしい六甲へ一度訪ねたいものです。もっかとても多忙で残念ながら欠席します。諸兄の御奮闘を祈ります。

○吉野 栄(昭15 学9)

至って元気。よんどころない約束のため、欠席します。本年もがんばって下さい。期待しています。

○山越 重義(昭23 学17)

業務多忙のため、いつもながら欠席やむをえません。皆様方によろしく。

○山口 宗樹(昭16 学10)

山々の線の美しさを郊外に出る度に楽しんで居ります。そして水のシーズンの到来、本年も皆さんの好成績を期待して居ります。小生も元気に道に居ります。

○平井 洋(昭16 学11)

眼底出血発病以来4年半になりますが、さいきんはすっかり落ち着いています。一切の運動を控え、専ら俳句と碁に打込んでいる昨今です。碁は1年前に4段をとりました。母校水泳部のご活躍を祈ります。

○前田 寿(昭16 学11)

元気です。垂水の商大で工業政策を担当(非常勤講師)することになりこのところ一寸忙しくしています。お集りの皆様によろしく。

○木村京一郎(昭17 学12)

住所も勤務先も不変 発展もなければ、変化もない生活の継続です。水泳部の一層の活躍と会

員諸兄の御発展を祈念します。

○岡本 忠男(昭17 学12)

県議選(五期)が終り、目下議会開期準備のため欠席させていただきます。今後共、夙泳会の発展をお祈りします。

○古川富貴男(昭18 学13)

益々の発展を祈ります。

○富中 暁(昭18 学13)

相変らずヘルスクラブの20mプールで泳いでいます。

ウォーミングアップ120~200m(自由形)バタ足/自由形の繰返し 計280~440m
バタ足/背泳 80~200m 自由形ダッシュ80~120m

その日の調子で距離は伸縮しますが、800m以上になると気持ちいいですね。併しこの辺で自重。皆様によろしく。

○上田 宇一(昭18 学13)

いつもご連絡載き有難うございます。現在、橿原市議会副議長の職にあり、公式行事の他、当日は親戚の結婚あり欠席させて頂きますがシーズンに入っては頑張ってお返し下さい。

○三宅 林(昭22 学16)

今度は一度プールへ応援に行き度いと思っています。ご参集の諸先輩はじめ皆様にもよろしく。

○鈴木 富夫(昭25 学20)

昨年10月妻を亡くし、娘達は嫁ぎ、現在独身生活。

○佐脇 鷹平(昭25 学20)

ゴルフそして夙泳会総会と次から次へと案内が来ますが、当日小生は取引先の年1回のイベントがあり、どうしてもホストとして出席せねばなりません。毎年同じ様な理由で欠席していますが本当に残念です。仕事はほどほどにして来年から心を入れかえ出席通知を胸張って出したいと思っています。

○中井 三郎(昭27 学22)

最近温泉に凝って、ちょくちょく出掛けるようになりました。先日も25m3コースの温泉プールのある中伊豆の大滝温泉(伊豆の方言で「おいだる」と読みます)に行き半日プールに浸かっていました。毎日1回は温泉に行きのんびりと過したいと思っております。今年の現役諸君の健闘を祈ります。

○石井 義章(昭27 学22)

昨秋は六甲全縦走56kmを踏破し、老いて益々元気です。(所要17時間)。60年には神戸でユニバーシードが開かれます。又皆で集りませんか。

○今井 政一(昭24 専1)

元気でやっています。新緑の六甲台、一度行ってみたいものですが、中々機会がなく……皆さん今年も頑張ってお返し下さい。お集りの皆様に宜敷く。

○増井 幸蔵(昭30 S3)

御無沙汰ばかりですみません。皆様によろしく。

○松田 司朗(昭32 J5)

プールにはいる体力には自信がありません。皆様によろしく。

○前田 弘義(昭32 E5)

一昨年暮に泉州ビル(株)に出向し、貸ビル業に専念しております。

○石本 茂樹(昭33 E6)

今月14日より上記へ引越します。昨年度会費を滞納しております。今年度会費でまとめて納付しますのであしからず。新住所でもあいかわらず单身生活です。こちらへ来られた節には、お立ち寄り下さい。

○柴川 泰介(昭34 E7)

知らず知らずの内に、身体もガクが来た様子でビール性肝炎で二ヶ月入院の羽目となりましてようやく5月6日に退院出来ます。今後酒抜きの人生を送ることになり今から何となく口淋しい思いをしております。諸先輩に宣敷く。

○山本 哲弘(昭34 B7)

相変わらず忙しくて皆様には御無沙汰致しておりますが、よろしくお伝え下さい。

○上村 久治(昭35 E8)

東京に来てもう14年目になります。最近航空貨物を担当していますのでキログラム単位の世界に居ます。泳ぐ方はとんとご無沙汰で良くないと思っています。

○宇賀 史郎(昭35 E8)

昨年秋、住所を移転致しました。勤務先も元の所に戻りました。現役諸兄の御活躍を祈っております。御出席の先輩各位によろしく御伝え下さい。

○岡田 重義(昭37 B10)

今年、WATER-POLLOで一橋に勝つため何をすべきか、考えてみて下さい。総会の当日意見を交しましょう。

○井上 隆史(昭37 B10)

禁煙をしたら太り出したので、少し運動をということで、週一回位は泳ぐようにしています。泳いだ後、喉が渇くのでビールを飲むので体重は一向に減りません。皆様によろしく。

○萩原 武(昭37 T10)

多忙ではありますが元気でやっております。御出席の皆様にはどうかよろしく御伝え下さい。

○高岡 保宏(昭37 P10)

麦の刈入れと、田植えの準備でいそがしい毎日です。学校の方も3年担任で充実した毎日です。皆様によろしく。

○染矢 尚武(昭37 E10)

今年は50m平、40秒を切って県優勝を飾りたい。(昨年は40-4)

○丸山 昱也(昭40 T13)

幹事 御苦労様。都合のつく限り出席します。

○前田 和秀(昭40 J13)

福岡に来てあつという間に10ヶ月たちました。東京に比べゆったりとした生活を楽しんでおります。御出席の皆様によろしく。

○手嶋 忠之(昭41 S14)

御無沙汰ばかりで申し訳ありません。昨年秋日本に帰ってからは、週2回程大学のプールで泳いでおります。最近とみに体力の衰えを感じるようになりました。

○中畑 勝明(昭41 B14)

東京転勤になり、1月より3月まで単身赴任しておりましたが4月に別記住所へ引越しました。東京にもようやく慣れてきたところです。今シーズン、活躍を期待します。

○阿部 洋三(昭42 T15)

現在も賞(デミング賞)を目ざして全社一丸となって努力をしている最中です。私も事務局の一員として、学生時代とは全然違ったことをやっています。水泳の方はそれでも週2~3回のペースを保っており、最近調子も良く、100m BU なら1-13~14で泳げます。

○宮部 高博(昭42 L15)

元気です。諸兄の御健闘を祈っております。

○玉置 明(昭45 E18)

酒井先輩もこちらへ来られ、楽しくやっています。

○井上 史朗(昭45 B18)

現在、長野県の担当セールスとして火~金と出張の毎日です。出張先でプールを見つけて泳ぎたいのですが、夜も仕事があり思うようにはなりません。

○米田 章(昭47 J20)

三月末に新車を購入しました。ゴールデンウィークに十津川の湯泉寺温泉までドライブしてきました。もちろん家内の運転です。(私は免許証を持っていません。)

○長谷川 健(昭49 E22)

当日、所用の為どうしても出席できません。御出席の方々に宜しくお伝え下さい。

○家本 博一(昭50 E22)

名古屋で、いま準硬式とアメリカン・フットボールのクラブのお世話をいたしております。

○業垣 和男(昭50 B23)

やっと結婚しました。法事のため出席できません。近くに住んでいるのに残念です。

○佐藤 弘之(昭53 T25)

転勤で松本へ来てすでに8ヶ月。長かった冬も終わり、いい季節がやってきました。これから秋にかけてドライブに最適のコースがいくらでもあり、毎週末に車を走らせることになりそうです。残念ながら神戸まで足をのばせそうにありません。皆様によろしくお伝え下さい。

○木下 修一(昭53 P26)

寅さん同様、風の吹くまま気の向くままに、気ままな人生を送っております。

○後藤 信人(昭54 B26)

第一子誕生予定が6月2日。早生まれば総会に出席できるかも知れません。目標は高く！ 勝つ為の練習であること！

○酒井 正人(昭53 A26)

新担任が2年生となり、しかも学年主任という重責を負い、少々困っております。ところが、うちの学年は2クラス、しかも1クラス23人という少ない学級。なんとかがんばれそうです。みなさんも今年は少ない人数だとか？ がんばって下さい。

○平石 康(昭53 P26)

3月30日結婚致しました。現役時代のシマッタ体にもどすため今年はまだ少し泳ぐつもりです。

○塩浜 英二(昭53 T26)

B58.3.13に結婚しました。今年は何とか試合の応援に行きたいと思います。皆さん、今年も頑張ってください。

○土井 祐二(昭55 J28)

今、北海道に來ています。出席出来ずに申し訳ありませんが皆様によりしくお伝え下さい。主務さんも大変でしょうが頑張ってくださいね。

○館谷 彰司(昭54 T28)

仕事、スキー&テニスという独身社会人の典型的な生活(?)を送っています。

○中尾 稔(昭55 J28)

また神戸に戻って來ました。今年は何とやら行事に参加させていただきたいと思っています。

○芝 暢彦(昭56 B29)

福祉事務所でケースワーカーをしております。神戸方面に行く機会が少なく、まだ当分、プールにも寄れない状態ですが、今年も活躍を期待しています。

○山本 隆(昭57 B29)

最近泳いでもなかなか納得のいく泳ぎができません。少し太り過ぎたのかなあ……などと悩んでいる毎日です。

○森鼻 隆夫(昭56 P29)

今年で教職生活3年目に入りますが、今年から訪問学級に所属することになり在宅の重度心障児の訪問にまわっています。

○上田 剛弘(昭56 B29)

今年の合宿には一度は顔を出したいと思っております。昨年以上の活躍を期待しています。がんばれ!!

○富岡 洋三(昭57 B30)

不況にもめげず日夜仕事に励んでおります。なお今日付をもって外国為替の方へ配置転換となりました。

○土井 紀子(旧姓寺尾)(昭57 P30)

結婚して住所が変わりました。

○後藤 芳光(昭57 E30)

やっと決算も終り、ホッとしています。総会の日はテニスの合宿があり残念ながら出席できません。皆様によりしくお伝えください。

○白子 靖則(昭57 B30)

元気にやっています。今シーズンもがんばってください。

○藤田 弥門(昭57 準30)

社会人も2年目となり腹の方も立派な風格が出てきたので水泳部(?)を新入社員3名と結成し、国体30才以上の部を目指し練習し始めました。“金よ!国体で会おう!!”

○森田 恵(昭57 A30)

相変わらず、忙しい日々を送っております。やっと社会人2年目となりましたが、会社から帰るとグターとなっている毎日です。しかし、そろそろ水が恋しくなってきました。

○太田 雅彦(昭58 A31)

大学院に入っても、学部の時と同様に勉強と実験にあけています。忙しくて仲々顔を出せませんが、みなさん体調にお気をつけてがんばってください。

○長谷川泰造(昭59 T31)

毎日、実験に明け暮れています。しかし、できるだけクラブに顔を出そうと思っています。

○石本日和子(昭58 P31)

西宮市立小松小学校4年1組の担任として、毎日、12時間労働(いや、家での仕事をいれると、まさに16時間労働)でヒーヒー言っています。すみきった90の腫にかこまれて、教えることよりも、教えられることの多い日々です。子どもとともに伸びてゆける教師でありたいと思っています。

○酒井 潤(昭58 E31)

漫泳総会にはなんとか出席できそうです。部員の皆さんには、プールあがりにビールでも飲みに来て下さいね 先輩、同輩諸氏に宜しく。

○国本 温代(昭58 P31)

大阪府立東百舌鳥高校に勤めています。堺市にあるのですが、府大のすぐ近くで、いつも府大の前をMy Car (NEWシャレード)で通っています。いつもルンルン気分でドライブへ行く感覚で学校へ行っています。今年の関西国公立は府大ですね。ぜったいに見に行くからがんばってください。水泳部とジャズダンス部の顧問でがんばっています。今日(5/6)初泳ぎをしました。水温19℃でとても寒いですが。六甲台プールのおフロが恋しいです。それでは、今年もがんばってください。皆様の活躍を期待しています。

○酒井 康司(昭58 T31)

ただ今、実習中で朝8:00~夕方5:00までLCフィルタ、HLBフィルタというものの製造を行っています。(ちなみに会社は松下電子部品(株)に配属決定)、ほとんど無人化された製造システムラインにも故障が多発し、running keep には、かなり労力が必要でしんどい一言です。(6月から8月まで販売実習で静岡へ飛びます)

○金 一波(昭58 T31)

残念ながら出席できません。旧三商大50周年記念大会でお世話になった諸先輩によりしくお伝えください。

月見の宴案内状返信より

○溝口 卓郎(T13高18)

脚、腰弱って来たが、幸い無事消光して居ます。大正12年9月1日大阪毎日新聞社主催の関西インカレが大阪築港のプールで行はれて居た。丁度正午プールの水が突然溢れ出るし、泳者がコースを外して左右にゆれて泳いだのを思い出して居る。あれ程の大震災だったとは当日午後3時頃迄判明せず(通信機器が壊滅した為である)予選を終えた。勿論、翌日の決勝は取消しになった。

○木村 芳雄(T15高20)

仕事の方も健康の方も先ず先ずと言ったところです。週に二度のゴルフを欠かさず、ゴルフだけが唯一の楽しみになってしまいました。

○植木 実就(S6高25)

御案内有難うございました。本年度の戦績すばらしく御同慶の至りです。月見の宴は都合つかず、乍残念欠席致します。当日の御盛會を御祈り致します。

○小山賢之助(S7学1)

9月4日、神宮プールに行き、川原田君が59秒で泳いだのを役員席で見て、スタンドに行きました。神大の人々を見ることが出来ず帰りました。健闘多謝

○富岡喜一郎(S13学7)

歳70 何んとか余命を保っています。

○太田 正元(S13学7)

6月に三洋金属の社長を退任 蔭居の身となりました。元気であります。最近の水泳部の活躍御同慶の至りです。

○岡野 巖(S13学7)

残念乍ら所用の為出席出来ません。皆々様によりしく。

○福永 拓造(S 1 4 学 8)

昨年秋以降、体調を崩し、慶応義塾大学病院へ開腹手術等の為、2回に亘り、約100日間入院治療 漸く去る7月下旬退院し、目下自宅療養中です。(病名 悪性腹部リンパ腫)

○満野 公介(S 1 4 学 8)

お招き有難う御座いました。都合により、参加出来ないのが残念です。現在の所毎日元気でやっています。皆様によろしく。

○中村 市治(昭15 学9)

諸兄の御健闘を祈ります。

○大西 真博(昭15 学9)

欠席申訳なし。先年の記念赤 で本年二回大太平洋にて泳ぎました。生き返りました。

○山口 宗樹(昭16 学10)

残念乍ら月見の宴は欠席致します。65才になりましたが、本年も元気に過して居ります。今シーズンも好成績で何よりだったと存じます。皆様の御健闘を感謝致します。

○堀部喜代次(昭16 学10)

毎年御連絡感謝します。皆様の御健闘を祈ります。

○平井 洋(昭16 学11)

秋の蝶大空翔くこともなし 洋城

○岡本 忠男(昭17 学12)

毎年 敬老の日は議員として行事が多く、残念乍ら欠席致します。

○尾上 信三(昭17 学12)

体調がもう一つですので、しばらくは養生を続けますので、欠席致します。本年の御活躍ご苦労様です。

○富中 暁(昭18 学13)

出欠を迷っている間に遅れてしまい失礼しました。相変らずサウナ/水風呂の反復と水泳が、東京に居る時の日課の重要部分です。開始して十年目、御蔭で健康です。参会の皆様によろしく御鳳声下さい。

○古川富貴男(昭18 学13)

皆さんによろしく

○井上 清(昭19 学14)

立派な戦績、大変頼もしく広賀に堪へません。月見の宴、御盛公を祈って居ります。御参会の諸兄に宜敷く御鳳声下さい。小生、野暮用ではたばた致して居ります。

○三宅 林(昭22 学16)

相変らず元気に過しています。御参集の諸先輩ほか皆様にも呉々もよろしく。

○武内信一郎(昭23 学18)

この処、水とは縁がだんだん遠くなり、思う様にはいきません。諸先輩によろしく。

○佐脇 鷹平(昭25 学20)

毎年御連絡いただきながら欠席つづきで申訳なく思っています。YMCA神田で時々泳いでおります。六甲周辺に住みつき、月見の宴に参加できる悠々自適の生活が夢です。諸先輩によりしくお伝え下さい。

○鈴木 富夫(昭25 学20)

相変わらず不況の波を泳いでいます。先輩後輩の皆様方に宜敷く。

○中井 三郎(昭27 学22)

当日余儀ない所用の為、残念乍ら出席出来ません。皆様によりしくお伝え下さい。元気でやっております。

○石井 義章(昭27 学22)

昭和60年ユニバーシアード神戸大会を控え、水泳連盟強化のためとかで兵水連に引込まれ、今夏は競技会に狩り出され、プールサイドを右往左往。おまけに愛泳会の会計迄引取ったので本業に手が回りません。

○田淵 五郎(昭30 B3)

今年も優秀な成績で御苦労様でした。選手として出場できなかった人達も貴重な存在だった筈なので是非ねぎらって上げて下さい。シーズンオフの友情と精神も大切にして下さい。

○堂本 直正(昭30 T3)

神戸は遠くなりけり 当日の晴天と盛会を祈ります。

○松田 司朗(昭32 J5)

温水プールの温室育ちで六甲台の冷たいプールがなつかしく亦、泳げるのかと懸念しております。出席の皆様方に宜しく。

○岡見 晴児(昭33 J6)

うだるような暑さをサントリービールで潤しております。例年になく多忙で、今夏はプール通いも出来ません。ご出席の皆様によりしくお伝え下さい。

○山本 哲弘(昭34 B7)

一度出席したいと思ひながら、なかなか都合が付きません。皆様によりしくお伝え下さい。

○前田 修(昭34 S7)

外国人の娘さんを奈良へ案内しますので欠席します。今年はぜひ自由型のオールドパワーを披露する一怪しいものだが一つもりでしたのに残念です。皆さんによりしく。

○柴川 泰介(昭34 E7)

相変わらず年中熱帯ジャングルに出張し今年から新たにカリマントンに製材工場を始め、此国と交代で毎月足を運んでおります。御出席の皆様によりしく。

○上村 久治(昭35 E8)

この席 上記住所に転居しました。将来は人口が30万人になると云われる港北ニュータウンの中ですが現在は広大な平原です。

○村岡 英樹(昭35 B8)

90才まで生きたい、強い父親でありたい、正直者になりたいと大法らを吹きつつ東西南北の分らぬ大都会東京をうろついております。旧友にあえて幸せです。

○宇賀 史郎(昭35 E8)

残念乍ら当日野暮用が有り、欠席させていただきます。御出席の先輩の皆様によりしくお伝え下さい。4年生の諸兄御苦労様でした。残り少ない学生生活 enjoy して下さい。

○永野 一彦(昭35 E8)

本人 永野一彦は目下ルーマリア〜ブガレスト駐在員として海外勤務の為、出席出来ませんので、何卒御了承下さいませ(留守宅)永野カヨ

○高岡 保宏(昭37 P10)

神戸には兵水速関係の大会でよく出かけ、石井、橋本両先輩とはよくお会いしているのですが当日あいにく所用のため出席出来ません。皆様によりしくお伝え下さい。

○萩原 武(昭37 T10)

当地に転勤になって2年前。どうやら土地にもなじんで元気でやっています。

○岡田 重義(昭37 B10)

今季の活躍大慶の至りです。今後の精進と来季の発展を期待しています。実社会で勝者たる事はナマヤサシイ事ではありません。ともあれ今季の活躍オメデトウ。

○林 壮八郎(昭38 E11)

9月15日に一家そろってブラジルから帰国し、東京勤務になります。新しい住いは以前の横浜乙船町の自宅になる予定ですが、決まりましたら又お知らせいたします。

○藤岡 治男(昭38 P11)

9月15日は出勤のため失礼します。

○滝沢 章三(昭39 T12)

海外を主な市場とする部門で働いていますが鉄鋼不況(小生 川鉄)と中進国の追い上げで苦戦中。泳ぎとは縁遠くなりましたが、代りに息子(小5)が泳いでいます。

○手嶋 忠之(昭41 S14)

本年もすばらしい戦績、御苦労様でした。先日、春日井市民水泳大会に久しぶりに参加。今年は40才台で出場し、自由型、平泳でどちらも2位でした。

来シーズンも御活躍を。

○阿部 洋三(昭42 T15)

今年もすばらしい戦績おめでとうございます。私は7月・8月と残業つづきで、日続けすることもなく、夏が終わりました。水泳の方も練習不足気味で低調です。(200m個人でやっと3分を切る程度)

○井上 史朗(昭45 B18)

ウィスキー、ビールの値上げの話があり、いそがしい毎日です。最近家の近くに市民プールが

できて子供を毎週泳ぎにつれていっていましたが、9月となりそれも終了しました。これからはゴルフでからだをきたえようと思います。早々

○玉置 明(昭45 E18)

札幌にきて約3年になります。スキー、水泳、ゴルフと楽しんでいきます。今年は道北、道南を旅行し、後、函館方面に行くとい周したことになります。

○大橋 進(昭46 P19)

スイミングスクールに通っています。18回の木村さんと試合で会いました。しかし、昨年11月に左前腕骨折。4月からリハビリのために泳ぎははじめました。5月に金具を抜きました。今、50mを45秒のペースで30m泳ぐことが出来る様になったが、握力いまだに20kgなし。スピードが上がらず試合は来年から。昨年のBest(50Fr 29.0 100Fr 1-07-0, 200Fr 2-35-0)のレベルにもどりたいものです。

○家本 博一(昭50 E22)

名古屋の猛暑には、ほとほとまいっております。男子部員の尚一層の頑張りを心からお祈り申し上げます。

○佐敷 定雄(昭49 A22)

ますます『体力の限界』らしきものが自覚できるようになってしまいました。50mを全力で泳げるよう来シーズンは練習に参加します。

○松山 玄彦(昭51 E24)

近年の大活躍、たのしく思います。今後とも頑張って下さい。なお、住所が変わりましたので よろしく。

○佐藤 弘之(昭53 T25)

転勤で松本へやってきて1年がたちました。想像していたよりもこちらの夏は暑く、汗をグラグラ流しながら働いております。とうとう今年は1回も泳がずじまいでした。皆様によろしく。

○伊藤 良一(昭52 T25)

横浜に転居致しました。

○丸末 一之(昭52 E25)

インカレの応援に行けず、申しわけありませんでした。去る9月4日(日) インターバンク(銀行の対行試合)に出場しましたが、30代を目前にし、体力の衰えを痛感しました。

○木下 修一(昭53 P26)

生きています。川原田君、長崎君、名前を忘れたけれどバタフライのお嬢さんをはじめ皆さんの全国公での活躍には感激しました。来年はぜひ打倒筑波を実現してください。

○酒井 正人(昭53 A26)

ちょくちょくプールへ行ってますので、泳ぐことは十分です。又、部員のみなさんともよく顔を合わせますので、ご存知の方も多いと思います。当日も大へん楽しみにしています。

○後藤 信人(昭54 B26)

公私共に東京を離れられない状況になってしまい、本年も、「月見の宴」失礼させていただきます。戦績のお知らせに「市大戦」と「兵庫インカレ」が除かれているのを見、現役諸君の目標の高さがうかがえます。

御盛会をお祈りします。又、先輩御諸兄に宜しく。

P.S. 酒井正人兄を六甲台プールにはめぬ様、現役の皆さんにお願いします。

○杉山 和弘(昭55 A28)

仕事の関係上、やむを得ず欠席させていただきます。先輩諸氏並び現役の皆様によりしくお伝え下さい。

○中尾 稔(昭55 J28)

友人の結婚式に出席する為、月見の宴には出席できません。今年は海水浴に5回も行き、まっ黒になりました。

○上田 剛弘(昭56 B29)

立派な戦績おめでと。月見の宴には是非出席して、みんなの活躍した話を聞きたいと思っています。

○白子 靖則(昭57 B30)

今シーズンもすばらしい戦績をあげられ、おめでとございます。特に三商大戦の完全優勝には感激致しました。この調子で来シーズンもがんばって下さい。

私の方は8月から銀行で外まわりに担当がかわり、灘、東灘方面を毎日うろろろしています。

○後藤 芳光(昭57 E30)

58.6月から小野田セメント社の子会社である小野田エンジニアリング(株)に派遣社員として出向しています。今夏は2回ほど近くの市民プールで泳いだ程度ですが元気にやっています。

○藤田 弥門(昭57 準)

採用シーズン到来! 今が一番忙しい。グッスリ寝たい。

○国本 温代(昭58 P31)

府大のすぐ裏にある東百舌高校に勤めています。水泳部の顧問をしています。神大で通用するような選手はひとりもなく、なんとかして毎日練習に出てこさせるようにするか頭を痛めています。早く神大オープンに参加できるような選手を育てたいと考えています。

月見の宴には、学校祭の用が入らなければ出席したいと考えています。

○田伏 正佳(昭58 S31)

神戸大学にいながら一度も見に行けなくてすみません。今年も、水泳部全員で頑張ったようですね。僕は現在、大学院でわけのわからないことを勉強しています。

○杉野 誓(昭58. T31)

現在、工事で、建設現場に勤務しています。オッサンばかりの職場のため、自分も若さを失いつつあるのではないかと心配している今日此頃です。当日は、仕事の為欠席させていただきます。皆さんによりしくお伝え下さい。

○酒井 康司(昭58 T31)

ただ今、技術基礎研修中で、コンピュータについて勉強を行なっています。大学の集中講義が14日間続くようなもので、少々きついのですが、元気にやっています。

体力の低下著しく、15日には参加させていただきたく思います。

○石本日和子(昭58 P31)

男子は今年も大活躍だったんですね。おめでとう。女子はどうだったのかな……?!

私の方は、はや新学期が始まり、運動会だ、図工展だ水泳大会だとまたまたバタバタしています。

当日は万全を期したいと思いますが、もし仕事がいったら、ごめんなさいね。

○友近 幸恵(昭58 準)

毎日一生懸命仕事に励んでいます。就職したら学生時代のよさがわかると思います。(お年寄りみたいなのを言ったりして……) 今のうちに、クラブに、そしてetc……

学生時代をenjoyして下さいね。

現役部員寄稿

強者の理論と弱者の甘え

主将 吉田 不二彦

自分が主将となって既に7ヶ月が過ぎた。その間、自分が水泳部の現状について最も頭を悩ませたことは、水泳部が本当の意味で一致団結していないのではないかということである。

部員一人一人がその潜在的な能力をフルに発揮し、それを戦力に結びつけることのできる状況を創り出すためには、部員間の相互理解と信頼が必要である。それが得られずして真の一致団結はもたらされない。

ところが、その一致団結を阻む要因が二つ、水泳部内にあると思う。強者の理論と弱者の甘えである。

強者の理論とは、比較的タイムの速い、主力選手が持ちやすい考え方である。この考え方を持つ人は、弱い立場にある人間の気持ちを理解しようとしな。自己に対して厳しいが、他人に対しても厳しい態度をとる。いわゆる「人の痛みのわからない」タイプの人間だとか、強いばかりで思いやりに欠ける人だとか言われたりする。

一方、弱者の甘えとは、比較的タイムの遅い、主力選手ではないと自分で思っている選手に見られがちなものである。自分は主力ではないから、練習の手を抜いてもいいだろうと考えたり、主力選手のように厳しい練習を耐えることは最初からできないとあきらめたりする、いわゆる「甘え」である。

もちろん、部員全部がこの類型に当てはまるのではない。主力選手の中にも思いやりのある者もいれば、まだタイムが比較的遅くても、一かけらの甘えも持っていない者もいる。

しかし、自分の独断と偏見かもしれないが、この二つの要因が水泳部内に存在し、それらが部員間の相互理解と信頼に対する著しい害になり、部員の一致団結を阻んでいると思うのである。

強者の理論を中心としてクラブが動くなら、タイムの比較的遅い者はクラブ活動に対する情熱を失い、自分がクラブにとって不必要な人間だと思込むようになるだろう。

また、弱者の甘えがクラブ内に公然とはびこる状況になれば、クラブは極度に弱体化してしまい、衰亡の危機に頻するだろう。

これら二つの要因を排除しないことには、部員の一致団結は望めない。そして一致団結しなければ、高い目標に到達するためのハードトレーニングを乗り切ることはできない。いまさら言う必要はないと思うが、水泳は個人競技の形をとってはいるが、チームとして戦うものである。ジャージの背中の「K O B E」の文字は伊達や酔興でついているのではない。

自分が主将として部員に望むことは、この二つの要因が自分の中に存在していないか、常に自己批判する態度を持って欲しいということである。比較的タイムの速い者や上級生は、強者の理論を

振りかざしていないか、比較的タイムの遅い者や下級生は、弱者の甘えを持っていないか、常に内省してもらいたい。

部員が一丸となって勝利を勝ち取るとは、一体どういうことを言うのだろうか、各自真剣に考えて欲しい。

水球主任として

副将 浦野敏明

私はチームが強くなるために最も大切なことは、各人のやる気と向上心であると思う。部員全員がうまくなろう、速くなろう、強くなろうと思うところから進歩が始まる。特に水球は、部員の大半が初心者であり、スタートは同じはずである。上達の余地も非常に大きいし、進歩もはやい。皆、目標を持たなければならない。例えば初心者は13名のメンバーの中に割り込んでやろうと努力し、準レギュラーはレギュラーを狙い、レギュラーはさらに技術を向上させるなど、常に上の段階を目指すべきである。どんな小さな目標でもよいから、それを達成しようと努力し、達成したらさらに高次元の目標を作る。その繰り返しにより、全体のレベルがアップするのである。現状に満足してはならない。

水球は団体競技であるので、1人や2人、すごい選手がいても勝てない。(ポイントgetterが得点を入れられるのも、他の選手のパスやアシストがあるおかげである。)私は水球を始めて今年で7年目になるが、強いチームというのは、全員が水球をよく知っていて、自分の役目を知り、全員で1点をとり、全員で1点を守るチームだと思う。そして、チームメイトを信頼できるチーム、チームリーダーの指示によってパスやシュートができ、安心して相手にパスができ、ミスしても全員がカバーしあえるようなチーム。誰でもシュートを撃つことができ、誰でもディフェンスや中継ができる。こういうチームが私の理想である。そしてこのチームワークや信頼感は競争によって生まれるものである。全員がレギュラーを狙い、競争し、技術を向上させ、つねに前進をつづけ、強いチームになっていくのである。努力に優るものなし。

ビギナーがスイマーになる時

<ビギナーの青春>

二回 波戸智久

<四月> 中学、高校とスポーツらしいスポーツを知らずに大学に入学。四月のある晴れた日にカメラ(三好)に連れられて六甲台プールへ…… その日いきなりウェイトトレーニングをやらされて筋肉がはれあがった。ミーティング中、主将不在の中でひたすらめがねのずれに気がつかってい

た吉岡さん(前副将)と吉田さんのよい体格が印象深い。そして初めての水。筆舌に尽くし難い冷たさ。しかし同じビギナーである田中、井上、遠藤と共に仲良く大海原に乗り出していった。一つ気になったのは金さんと呼ばれるOBが私達を観察していた点である。

<五月> 連休があけて再びプールへ……。水の冷たさをあらためて実感した。(遠藤氏はこの頃から退部の心が生まれていたという説もある。)私達はこの日より呉竹さん(OB)という正体不明のマネージャーにコーチをしてもらうことになった。田中をはじめとしてビギナー全員は泳ぐ度に文句を言われた。そして呉竹氏の田中に対する苛立ちも徐々にわかってきた。田中は呉竹氏の再三再四の注意に対し、口をあけて虚しく遠吠えをするのみであった。そのうち井上の体は硬化し、過労と称して部を休む様になった。田中君、遠藤君もよく休んだ。そしてタイムトライアルを迎えた。タイムは散々であったが、100フリーを泳ぎ終え疲れ果てた私を呉竹氏は「OK」とはげましてくれた。そのとき彼の頭の上に太陽が見えた。坂田さんであった。時は新歓コンパとなり、生まれて初めて?お酒を飲む私は生気を失っていた。この日、南女ギャルU子氏(平野さん)と初めて出逢った。綺麗だが私は怖えた。前後するが、病みあがりのN氏(前主将 長崎さん)が「一回生です。」と陽気にやって来た事も脳裡に深く刻まれている。第二回目のタイムトライアル、この時は田中と三住と一緒に泳いだ。タイムは1"44あたりだった。こうしてはや2ヶ月が過ぎた。

<六月> 合宿! この一言。呉竹氏がこの頃から露骨に田中を批判しはじめた。「お前はまじめにしとんでもバカにしとうように見える。」田中は表情こそ変えなかったが大変怒っていた。合宿にもドラマがあった。浜田が寒さで倒れた事、それを嘲笑していた魔女足立、しかし八コースには所詮無縁であった。合宿も割と楽にすんでそのままビギナーも仲良く団結するかと思われていたのに、一人が姿を消した。合宿も終盤となり彼がやいた。「俺、あかん、根性ないわ。」これが彼の心を知る唯一の言葉であった。彼は消えてゆき、その時からビギナーは総崩れの様相を呈してきた。井上は筋肉が一層硬くなり教養の授業にさえ稀にしか来なくなった。田中はマージャン。合宿中にひょっこりとやってきた松下さんも初体験の話をして消息を絶った。私は週二日もクラブに推参し、ハイベース(マイベース)で泳ぎ込み、いい汗を流す毎日だった。当時、部を続けるか否かがビギナーの関心事で、僕は井上と帰り道よく相談していた。こうしてポロ合宿までひたすらビギナーは戦い続けた。

<七、八、九月> ポロ合宿、死ぬ気でやった。(手の抜く暇のなかっただけの話か?)巻き足もできない。基礎練にもついてゆけない。おまけに体も硬い。ポロと呼ぶには悲惨すぎた。そして井上は頭まで硬くなってしまった。試合にもビギナーからかり出された。最初に白羽の矢がたったのは田中であった。井上と私もおまけとして出場する様になった。印象に残るものとして、関西インカレでの田中の二個、関西国公立の計時中の井上の仮眠、近国800m自由形の井上で、特に近国史上、未曾有の大記録となった800mは今でも鮮烈に残っている。(彼の記録が今後800mで基準タイムを設けるかどうかの論争の発火点となった。)こうしてシーズン終了と思っていると、後に関ポロJrがひかえていた。三人のビギナーは考えた。泉谷、松井氏を偲んであとを追いかどうか。しかしここではチームメイトの絆によって大事には至らなかった。こうして私と井上は近国

より関ボロJrまでを必要最低限と思われる日数でのりきった。田中はビギナーの域を脱し、神大ボロチームのキーパーとして成人（吉岡）と共に頑張った。そしてシーズンは幕を降ろした。八コースには自由があった。つらい練習の中で愛想をふりまく田中もキックの練習しか頑張らない私も、バタ足の水しぶきが全く上がらない井上も、よく足をつた遠藤もみんな楽しく泳いでいた。たとえタイムは遅くとも、御上（おかみ）にはわからない楽しさがあった。今にして思えば、これが私のビギナーとしての青春であった。

<解説>

二回 はと ともひさ

部と彼の間には何の関係もない。彼と関係があったのは八コースであった。そのことをビギナーの青春と暗に表現しているのをおわかりであろうか。彼は神大水泳部というより八コース水泳部に所属していた。実際、彼の文章の何処にも、あの試合でチームがどうしたとか、最近チームのムードが沈滞しているとかいった文句が全く見あたらず、八コースは自由であるだとか試合にかり出されたとかいう様な言葉ばかり目につく。彼は大学の一年を水泳に賭けるのかどうかを迷っていた。それが再三彼の退部発言へとつながったわけであるが、というのもそもそも入部時の考えが甘かったのは間違いあるまい。しかし他の部員と同じメニューをこなすこと自体が無理なため、マイペース、マイペースと、八コースだけ全く別の世界で泳がざるをえなかったことも見逃せない事実だろう。しかし今さら、そんな事はどうでも良い。重要な事は今後入部するビギナーをどう育てていくかという抜本的な事だ。神大水泳部をより強いものにするにはビギナーも少しは重要視されるべきであろう。具体的に述べると、いきなり何年も泳ぎ込んだ者と同じメニューをビギナーに出すのではなしに、基礎体力強化に専念させ（例えば彼の場合、中、高と運動していなかったもので……。）そののちに、日替りて練習の指導に部員があたる。そういった指導がフィードバックされ部員にとっても再勉強となる事は疑問の余地がないし、当然ビギナーも理論から実践までのスイマーになる筈だ。（但し、やる気のない者に対しては何をしても意味がないであろう。）また内面的な水泳部の強さ、要するに部をまとめるにあたって効果は必ずあるだろう。とにかく、ビギナーをスイマーとしていきなり育て様とする事が、ビギナーを生み、遠まわりの様だがビギナーとして育て様とした方が、順調にスイマーを育てることになりはしないか。無論それが一通りの苦勞でない事は承知しているつもりである。

甚だ一面的な意見で恐縮ではあるが、主将をはじめとして現役部員の皆さん全てにこの意見を提言して筆を置くことにする。

「あちら日記」より

現役部員一同

「あちら日記」は昨年度より始められた神大水泳部誌です。名前あまり意味はありません。部誌の管理者の口ぐせが、「あちらたいへん。」だったせいでしょうか。さてこの部誌の性格を知っていただくために、部誌創案者の日記に書かれた言葉を、最初に記します。（木村）

10/28 部誌をにぎやかにし、内容もアットホームで楽しいものにしてくれた1回生諸君には感謝する。その部誌が感想ノートっぽくなってしまった原因は、我々上級生にある。……他校の部誌に比べ小粒だな、と感じるのは、歴史が無いせいもあるが、回生に偏りがある、しかもまだ、本音を出しきれていないところにあると思う。部誌の一つの効果として面と向かって上級生に対して本音を言うことができなくても、このノートにならそれが書ける、という類のものもあるのではないだろうか。幹部批判おおいにOKである。……(坂田)

以下、「あらあら日記」より抜粋

8/14 はっきり言って、吉田Sanや貢Sanたちの涙している光景を見た僕を感激させるよーなものは、そうざらにあるもんじゃありません。それほど呉でのコンパは感激的でした。……でも、これからが大変やと、つくづく感じたのも事実です。うーん、がむばらなくっちゃ!!

9/1 4回生の方々があまり来られなくなれ(尤も、毎日来てくれる人もいますが)練習中の活気が減ったように思う。それに残りの1, 2, 3回生のトータルな出席率が、5割を下まわっている。みんなもっとクラブに来てくれるといいのに、と思ってしまう。

9/7 大学生になって、これ程楽しく少しだけしんどい生活を送れたのは、何と言っても水泳部あってのことと思ひ、今さらながら「神大に来て良かった。水泳部に入って良かった。」と思っています。でも僕の場合、こっから後のシーズンオフが問題なのです。それというのも、なんとなくもう疲れてしまった気がして、これから淋しさのあまり“食い気”に走りがちなのであります。久美子さんとの約束の「90kgになりませう。」が、もしかしたら……。いやいや、今年こそこのままやせて MY BEST WEIGHT である76kgにまでもっていきたいと思います……。

(爆弾発言)

9/8 今回はインカレ観戦記なるものに的を絞ってみたいと思います。何と云っても、今年のインカレを観に行ったら、一番の収穫は、高橋繁浩が100m平泳で、1'03"80の日本新記録を出す瞬間を、直にこの眼で見れたことでしょう。電光掲示板に、1'03"80の文字が出た途端、場内が驚きと歓びでどっとわき上がったあの瞬間……/そして2日目、400mメドレー決勝。バックがピリと帰ってきた中京大。2番手の高橋繁浩は、ぐんぐんと他を追い越し、50mまでに3位に浮上。そしてターンのあとの水中の一かきで2位に、そしてとうとう1位になって3番手にタッチ。その後、同大も泉憲二のバックで追い上げ、アンカーに引き継がれると大混戦。トップだった明大は、ラストの25mで次々と追いつかれ、最後の最後には、中京大が優勝。明大は4位に落ちてしまったのです。誰の目にも、どこが1位か2位か見極められないのに、非情なタッチ板はほんのわずかの差も許さず、はっきりと順位を確定してしまうのでした……。

9/12 きのうの関ボロJr戦は、とても感激しました。ガメラのシュート、めっちゃかっこよかった。京大には負けてしまったけど、この前の京阪神Jr。の時よりもずっとずっといい試合でした。

9/12 ナッハハハ！とうとうSeason最後の試合、関ボロJrも軽くclear待望のOFFがやって来ました。あと3日で、あの沼で泳ぐ日々とお別れなのです。しかし今年の夏は長かった。本当に長かったのです。毎日泳ぎまくって、しんどくて長い夏でした。自分としては、一応BESTも出したし、大体においては満足の夏です。来seasonも自分自身のlimitを限るthoughtを決して持つことなく、頑張りたいと思います。

10/5 事後報告を一つ。9月15日、月見の宴。もう悲惨の一言です。「今日ぐらいは飲みいゃ。」というある人の一言がメチャショックで、いつもの恥辱心を捨て、即リターンの最終的な作戦を立て、月見の宴に臨んだのでした。もう、死力を尽きて飲みました。その上、テントのベンチで寝ていると上から人が降ってくるし、「ようつぶれてくれた。」とか「部屋に泊まったヤツは出世する。」とか、ええ加減なことを言う人もいるし……。飲めないのは僕の責任じゃありませんよ。身体がそういうふうに来ているのだから仕方ないじゃないですか。人に飲ましてつぶして、何が面白いんでしょうねえ。食べ物は何とと思っているんでしょうねえ。おっとexitしてしまいそうなので、この辺でやめて……。

10/24 もうすぐ六甲祭ですが、当日僕らは何をするんでしょう。クラスでも出店するのでめちゃ忙しいやろうな。駅伝だけは頑張らなあかんし……。とにかく、この秋は何でもバリバリやったんねん！

10/31 吉田には、理性がない

坂田には、気配りがない

私には、知性がない。及び、文才もない。……ということであしからず。

11/1 =久保田さん大將事件=

一略一 ふと気がつくと、何やら吉田さんが騒いでいる。上の部屋に久保田さんが現れないので、気になって下へ降りたらしい。ついで谷水さんが騒いでいたような気がする。彼いわく、「芥川龍之介作“地獄変”」。金さんが騒ぎ出す、「きれいに始末しといてくれ。」吉田さんが言う、「女の子には見せられへん。」好奇心をそそられ階下のトイレへ。そこに僕は「考える人」を見た。それは、ぐったりとうつぶしていた。そして足元には、竹仙での“あて”があった……。

11/2 この前の日曜日は悲惨でした。全く何の為に、朝の9:00から学校へ来たんか……。

そりゃあ僕達はsoftball 下手くそやけど、せっかく日曜日つぶして来てんねんから、出してくれても良さそうなもんやのに。人数が足れへんねんやったら、他所から助っ人呼んでこんと試合にならへんけど、十分水泳部員だけでも足りてんねんから、わざわざ助っ人呼んでもえーのに。そんなんで勝っても水泳部Team の勝ちと違やし、全然面白くないわ！それこそ、駅伝に助っ人呼んでくれ！ と皆で思いました。

11/4 水泳部ってどうして、勝ち負けの問題になると、こんなに必死になるのでしょうか。自分がソフトボールの試合に出てないせいか、少し不思議に思います。もっと楽しみながら試合をしてもいいんじゃないかしら？（別者注、勝負そのものが楽しみなのだ。そこが女と違うところさ。男は勝ち負け！ サッポロビール）

11/10 昨日のプレ六甲祭は、楽しかったですね。中川はやっぱり美少年だったし、クラブ対抗ゲームもおもしろかったです。でもちょうちん行列のあまりの狂乱には、ちょっとビビってしまって、思わず他人のふりをしてしまいました。最近、ちょっと疲れていて、考えることもあつたりして明るくバア！になりきれません。冬はだからキライです。冬になると気持ちが暗くなるのです。今はそれだけです。

11/17 ところで、六甲祭の後片付けに来なかったから、というだけで、なんで10周も走らせるんですかー？！

11/21 ーランニングの途中ー

私 “な、谷水、最近のクラブ、何かどこかがおかしいと思えへんか？” 谷水 “は、もう、うちのクラブもあかんのんちゃいますか” 私 “何か与えられた事はこなすけど、自分から進んで何かしようというのが、感じられへん。” 谷水 “何か、周りや、先輩の為に練習したり、仕事してるみたいですね。” 私 “自分の個性というのを何か感違いしてるんちゃうか？” 谷水 “どういう事ですか？” 私 “てめえの個性いうもんは、他人の認識で作られ、そして光るもんや。今の連中は、自分のカラに閉じこもって、自己満足の世界にひたるのが個性やと思ってんのんちゃうか？”

ー再び部屋に帰ってー プールが泣いていた。激しく泣いていた。神大水泳部は一部チームではなかったのか？ 同志社や近大、天理は冬でも泳いでいるんや！関大や体大も泳いでいるんや！みんな少しでも速くならうと、一生懸命頑張っているんや！カッコだけの一部チームやったらやめとけ！ 男としての誇りは無いんか！ こんなんであいつらと一諸のコース台に立てるんか！ 1, 2 回生の、熟考を期してベンを折る。

11/21 11月13日、そう六甲祭のコンパのどさくさの中で、私とアメリカンフットボー

ル部の2回生との会話や。アメフト “先輩、先輩” 私 “どうしてん?” アメフト “僕、2回生やのに試合に出してもろて嬉しいんです。” と言いながら泣きついてきた。みんなは、どう思いますか?

○/× ここで聞いて欲しいことがある。特に一回生諸兄姉。人間とは甘えるものである。何か問題が起きると、その前に1人で立つことを恐れる存在にすぎない。付き合いのための付き合い。何がそこから生じるだろうか。もっとしっかりと自分の足で立つべきである。1人で考え、そこにしっかりと立つべきである。それがたとえ、クラブのみんなの“燃え上がり”を1人冷やかに見るような考えであっても……。

12/12 初めて登上する。長い男子校生活を送ったためか、軟弱な文章をうじうじ書くのは好かんかったから書かなかったが、今日は報告がてら書く。(学生課の課外活動係この六甲台プール周辺での樹木の伐採、新築プール等の交渉について)…… なお、要求を通すためには、全水泳部員が圧力団体とならなくては行けない。いざとなれば、現役部員が総力をあげて、熱意を示して欲しいと思う。

1/22 水泳部の価値観は何であろうか。まきれもなく全体主義なのである。ある日、一人の部員が被入って無断欠席した。大体において、被入った時に限って、休むなどと連絡する気も起こらなはずである。次の日、クラブに行ってみたら、こう言われるはずだ。「昨日は何でも何も言わんと休んだんや。みんなのやる気がなくなるやないか!」けれどもコトはクラブ、もっと言えば、体育会などと名乗っている者の練習である。おのれが好きでやっている練習である。「みんなのやる気」という、その人のやる気が問題である。もう一つ問題がある。関西国公立戦優勝、全国国公立2位!! 毎年毎年こうした目標が掲げられるけれども、初心者でクラブに入ってくる者にとっては、念仏以外のものではかない。私が思うことは、クラブはそこに居る者のものだから、そこに居る者がいなければ成立しないものだから、毎年毎年、その中で目的、目標、手段を話し合うべきものである。

2/○ 一体いつになったら、テストから解放されるのであろうか。早く終れ、終れと思います。!

旅は道連れ、単位はお情け

2/23 僕の場合、水泳を好きでやっています。自分自身のためにやっています。クラブという形でやってるから、クラブに迷惑をかけるのは良くないし、協力しなければいけない部分は、しなくては行けないと思います。そのような点では、今までの自分の行動に改めるべきだと思われる点もたくさんあったと思うんです。でも「クラブに貢献する」気は、はっきり言って全く無いと言わせ

てもらいます。結果としてそうなるなら、それはいいと思いますけど、毎日クラブをやっていく上では、そんな意識を持つ必要はないんじゃないでしょうか。「部に貢献する気はないのか？」とか、「部に貢献してる事をアピールしろ。」とか言う限り、クラブには水泳のできる者しか集まらず、本当に水泳の好きな者は、集まらなくなると思います。僕は、このクラブの良さは、素人もプロみたいな人も、みんな一諸にやっていけるところにあると思います。

これらは、神大水泳部の裏場面での記録です。“日記”の中に書かれた、何気ない言葉に、皆の様々な思いが現れています。今、神大水泳部は過度期を迎えようとしています。今まで見えていなかった問題点が、少しずつ皆の眼前に現れてきているのではないのでしょうか。この部誌が、これらの問題の解決に寄与し、水泳部の発展に何らかの力となることを願います。 (木村)

「六甲台プールよいざさらば!!」

—— 32回生卒部にあって ——

今年めでたく、神大水泳学部を御卒業されます10名の先輩方に最期の言葉を残していただきました。水泳部始まって以来の黄金期を作り出す原動力となった先輩達。プールの外では……暴走族に勧誘された先輩、女子マネと仲睦まじい先輩、「飲め飲め」と下級生をつぶしにかかって眠りこける先輩、マージャンの記田町、誰もいなくなった甲楠荘、国維寮名物307号室の怪etc……。厳しさも優しさも我々後輩に多くの影響を与えてくれました。(黒川記)

(J32) 吉岡 宏之

回顧録：またBuを泳ぐことになった。INが遅いと言われた。Baに追いつかれると言われた。Brにも追いつかれた。たまには頑張った。早朝に1500のやり直しを命じられた。泳ぎすぎでワキズレもできた。ライバルがいた。練習を共にする仲間がいた。全国で4位になった。走るのが遅いと言われた。ブタの代名詞にされた。麻雀に巻きこまれた。もっと食欲になればよかった。もっと水球をやりたいかった。もっと怒鳴ればよかった。腹筋を一度は自慢したかった。マラソンのトップ争いに加わりたかった……。結局、4年間、法律を身につけることはできませんでしたが、クラブでの体験は何ものにも変え難いものであったと感じております。今改めてここまで私を支えて下さった諸先輩方、同僚にお礼申しあげますと共に、今期の現役諸君の健闘を祈り卒業の辞と致します。

(J32) 野村 俊彰

故四回生 生き残りマラソンゲーム ヨーイ・ドン! 予想通り吉岡君出遅れました。あっゾウガメに追いつかれ食われています。これで三人目の犠牲者です。先に長崎君は、日本語のお粗末さと

足の長さが参加規準にあわず、股裂(またさき)の刑。久保田君は寝坊のため今頃は……。あっ松野君、急にしゃがみこみ「申します申します」と言っています。ひきつけのため泡を吹き出しました。さて単独トップの山野君。余裕でしょうか、道端の植物を見つめています。「これは、きんぴらと玉ねぎを交配したき〇た〇だ！」第二集団、これを全く無視、山野君踏み殺された模様、肺癌のため単車で参加の野村君 転倒、後ろに乗っていた元気な呉竹君、すかさず後頭部を一撃、単車を分解し走り、谷水君につき二位でゴールイン。尚、鈴木君は都合上ブルブイによる股ずれ悪化のため死んでもらいました。

一ヶ月後、谷水君は深夜の無言電話のためノイローゼとなり、つまった便器で発狂。彼の部屋から優勝メダルと賞状は消えてしまいました。めでたし、めでたし。

(J32) 呉竹 正人

「六甲台の冷たいプールよ さようなら」先輩の皆様、どうせそのうち退部するだろうと思われていた、寒がりて軟弱だった私が今この文を書いていることにつき深く御礼申し上げます。同輩にも多大なる借りを作りました。今後必ずや返します。(低利で)。

今日までに水泳以外の体験からも大いに感じたことですが、人間とは、つらいけれども、きびしさに耐えて生きていかなければならないものなのでしょう。私にとっては厳しい社会生活が予想されますが、何だかんだと言う前に、大観衆を前にしての大事な八継、ラスト10mやけくそのスパート、あの真剣な心境で、かつウォーム・ハートを大切に頑張りたいと思っています。

先輩諸君 いろいろな意味で、限らない前進を続けて下さい。

(J32) 谷水 利行

関ポロで京大に負けたとき、泣いてくれた人達、水球パンツを持って沈めてくれた人達、紅白戦で私を潰そうとして背中を生々しい爪跡を残してくれた人達、水球の反則とは何かを身を以て示してくれた先輩、いやがる私に無理矢理牌を握らせてくれた先輩、これ以上飲むと確実に吐くのがわかっていながらビールを注いでくれた先輩、春合宿で無情にも1500ロングをやり直しさせてくれた先輩、私に警察への仕末書を書かせてくれた先輩、家庭の危機にも拘わらず面倒を見て下さった監督、関東弁のコーチ、本当に有難うございました。私に叱られたり殴られた後輩達、ありがとう。

22年間の中で最も光り輝やいた4年間を私に与えてくれた神戸大学体育会水泳部、ありがとう。

(E32) 久保田 勝己

自分が勝たなければ神戸大学が負ける。4年間そう思い込んできた。自惚れであろうとも構わない。この自惚れが原動力となり、練習、試合を問わず負けてなるものかと常に全力で臨み、記録は向上し、成績も伸びたのだから。結果として神戸大学も強くなり、現在のレベルにおいて、競泳では負ける口惜しさを味わうことがほとんどなくなった。だが残念なことにこの種の自惚れを抱く者は多くは現われず、減少傾向にある。その為水泳部の基盤は脆弱となり、現在のクラブ運営は非常に不安定な状態にあるのではないだろうか。他人に依存し、程々を良しとする部員が増え、それが部内の風潮にさえなっているようだ。常に自分が主役のはずなのに、いつしか主役たることを諦め

傍観者に成り下がっている。勝負において上りは険しく、気を緩めればすぐ転がり落ちて行く。近い将来我部の転落の姿を見るのでは。杞憂であってほしい。

心から今後の健闘を期待する。

(B32) 松野 圭悟

クラブ全般のことをとやかく言うのは遠慮して、私事で恐縮ですが以下私の反省文です。

水泳部に再入部した経歴をもつ意気地のない私にとって、5、6月の水の冷たさは地獄の苦しみでした。人より寒さに弱いのでは、いや精神面に問題があるのでは、歳とって神経痛になるのでは？ などと考えたりしました。自分なりに、今日は「寒い」と口にしないとか、僧の修業のように悟りをひらくべく無心で対処したり。ごくたまに気分のよい日には、積極的に一番にプールに飛びこむこともありました。ただ寒さに耐えるなんてテレビの我慢比べと一緒に野蛮だと考えていた私は、どこかに「逃げ」の姿勢がありました。その結果は恥ずかしながら自分が一番よく知っています。

「寒さにふるえた者は太陽を暖かく感じる」と言いますが、皆さんは寒さにふるえつつも自分に負けなように練習に励んで下さい。

(B32) 長崎 真人

メキシコオリンピックで銀メダルを取ったマラソンの君原健二選手が東京オリンピックが終ってもうマラソンを止めたいと思った時、彼のコーチがこう言ったそうだ。「青春時代にすべき事は青春時代にすべきだ。肉体の限界を極める事は青春時代にしかできない事だ。おまえが走り、駆けているその限界を今こそ極める事がおまえのやる一番大事な事なんだ。」

我々のすべき事は……競泳に水球にその限界を極める事である。私は今年水球で一橋に勝ち、競泳では最後のレースで自己ベストを塗り変え優勝することができた。これが私の自分自身に対する答えである。現役のみなも水泳において自分自身の限界を極めて納得のいく選手生活を送って欲しい。それが個人だけでなく神大水泳部のますますの発展にもつながるのだから。

(A32) 山野 和則

大学で水泳に関して学んだことは多々ありますが、もし何かの役に立てばと思い記してみます。

第一に泳ぎは教えてもらうものではなく盗むものということです。チーム内でもなかなか泳ぎなどは教えてもらひまはありませんが、まして他大学のトップスイマーからなぞまずありません。だったら大きな試合等で彼らの泳ぎを盗むことです。自分の泳ぎとどこがちがうのかということをしつくり観察してみることです。案外役に立つものです。

第二は、水泳は個人競技じゃなく集団競技だということです。練習も一人じゃできないしレース中の声援、声援する側の団結によるチームの雰囲気の高揚、レース前のマッサージなど多々あります。一人の勝利はみんなの力から生まれるものだと思います。

以上片言隻語ではありますが卒業に際してのことばとさせていただきます。

(T32) 鈴木 利一

「プールサイドにて」

この夏久しぶりに海に泳ぎに行った。思えば中学以来夏休みなどないも同然、毎日毎日イヤという程泳がされていたのでわざわざ海にまで行って泳ぐ気力もなかったのである。期待に胸はワクワク、女の子達と水かけっこバシャバシャバシャ、ビーチボールでキャッキョッキョなどとやってみたかったのであるが、いざ体が水に浮くと手足が動き出す。結局ハーハー息を切らしながら泳いでしまうのである。なんと悲しい習性であろうか。

閑話休題。いま、冬の誰もいないプールサイドに立ってみて思い出されるのは、夏の強烈な日差しと、水の冷たさと、たまらない疲労感である。いったいこの25mを何回往復したのだろう。勝利の喜びを得ることは少く、くやしくてどうしようもない時も幾度かあったけれど、4年間やってこれたのは結局水泳が好きだったからだと思う。つらかったことも今はとてもなつかしい。

最後に、先輩、同輩の皆様には本当に御世話になりました。特に、雀荘『甲楠荘』の人達には多謝の限りです。ありがとございました。それでは。

(神戸菜女) 藤本 栄美

中学で3年、高校で3年、水泳をやってきた私は、大学入学後は、水泳とは縁を切るつもりでした。しかし、1年後 水が恋しくなり、ある人の紹介で 2回生より神戸大学水泳部に入らせていただいた。まず、新款コンバで、コンバのすごさに たただ恐れおののいていました。しかし3年後の今ではしっかりついていけるようになった。しかしお酒だけは、強くなれなかったが残念！

この3年、自分なりに、納得の行くタイムが残せたと、自己満足している。また、試合の時や、その他水連関係の事など、色々とお手数をかけたと思う。どうもありがとうございました。

最後に、後輩の方々の検討をお祈りします。悔いの残らぬ シーズンにして下さい。

四年間 ごくろう様でした ——。 (現役一同)

田中克己コーチが、3月18日から4年の予定でシカゴのイリノイ大学に留学されることになりました。昨年1年間、競泳、水球共に面倒を見ていただき、特に水球では、技術面、戦術面など関東流の水球を教えていただき、たいへん勉強になりました。また、私生活でも大変お世話になりました。コンバやスポーツ大会など水泳以外の活動にも積極的に参加され、神大水泳部の田中さんになっていて、今シーズンも見えていただけると頼りにしていただけに残念ですが、仕方がありません。今年は昨年よりも強いチームを作ります。アメリカでの御健闘をお祈りしています。本当にありがとうございました。

(水球主任)

現役部員紹介

毎度おなじみになりました。2回生による現役部員紹介です。今回は上級生の検閲をかいくぐり、ナント原版をお届けすることができました。現役の生々しい実態をとくと御覧あれ！

○原田 久富美 (A35)

野生児バラバ。異常に水球に熱意を示す彼の姿には胸をうたれる。また、彼は先輩、同輩を問わずアドバイスと指摘に励み、我々をア然とさせる。昨年は思うようにベストの出なかった彼だが、今年はその破壊力でもって競泳に、水球にがんばって欲しいものである。

○波戸 智久 (P35)

愛車の5000のガンマに乗り、六甲トンネルを85Kmでぶっ飛ばしてやって来るバイクきちがいの1人である。だが教習所ではスタンド立てができず、力無しとバカにされ、入学を拒否された。その腹いせか、中型バイクを見ると必ずスタンド立てに挑戦している今日この頃である。初心者。

○日比 勝己 (J35)

おとなしく先輩の前では、何ひとつ反抗せず、黙々と練習を続ける。これがいわゆる彼の“おもての顔”。しかし私は知っている。彼の本当の恐ろしさを！ それは……。ウッ！ ベンがすまない。私はまだ命が惜しい。彼の閣將軍たる言動はここでは伏せておこう。しかし彼は誰よりも我々を冷静に正確に非情に見つめているのだ。正と悪、陰と陽を見極めるあのすばらしい感覚を我々も見習いたいものである。

○島崎 昌彦 (A35)

速くならうという意志はあるのだが、実力がついていかない。飯を食うのが遅く、しばしば口をとがらせてへ理くつに走り、みんなからゴキブリ扱いされている。オールナイト映画の話で赤面し、買って1週間の40万円のバイクでこけて、「信じれんわー。」と口ばしる。本当に100m Fr 以外には能の無い人です。

○田中 真司 (T35)

どの角度からギャグが飛び出してくるかわからない全身ギャグ人間である。寝起きの時には大きさが倍以上になる彼の頭の中にはいったい何がつまっているのか？ ビギナーではあるが巻き足が強く、サッカーで鍛えたセンスを生かし、神大のゴールをがっちり守る。前キーパーをしのぐ(!?)彼には、ゴールのネットはいらない。

○吉岡 成人 (T 35)

成人の日に生まれたのでこの名がついた。坂田氏に負けず劣らずの重量級であるが、おしゃれでアルバイトの収入のほとんどが衣服代に消えてしまうとか。めっちゃくちゃ樂觀的でホカカの典型と言える性格なので、彼の周囲にはいつも笑いが絶えず、彼の口からは冗談以外の言葉は出てこない。今年は田中と共にキーパーとしての活躍が期待されているが、私としてはあのデカイ頭が水球帽に入りきるかどうか心配である。

○浜田 昌己 (B 35)

6月の六甲台は彼にはあまりに冷たすぎた。合宿でぶっ倒れ再起は無いものと思われた。しかし8月も終りに近づき、人が皆残暑と疲労で苦しんでいる頃、彼は生まれ変わった。彼の復活は水泳のみにとどまらず、甲南女子大を中心に、各名門女子大に年上の女を求めて翼を広げ始めた。“やらずの20才”を守る彼にLost の日が来るのはそう遠い日の事ではないだろう。

○中川 善雄 (T 35)

かなり先輩のひんしゅくを買いながら入部した彼であるが、いきなり、あの“ええとこのポッチャン”ぶりを発揮し、“僕何も経験してまセーン”と言いたげなまなざしで女の先輩を誘惑し続けた。そしてあの追コンの日、彼は通称“尻軽レディーズ”を次々に手中にし、もう少しで“いくー!”というところであった。いや“いってもたー!”かもしれない。また、彼の流し目は男の先輩にも向けられ、3回生某氏との関係は今なお続いている。水泳部始まって以来の徹底した女殺し、男殺しは不滅の軌跡として大きくしるされるだろう。

○三好 岳 (J 35)

他人の秘密を聞き出すのが上手く、よくバラすので、2人の愛人の存在を公にされた者など、被害者は数多い。さらにずるい事に彼は秘密主義で自分の事は一切言わない。彼女ができた今、秘密主義には終止符がうたれそうだが、あることないこと言いふらす黒幕ぶりは変わることはないだろう。もう1つ。彼はブリッ子なのだ。他大学やOBとの席では突然優等生部員になり、その落差に我々は困ってしまう。新年早々2回生全員が舌を抜かれそうになったのはすべて彼のせいである。しかし練習に強く、仕事もでき、実績もある彼への信頼は厚く、今年もおしゃれで軟派な2回生を公私にわたりリードしてくれることでしょ。

○林 磨智子 (P 35)

絶えず笑顔を絶やさず、すすんでいろんな事をやってくれる彼女です。小さなことに気がつくし、すごい力仕事も“あらよっ!”とばかりに難なくこなしてしまうのです。そのパワーには男性もたじたじ。フリーロングを泳ぐ時の力強い粘りには我々をほっとさせてくれるものがあります。まさに現代のパワフルウーマンの代表!

○三住 千里 (A 35)

「あんた運動ぐつは？」と先輩に聞かれた彼女、答えて「くつ？ないねん！」……！？ 彼女が入部した日に見せた傍若無人ぶりである。以来……何をやるにもマイペース。練習も、他人からどれだけ遅れようとも気にしない。そして平然とみんなと一緒に練習を終わる。何をたずねられてもまともには答えられず、本人曰く、「私、農学部ビリで合格した自信ある！」はっきり言ってこの娘はアホです。

○足立 小砂 (Y M C A 専門学校)

彼女はマネージャーと共に本当によくやってくれている。とても我々は感謝しているのだ。だが、しかしである。あの根性のずぶとさ、いやらしさには誰しもが舌を巻いてしまった。男子部員に食指を動かしている。皆さん！どうかお気をつけください。

○島田 陽子 (神戸女短大)

名前に負けず、とても美人で、さらにふだんは知性をただよわせる。しかし、いったんお酒が入ると、九州弁がボンボンとびだし、故郷の彼を思い出して、涙ながらに得意の“会いたかー”を連発する。左の薬指にキラリ光る指輪は、我々に近より難い印象を与えるような気もする。とてもお姉さんに見えるのはやはりその指輪のためかな。

○川原田 貢 (P 34)

体育会気質！ それっきゃない人。

後輩の面倒を良く見てくれる人。

しつこく 酒をすすめる人。

たくさんの彼女に恵まれている人。

聖子の熱狂的のファンの人。

K Y O I を聞くナウイ面を持つ人。

I V Y が大好きな人。

いろんな面を持つ不可解な人。

そして、今年、1番期待と注目を集めている人です。

○黒川 良介 (E 34)

ぼけーっとしているように見えて実は頭の中では常にブツブツ何やら考えている。それがどうかした時にひょっと口から出るが、我々にはさっぱりわからない。昨年は初心者でありながら近国体で決勝進出という大快挙をやったのけ、下級生初心者にも夢と希望を与えた。今年は主務も引き受けているがんばりやさんである。

○木村 典子 (P34)

我が水泳部で1ばん背が低く、1ばん体重が軽そうで、1ばん遠方(すなわち奈良という田舎)から通学していて、1ばん顔が赤く、1ばんボーリングのボールのスピードが遅く、一橋大の某部員との仲をウワサされ1回生の某バカともウワサされ、1ばんよく笑い、1ばんよく泣き、1ばんケーキが好きで…… 1ばん可愛らしい「キム」先輩なのです。

○小島 みか (T34)

あまり表には出さないが、彼女ほど水泳部の事を思っていてくれる人は少ないであろう。このクラブには目立つが勝ちというところがあるが彼女のひたむきなマネージャーぶりには水泳はただ速い者だけが楽しむものではないということを教えられる。どうして大学に入ってまでたいして速くもないのに水泳をしているのかとふと思った時、どれだけ勇気づけられたことだろう。

○太田久美子 (L34)

“ネェ、〇〇クゥーン” この言葉が出たら最期である。あのチョコまかしたかわいい体と顔、それにストレートパーマは我々を怪ろし、そして必殺の“流し目スペシャル”で男子部員をつぶしにかかる。マネージャーとしての姿よりも、ロ子氏と共に愛を夢みる女の姿の方が彼女にはお似合いである。太田兄妹として六甲台に君臨するのもあとわずか1年。最期まで仲むつまじい兄妹の姿を我々に見せて欲しい。

○土井 健治 (E33)

90°と120°で仕切られた分度器代わりになる五角形の顔に申し訳程度についている絹糸のように細くて優しい目からは、はるか丹波篠山の郷愁が感じられる。その顔に見習ってか、下宿までがこれまた五角形という大胆なもので、いっふう変わった様相を呈している。人柄はごく穏和で、ケンさんチックなのどかな雰囲気をもたよわせているが、酒ぐせは悪いというウワサもちらばら…… という個性豊かな人です。

○南谷 昌宏 (P33)

とにかく損するのが嫌いである。それだけに少しでも得をしたらもうすごい。彼と同回生の某氏は彼と同じものを少し買ったことで、もう3年以上も自慢し続けられている。スキーのリフトの1日券を買うと元を取るまで殺気だって滑ろうとするのは全く彼らしいところ。出身中学校を県総体で優勝させたいという野心を抱き、何かと忙しそうだがまあ今年もがんばって、もうけてくれることでしょう。

○坂田 純孝(J 3 3)

親切なドラム缶である。ひとたびお酒を飲むと80kgの握力で肩をもんでくれるし、“重い”とうめくとよけいに体重をかけながら“俺、力ないねん”と言い、割れたビールびんを片手に三重にも四重にもなったまぶたで見つめる。コンパのたびにみんな彼を泊めるのをいやがっているように感じるのは私の思いすぎだろうか？ しかしふだんはとても気前がよく、車にもほいほい乗せてくれるので下級生はどんどんラッキーしてしまおう。

○吉田不二彦(B 3 3)

六甲台昔話一昔あるところに(不二)彦兵衛という男がおったそうなの。その男はな、それはもう寝ても覚めても「やらしてくデー！ 入れてもエーカー？」とばかり言っておったそうなの。ところがじゃ、ある時、この男にお奉行から「お前に十手を預ける。」というお達しがあり、この男は変わったそうなの。町民からひんしゅくを買うほどに「御用だ！ 御用だ！」とあることないことに走りまわり、もうどうすることもできないんじやと。この六甲村に春が来るのはいつの事じやろうな。

○南 宏尚(M 3 3)

去年は3回生なのになぜか教養部在籍。体育の時間、ひとり1回生にまじってサッカーボールを蹴っていた。だてに長生きしていないとは全くこの人のことで、時に非常にスルドイ指摘をし、我々若い衆を思わずうならせる。「この頃来ない。」と言われていた間は絶対に来ず、ウワサが全くなくなった頃に突然フラリとやって来るのもこの人らしい所で、そのたびにわけのわからないギャグをとばして去っていく。彼を理解するにはもっと大人になる必要があります。

○池辺 正雄(E 1 3 3)

先輩、いやこの人の場合師匠と呼ばせていただきたい。仕事の都合で夏の間はあまりなじみはなかったが、秋になったとたん、この人の師匠たる行動がはじまった。社会人としてのすごい経験を生かし我々ウブな後輩に多大なる人生の糧を与えてくれる。1に女、2に女、3,4がなくて5に中川という師匠の愛の偏歴は我々にはとてもとても……！ とにかく“1発”にかけた青春の炎はまだまだ燃えつきそうにない。

○浦野 敏明(B 3 3)

皆さん、試合場でそのへんに持ち主がわからないものを見つけたらこの人に届けましょう。

10のうち9まではこの人のものです。私は毎度のことでもう慣れっ子になってしまいました。あの小柄な体、モグラのような顔、冬には倍になるウエスト、そのどこからも400mIMを泳ぐあのパワーと華麗とまで言える水球のプレーは想像できません。春になると必ず「今年はクールで落ち着いた先輩になる。」と言っていますが、必ず失敗。そのへんが後輩のオモチャになる理由かも!?

○坂東 美枝 (P33)

2回生林をバワフルウーマンというなら、この人はもうバワフル貴族。彼、おっと彼女はあの重々しい体にものを言わせ、200m Buをぐんぐん、いや、ガンガン泳ぎきってしまう。おーこれぞ女を超えた女の姿! 練習では誰よりもタフで年(?)を感じさせない。4回生艶姿3人娘の代表として、あのそのへんの1回生男子よりも広い肩幅と太い腕で今年もきっと我々男性部員を牛耳りまくってくれることだろう。

○川島えみ子 (P33)

彼女は強い。彼女にとって同回生男子など問題ではない。特にU氏の場合、彼女にかかっては、ケチョンケチョンである。聞くところによれば、応援団の面々すらあの調子であしらわれているそうである。このあたり、さすがという他はない。しかしそのような彼女でも、「阪急電車の中で彼氏にもたれて眠っているのを見た。」という報告があるのだから世の中不思議である。

○越智 順子

筆者にはどうしても彼女がおでこを全開にして原付をバゴバゴとばしている姿からは、ピアノをおとなしく弾いている姿は想像できなかった。実際やはり違っていた。ピアノを弾く片手に一升びんを置き、弾きながら飲み、弾きながら飲みしているのだ。酒とピアノをこよなく愛し、昼と夜とを全く逆にして毎日を送っている女傑だったのだ! ウーン なっとく。過激な淑女だったんだな!!

○小田ゆかり (近大)

どう見てもマネージャーには見えない。選手顔負けのファイトと体力の持ち主である。神大水泳部マネージャーの中では異色とも言える存在であり、日頃はスイミングのコーチをやり、その活力をいかに小さなお子供たちにぶつけまくっている。クラブではなかなか会うことはできな

いが、いつも蔭ながら我々のことを見守っていてくれることであろう。

○平野 祐子(甲南女大)

彼女は魔女である。彼女の魔力で何人の後輩が地獄に落ちたことか。夙川のテレサ・テン、南女の杏里と呼ばれ、あの日本人とは思えない黒い肌と真珠のネックレス！ 今世紀最大の後輩殺し！ 少しかわいい後輩がいたら、わき目もふらず女の色気をふりまき、全身をふぬけにしてしまう。あのテクニックはとでも防ぐことはできない。ひとたび酒が入ると、そこいらじゅうの人にやたらとからみつき…… もうこれ以上は目にうかべることもおぞましい。しかし彼女ももう22才！ あのインランとまではいかないまでも、みだらなハートを射とめる男性が現れるのはいつのことか？

昭和 58 年度活動報告

前年度、全国国公立戦 2 位入賞、関西インカレ 6 位入賞、関西国公立戦優勝等々、輝かしい戦跡を残した我々神大水泳部は、これに甘んずることなく、新たな飛躍をめざして今シーズンに臨んだ。

今シーズンは、まず 3 月 16 日からの温水プール（御影 SS）での合同自主トレを経て、3 月 22 日から本格的泳ぎ込みを始めた。また、OB の橋本先輩の御尽力で御影高校水泳部と合同練習となり、午後は近代的なウェイトルームの整った御影高校で陸トレを行ない、筋力アップを計った。もっとも、女子高生と一緒に練習できるとただ喜んでそれどころでない人間もいたのだが……。

そして、4 月 4 日から春合宿に入った。今年は昨年 の 浜村温泉 での集団風邪発生事件に懲り、兵庫県三木市のグリーンピア三木にて行なわれたのだが、温水プールは一般客と一緒に 2 コースしか使えず、1 コースに 15 人近くもひしめき合う有様で、おまけに執拗に文句を言う自称某大学教授が現れるなど散々であった。しかも 4 回生 N 氏に端を発するおたふく風邪は、わざわざ佐賀から参加して下さった慈幸先輩をも巻き込み、まさに泣面に蜂の春合宿であった。

しかし、新学期開始と共に、10 名を超える新入部員を得て、また、数学界の異端児筑波大 OB の田中氏をコーチに迎え、昼は御影 SS で競泳、午後は学校で陸トレを行ない、勝利と栄光をめざし一段とハードな練習が続けられた。

連休明けの 5 月 6 日には遂にシーズン、イン。身体の内まで冷える水の冷たさも、闘魂と気合いで吹き飛ばし、競泳に水球に連日暗くなるまで練習が行なわれた。

質、量とも充実した練習を重ね、競泳では神戸商大との合同記録会、水球では 5 月下旬より毎週茨木高校と練習試合を行なうなど実戦も数多くこなし、7 月、8 月の大会へと“めざすは勝利のみ” 皆一丸になって突き進んで行った。

（長崎 記）

圧倒的勝利に終わった京阪神三大学戦

例年各大学の戦力の探り合いだけに終わってしまい、主力温存が当然のようにになっているこの試合であるが、神大は、翌日からの強化合宿に備え各自現時点での仕上り具合を把握すべきだとして各種目主力で固めた。特に 1 年生にとっては自分自身をアピールする場として大きな意味がある試合であった。

試合の結果は神大が 200 平で長崎、南谷、松居が 1、2、3 位独占するなど圧倒的強さを見せつけ、ぶっちぎりの優勝を飾った。しかし、シーズン最初の大きな大会であり、1 年生にとっては試合の雰囲気を知る良い機会である割には京大、阪大の勝利を度外視した態度はどういう理由だろうか。もっとも主力温存で楽勝できるならば話は別であるが。

同時に行なわれる同志社大、関西大、関西学院大の関西三大学戦に比べてかなりの低レベルに終

るこの試合。京・阪・神大の力を合わせて、なんとかこの立場を逆転してみようではないか。

(長崎 記)

「京阪神三大学戦」

6月12日 於 京都大学プール(50m)

・100m自由型

川原田 貢	59-3	1位
島崎 昌彦	1-04-4	2位
土井 健治	1-14-0	5位

・400m自由型

日比 勝己	6-10-4	3位
呉竹 正人	6-10-9	4位
吉岡 成人	6-16-8	6位

・800m自由型

久保田 勝己	10-03-9	1位
原田 久富美	12-09-6	5位

・200m蝶泳

吉岡 宏之	2-54-2	2位
谷水 利行	3-05-2	3位

・200m背泳

坂田 純孝	2-42-2	1位
吉田 不二彦	2-44-9	2位

・200m平泳

長崎 真人	2-49-7	1位
南谷 昌宏	2-58-8	2位
松居 敦史	3-06-6	3位

・200m個人メドレー

三好 岳	2-54-3	2位
野村 俊彰	3-03-7	4位

・400m個人メドレー

浦野 敏明	5-51-9	2位
三好 岳	6-11-3	5位

・400mメドレーリレー

吉田・山野・吉岡・島崎	4-53-9	1位
-------------	--------	----

・800mリレー

坂田・浦野・久保田・川原田	9-28-4	1位
---------------	--------	----

総合

1位	神戸大学	97点
2位	京都大学	65点
3位	大阪大学	46点

—— 嗚呼！何故負けた！

無念の関西ポロリーグ ——

前年度の関西ポロリーグJrで快勝した我神大は今年こそは念願の関ポロ制覇を果たすべく、コーチに田中氏を迎え、質・量共に関東の一部校にも引けを取らぬ練習を積み関西ポロリーグに臨んだ。

第一試合は対立命館大戦であった。立命館大は往年のあの強さは何処へやら24対2で一方的な

試合となった。

決勝戦は昨年、一昨年と同じく京大との間で行われた。我々には自信があった。昨年の関ボロJrでの快勝、そして毎日暗くなってボールが見えなくなるまで行なった練習、水球主任の吉岡をはじめ皆昨年より一回りも二回りも成長していた。しかし、第一Q終了時点で1対3。第二、第三Qと差はさらに広がるばかり。無理なシュートを打たされ逆に相手の速攻で決められたり、敵将鎌谷の意表をつくミドルシュートを決められたりと、完全に京大のペースにはまり、第四Qは盛り返したものの自分達のゲームが出来ないままにゲーム・セット。よもやの大敗であった。

敗因としては、我々は、フローティング・フォーメーションに基いたクリーン水球に終始し、勝敗に対する貪欲なまでのダーティさに欠けていたのではないだろうか。水球は格闘技である。もっともっと勝利に執着した態度で試合に臨む必要があったのであろう。

(長崎 記)

「関西水球リーグ戦」 6月26日 於大阪市立大プール(50m)

第一試合			メンバー	第二試合(決勝戦)			メンバー
神大	Q	立命館大		神大	Q	京大	
9	I	0	1. 長崎 真人	1	I	3	1. 長崎 真人
8	II	0	2. 久保田勝己 (1)	2	II	3	2. 久保田勝己
3	III	0	3. 野村 俊彰 (2)	1	III	4	3. 野村 俊彰 (1)
4	IV	2	4. 吉田不二彦 (5)	3	IV	3	4. 吉田不二彦 (1)
24	計	2	5. 吉岡 宏之 (1)	7	計	13	5. 吉岡 宏之 (3)
			6. 浦野 敏明 (7)				6. 浦野 敏明 (2)
			7. 谷水 利行 (5)				7. 谷水 利行
			8. 坂田 純孝 (1)				8. 坂田 純孝
			9. 川原田 貢 (1)				9. 川原田 貢
			10. 松野 圭悟				10. 松野 圭悟
			11. 三好 岳				11. 三好 岳
			12. 島崎 昌彦				12. 島崎 昌彦

—— 余裕のV4 兵庫インカレ ——

本格的競泳シーズン開幕を告げる兵庫インカレは7月3日西代プールにて行われた。我々神大水泳部は次週の関西国公立戦に照準を合わせて調整中であったため、記録をめざすよりもむしろ次回を占う意味で重要な試合であった。

試合は、200自で川原田、100平で長崎と本命が敗れる破乱含みの展開となったが、100背、200背で坂田、吉田が1、2位独占するなど100平、200蝶を除く全種目で全員得点するなど圧倒的強さを見せつけた。2位関学との差は意外に小さかったものの余裕のV4であった。

一方、女子は200蝶、400個×で坂東、200平で川島が優勝するなど5人全員が得点したのだが、如何せん武庫川女大の部員数の多さはどうしようもなく2位に甘んじたのであった。

またこの試合では、応援の貧弱さが目につき、また、雰囲気の上がり上がりにも欠けるなど、次週の関西国公立戦に向けての反省材料も多かった。

(長崎 記)

「兵庫インカレ」 7月3日 於 神戸西代市民プール(50m)

[男子]

<p>・100m自由型</p> <p>川原田 貢 59-7 1位</p> <p>島崎 昌彦 1-03-8 6位</p>	<p>・100m背泳</p> <p>坂田 純孝 1-10-4 1位</p> <p>吉田 不二彦 1-14-2 2位</p>
<p>・200m自由型</p> <p>川原田 貢 2-16-5 3位</p> <p>原田 久富美 2-28-5 (7位)</p>	<p>・200m背泳</p> <p>坂田 純孝 2-37-1 1位</p> <p>吉田 不二彦 2-39-1 2位</p>
<p>・400m自由型</p> <p>久保田 勝己 4-46-5 大会新1位</p> <p>松野 圭悟 5-09-4 5位</p>	<p>・100m平泳</p> <p>長崎 真人 1-16-0 3位</p> <p>南谷 昌宏 1-22-6</p>
<p>・1500m自由型</p> <p>久保田 勝己 19-14-4 1位</p> <p>松野 圭悟 21-20-5 4位</p>	<p>・200m平泳</p> <p>長崎 真人 2-45-2 1位</p> <p>南谷 昌宏 2-56-3 4位</p>
<p>・100m蝶泳</p> <p>吉岡 宏之 1-05-4 2位</p> <p>谷水利行 1-12-8 6位</p>	<p>・200m個人メドレー</p> <p>浦野 敏明 2-38-1 2位</p> <p>三好 岳 2-53-7 5位</p>
<p>・200m蝶泳</p> <p>吉岡 宏之 2-37-2 3位</p> <p>谷水利行 3-01-5</p>	<p>・400m個人メドレー</p> <p>浦野 敏明 5-35-1 大会新2位</p> <p>三好 岳 6-09-6 5位</p>

・400mメドレーリレー

吉田・長崎・吉岡・川原田
4-33-7 1位

・800mリレー

浦野・坂田・川原田・久保田
9-13-4 1位

[女子]

・100m自由型

木村典子 1-18-3 4位
藤本栄美 1-11-5 2位

・200m自由型

木村典子 3-03-9 4位

・400m自由型

林 磨智子 6-42-5 3位

・800m自由型

林 磨智子 13-43-3 3位
藤本栄美 11-59-5 2位

・200m蝶泳

坂東美枝 2-59-0 1位

・100m平泳

川島 えみこ 1-32-4 2位
三住千里 1-42-0 4位

—総合—

1位	神戸大	107点
2位	関西学院大	96点
3位	神戸商船大	49点
4位	甲南大	32点
5位	神戸商科大	19点

・200m平泳

川島 えみこ 3-18-8 1位
三住千里 3-45-8 4位

・400m個人メドレー

林・川島・坂東・木村
6-00-6 2位

・400mリレー

林・川島・坂東・木村
5-22-1 2位

—総合—

1位	武庫川女子大	120点
2位	神戸大	56点
3位	神戸女子薬科大	10点
4位	関西学院大	9点

—— 全員でもぎ取った関国V2! ——

昨年23年振りに関西国公立戦優勝を成し遂げた我々神大水泳部はV2を達成すべく大阪府立大プールへ乗り込んだ。

試合は戦前の予想通り神大と京大の一騎打ちとなった。我々は昨年の王者としての誇りを持って
 関ボロの屈辱を晴らすべく、全員が一丸となって打倒京大に燃えた。

まず最初の決勝レース1500自で久保田がぶっちぎりで堂々の優勝。続く400個メでも浦野
 が自己ベストを5秒も縮め2位に食い込み、雰囲気は最高に盛り上がった。応援も前週とは違って
 変わり、全員が声を限りの大声援を送り、全種目着々と得点を重ね1日目を終わった時点で2位。
 しかし、1位京大との差わずか2点。2日目の逆転は確実であった。

2日目はまず神大の誇るメドレー陣が400混継で優勝。200個メでは1年生三好が根性で6
 位入賞し、100自でのエース川原田貫禄の優勝など全種目で得点し、まさに全員で関国V2を勝
 ち取ったのである。

ただ、1種目で1人しか得点できない種目が多く、200背、200平、200個メ、100背
 だけしか2人入賞した種目がないことが苦戦の原因となったと思う。各種目とも6、7の選手
 の一層の奮起を期待したい。

逆に女子の方は、層の薄さはどうしようもなく、1年生の林・三住を加え5人全員が健闘したも
 のの4位に終わった。

(長崎 記)

「関西国公立大戦」 7月9日・10日 於 大阪府立大プール(50m)

[男子]

<ul style="list-style-type: none"> • 100m自由型 川原田 貢 58-87 1位 島崎 昌彦 1-02-10 (8位) 原田 久富美 1-06-51 	<ul style="list-style-type: none"> 松野 圭悟 20-54-81 (9位) 黒川 良介 24-23-97
<ul style="list-style-type: none"> • 200m自由型 川原田 貢 2-12-91 2位 島崎 昌彦 2-22-92 原田 久富美 2-31-03 	<ul style="list-style-type: none"> • 100m蝶泳 吉岡 宏之 1-05-90 4位 谷水利行 (1-11-8) (失格) 泉谷 信一郎 1-34-80
<ul style="list-style-type: none"> • 400m自由型 久保田 勝己 4-39-23 2位 松野 圭悟 5-05-99 (8位) 田中 真司 7-38-21 	<ul style="list-style-type: none"> • 200m蝶泳 吉岡 宏之 2-35-94 4位 谷水利行 (2-50-62) (失格) 泉谷 信一郎 3-39-10
<ul style="list-style-type: none"> • 1500m自由型 久保田 勝己 18-47-36 1位 	<ul style="list-style-type: none"> • 100m背泳 坂田 純孝 1-09-5 3位 吉田 不二彦 1-09-8 4位 野村 俊彰 1-23-05

・200m背泳

坂田 純孝	2-31-5	3位
吉田 不二彦	2-33-98	4位
浜田 昌己	3-11-86	

・100m平泳

長崎 真人	1-15-48	3位
山野 和則	1-17-85	(7位)
日比 勝己	1-25-68	

・200m平泳

長崎 真人	2-43-8	2位
山野 和則	2-53-18	6位
松居 敦史	3-04-92	

・200m個人メドレー

浦野 敏明	2-31-90	3位
三好 岳	2-44-45	6位
吉岡 成人	3-22-25	

・400m個人メドレー

浦野 敏明	5-28-06	2位
三好 岳	6-00-56	(8位)
野村 俊彰	6-20-09	

[女子]

・100m自由形

木村 典子	1-17-34	4位
-------	---------	----

・400m自由型

林 磨智子	6-28-67	2位
-------	---------	----

・100mバタフライ

坂東 美枝	1-17-45	2位
-------	---------	----

・200mバタフライ

坂東 美枝	2-54-73	2位
-------	---------	----

・400mメドレーリレー

坂田・長崎・吉岡・川原田	4-30-26	1位
--------------	---------	----

・400mリレー

吉田・坂田・久保田・川原田	4-02-34	2位
---------------	---------	----

・800mリレー

浦野・坂田・久保田・川原田	9-06-9	3位
---------------	--------	----

総合

1位	神戸大	80点
2位	京都大	76点
3位	大阪府立大	63点
4位	神戸商船大	29点
5位	大阪大	26点
6位	京都教育大	22点

・100m背泳

林 磨智子	1-42-69	5位
-------	---------	----

・100m平泳

川島 えみこ	1-35-05	(7位)
三住 千里	1-39-93	(9位)

・200m平泳

川島 えみこ	3-20-7	6位
--------	--------	----

・200m個人メドレー
三住千里 3-55-34 5位

・400m個人メドレー
木村典子 7-14-27 2位

・400mメドレーリレー
林・川島・坂東・木村
5-52-4 3位

・200mリレー
林・坂東・川島・木村
2-21-31 4位

・400mリレー
坂東・林・川島・木村
5-18-00 3位

総合

1位	京都教育大	75点
2位	大阪教育大	58点
3位	大阪大	48点
4位	神戸大	39点
5位	奈良女子大	16点
6位	大阪市立大	15点

20年振りの完全優勝 旧三商大戦

昨年、盛大に第50回記念大会を迎えた旧三商大戦は、今年は100回に向けての新たなスタートとして7月17日に大阪市立大プールにて行なわれた。

午前中は競泳が行なわれた。我々神大水泳部は層の厚さに物を言わせ、1人1種目参加の方針で臨んだ。そして200平・400自を除く全種目を制し、関西国公立の覇者としての実力を見せつけ、危なげなく優勝した。

午後は水球が行なわれた。昨年1点差に涙をのんだ我々は、ポロ合宿を経てまた一段と逞しくなっている試合に打倒一橋を賭けた。試合はたて続けに浦野・谷水が得点し、敵に1点入れられたものの第1Q終わって3対1さらに得点差以上に泳力差が感じられ、最後まで泳ぎに泳ぎきれば絶対勝ると皆打倒一橋の念を強くした。第2Qに入っても攻撃の手を緩めず得点を重ねた。また合計9つの退水も、ゴールキーパー長崎の活躍や、久保田、野村、吉田らの必死のディフェンスでうち7つを守りきり、吉岡の弾丸シュートも牙をみせた。そして神戸から駆けつけてくれた応援団とプールサイドの部員からの必死の応援を受け、遂に8対6で一橋大を下したのであった。勢いに乗る我々は、対大阪市立大戦も久保田が5得点するなど20対3で一方向的に下し、ここに20年振りの旧三商大戦完全優勝を成し遂げたのであった。

表彰式では全てのトロフィー、カップを独占し、試合後のコンパは応援団も交えて神大優勝の大祝賀会と化し、1回生の自己紹介をつぶしてしまいう程の大狂乱となった。そして人間のみならず、ベンチやゴールなどあらゆる物がプールに入り乱れたのであった。

(長崎 記)

「旧三商大戦」

7月17日 於 大阪市立大プール(50m)

〔競泳〕

・100m自由型

川原田 貢	59-6	1位
島崎 昌彦	1-04-6	5位

・400m自由型

原田 久富美	5-25-6	2位
吉岡 成人	5-45-4	4位

・800m自由型

久保田 勝己	10-08-9	1位
黒川 良介	12-55-1	6位

・200m蝶泳

坂田 純孝	2-38-1	1位
泉谷 信一郎	3-39-3	6位

・200m背泳

吉田 不二彦	2-34-9	1位
浜田 昌己	3-10-8	4位

〔水球〕

第一試合

神大	Q	一橋大
3	I	1
3	II	2
0	III	1
2	IV	2
8	計	6

メンバー

- 長崎 真人
- 久保田勝己
- 野村 俊彰 (1)
- 吉田不二彦 (1)
- 吉岡 宏之 (2)
- 浦野 敏明 (3)
- 谷水 利行 (1)
- 坂田 純孝
- 川原田 貢
- 原田久富美
- 三好 岳
- 日比 勝己

・200m平泳

長崎 真人	2-45-4	2位
松居 敦史	3-04-0	6位

・200m個人メドレー

浦野 敏明	2-37-4	1位
三好 岳	2-50-8	4位

・400mメドレーリレー

坂田・長崎・吉岡・川原田	4-36-1	1位
--------------	--------	----

・800mリレー

坂田・吉田・浦野・久保田	9-32-4	1位
--------------	--------	----

総合

1位	神戸大	73点
2位	大阪市立大	64点
3位	一橋大	47点

二試合

大	Q	大市大
7	I	1
3	II	0
2	III	1
8	IV	1
20	計	3

メンバー

- 長崎 真人
- 久保田勝己 (5)
- 野村 俊彰 (2)
- 吉田不二彦 (3)
- 吉岡 宏之 (3)
- 浦野 敏明 (2)
- 谷水 利行 (4)
- 坂田 純孝
- 川原田 貢 (1)
- 原田久富美
- 三好 岳
- 日比 勝己

ダブルキーパーで圧勝 対市大戦

第64回目の対市大戦は、7月24日 六甲台プールにおいて行なわれた。競泳では800Fr以外すべて1位を押さえるというほぼねらいどおりの結果であった。おもしろかったのは水球の部で、コーチ田中さんの案によるダブルキーパーが大当たりして24対6という大差で圧勝したことである。また、浦野が市大のトリプルキーパーをバウンドシュートで決めたのは見物であった。

コンバの方は、例年にも増す狂乱で、市大1年生陣のパワーに圧倒されっぱなしであったが、原田の大阪駅浮浪者事件や久保田さんの〇〇〇大将パートⅡ事件などが色どりを添えたのであった。

(吉田 記)

「対大阪市立大戦」 7月24日 於 六甲台プール(25m)

[競泳]

・100m自由型

川原田 貢	59-92	1位
島崎 昌彦	1-02-73	2位
土井 健治	1-11-75	5位

・400m自由型

川原田 貢	4-51-81	1位
原田 久富美	5-16-34	3位
吉岡 成人	5-35-69	5位

・800m自由型

浦野 敏明	10-41-90	2位
呉竹 正人	11-36-63	4位
黒川 良介	12-20-00	5位

・200m蝶泳

坂田 純孝	2-38-27	1位
三好 岳	3-14-25	3位
泉谷 信一郎	3-34-66	5位

・200m背泳

吉田 不二彦	2-31-26	1位
浜田 昌己	3-10-62	5位

・200m平泳

長崎 真人	2-42-01	1位
松居 敦史	2-59-23	3位
日比 勝己	3-04-24	4位

・200m個人メドレー

坂田 純孝	2-36-63	1位
三好 岳	2-46-41	3位
野村 俊彰	2-59-05	5位

・400mメドレーリレー

吉田・長崎・吉岡・川原田	4-37-82	1位
--------------	---------	----

・800mリレー

浦野・吉田・坂田・川原田	9-28-02	1位
--------------	---------	----

— 総合 —

1位	神戸大	101点
2位	大阪市立大	77点

〔水球〕

神大	Q	市大
6	I	2
4	II	2
7	III	2
4	IV	0
21	計	6

- メンバー
1. 田中 真司
 2. 川原田 貢 (4)
 3. 坂田 純孝 (1)
 4. 吉田不二彦 (7)
 5. 浦野 敏明 (7)
 6. 原田久富美
 7. 三好 岳
 8. 浜田 昌己
 9. 日比 勝己
 10. 吉岡 成人
 11. 長崎 真人
 12. 吉岡 宏之 (2)

土俵際の関西インカレ1部残留

とにかく関学と甲南を押さえられれば1部残留が可能であろうと予想していたこのメインイベントは、7月30日から8月1日の3日間、地元神戸のポートピアプールで行なわれた。

結果的には3つのリレー種目で1点ずつの合計3点を取り、1部残留を果たすことができたのであるが、個人種目で決勝に残れたのが2名だけという、今一つ盛り上がり欠けた試合であった。その中で新大新記録であった4回生久保田さんの400 Frと吉岡さんの100 Butは価値のあるものであった。

来年度は2部から上がって来た、府大と大商との1部残留をかけた勝負になるであろうが、リレー種目はもちろんのこと、個人種目で得点することができなければ、神大は1部に残留できても土俵際にへばりついている現状を打ち破ることはできないだろう。

また女子は個人種目で決勝に進出した板東の健闘などがあったが、残念ながら2部降格となった。来年度の奮起を期待すると共に、リレーの失格は大いに反省してもらいたい。

(吉田 記)

「関西インカレ」7月30, 31日 8月1日 於ポートピアプール(50m)

[男子]

• 100m自由型		8-59-81	6位
川原田 貢	59-13		
島崎 昌彦	1-02-01		
浜田 昌己	1-04-00		
• 200m自由型			
久保田 勝己	2-11-31		
川原田 貢	2-14-81		
原田 久富美	2-26-07		
• 400m自由型			
久保田 勝己	4-37-46	(7位)	
浦野 敏明	5-00-91		
波戸 智久	7-13-80		
• 1500m自由型			
黒川 良介	24-07-62		
• 100m蝶泳			
吉岡 宏行	1-04-14		
泉谷 信一郎	1-30-29		
吉岡 成人	1-40-35		
• 200m蝶泳			
泉谷 信一郎	3-35-86		
• 100m背泳			
坂田 純孝	1-09-00	(7位)	
吉田 不二彦	1-09-88		
土井 健治	1-46-99		
• 800mリレー			
川原田・浦野・坂田・久保田			
• 200m背泳			
坂田 純孝	2-34-74	(8位)	
吉田 不二彦	2-36-11		
中川 善雄	3-25-32		
• 100m平泳			
長崎 真人	1-14-01		
松居 敦史	1-24-05		
井上 博行	1-56-57		
• 200m平泳			
長崎 真人	2-41-91		
松居 敦史	3-01-47		
日比 勝己	3-05-49		
• 200m個人メドレー			
三好 岳	2-45-81		
田中 真司	3-35-85		
• 400m個人メドレー			
浦野 敏明	5-32-41		
三好 岳	6-00-35		
• 400mメドレーリレー			
坂田・長崎・吉岡・川原田			
	4-26-65	6位	
• 400mリレー			
吉田・坂田・久保田・川原田			
	4-01-23	6位	

総合

1位	同志社大	161点
2位	天理大	67点
3位	近畿大	35点
4位	関西大	34点
5位	大阪体育大	31点
6位	神戸大	3点

[女子]

・100m自由型

藤本 栄美	1-11-45	2位
木村 典子	1-14-87	

・200m自由型

藤本 栄美	2-41-97	2位
木村 典子	2-47-62	

・400m自由型

林 磨智子	6-19-73	
-------	---------	--

・100m蝶泳

坂東 美枝	1-16-42	
-------	---------	--

・200m蝶泳

坂東 美枝	2-48-09	(8位)
-------	---------	------

・100m背泳

林 磨智子	1-40-77	
-------	---------	--

・100m平泳

川島 えみこ	1-32-80	
三住 千里	1-37-55	

・200m平泳

川島 えみこ	3-19-26	
三住 千里	3-32-54	

・400mメドレーリレー

林・川島・坂東・木村	5-45-50	5位
------------	---------	----

・200mリレー

坂東・林・川島・木村	2-19-04	6位
------------	---------	----

・400mリレー

坂東・林・川島・木村	5-09-42	(失格)
------------	---------	------

総合

1位	天理大	180点
2位	大阪体育大	102点
3位	武庫川女子大	13点
4位	近畿大	13点
5位	京都教育大	10点
6位	大阪教育大	8点
7位	神戸大	3点

二日目の逆転劇・全国国公3位入賞

我々はこの大会で地獄と天国を見た。8月12日、広島、呉、二河プール、前年度二位の神戸大学は、思はぬ苦戦をしいられた。大健闘で6位入賞を果たした浦野以外は、皆不調で、宿舍へ帰っても重苦しい雰囲気につつまれていた。この時点で10位であった。翌日、開き直って臨んだ我々は、メドレーリレー2位を皮切りに次々に得点を重ねた。復活なった川原田、混戦の中4位入賞を果たした吉岡、そして必死に応援した全員の力によって、3位を勝ち取った。それが狂喜への幕明けであった。

(坂田 記)

「全国国公立大戦」 8月11日・12日 於広島・呉・二河プール(50m)

[男子]

・100m自由型

川原田 貢	58-25	2位
原田 久富美	1-03-84	
島崎 昌彦	1-02-41	

・200m自由型

川原田 貢	2-16-85	
土井 健治	2-53-66	
井上 博行	4-01-43	

・400m自由型

久保田 勝己	4-44-56	4位
南 宏尚	5-35-94	
波戸 智久	6-54-38	

・1500m自由型

久保田 勝己	18-37-54	4位
黒川 良介	24-28-09	

・100m蝶泳

吉岡 宏之	1-04-28	4位
泉谷 信一郎	1-26-08	
吉岡 成人	1-36-37	

・200m蝶泳

泉谷 信一郎	3-34-93	
中川 善雄	4-04-30	

・100m背泳

坂田 純孝	1-10-28	(9位)
吉田 不二彦	1-10-45	
中川 善雄	1-31-65	

・200m背泳

坂田 純孝	2-34-12	
吉田 不二彦	2-35-71	
浜田 昌己	3-12-64	

・100m平泳

長崎 真人	1-15-74	
山野 和則	1-18-59	
南谷 昌宏	1-21-46	

・200m平泳

長崎 真人	2-44-63	(8位)
松居 敦史	3-03-26	
日比 勝己	3-02-31	

・200m個人メドレー

浦野敏明 2-34-60 (9位)
 田中真司 3-43-31
 三好岳 2-48-49

・400m個人メドレー

浦野敏明 5-24-44 6位
 三好岳 5-59-80
 吉岡成人 7-19-61

・400mメドレーリレー

坂田・長崎・吉岡・川原田
 4-27-63 2位

・400mリレー

吉田・坂田・久保田・川原田
 4-02-83 6位

[女子]

・400m自由型

林磨智子 6-26-08

・100m蝶泳

坂東美枝 1-16-62 6位

・200m蝶泳

坂東美枝 2-51-63 6位

・400m個人メドレー

木村典子 7-15-12

・400mメドレーリレー

林・川島・坂東・木村
 5-54-47

・800mリレー

川原田・浦野・坂田・久保田
 9-02-46 4位

総合

1位	筑波大	106点
2位	愛知教育大	32点
3位	神戸大	24点
4位	大阪府立大	22点
5位	広島大	21点
6位	岡山大	15点

・400mリレー

坂東・林・川島・木村
 5-13-71

総合

1位	筑波大	134点
2位	東京学芸大	45点
3位	京都教育大	23点
4位	名古屋大	16点
5位	愛知教育大	13点
6位	静岡大	12点

近 国 体 V 3 !!

これまでの主戦力であった4回生がぬけられたあとのチームをうらなう意味で、今回の近国体では3回生以下の活躍が大いに期待された。

しかし、やはり主力は、長崎前主将らの4回生で、3回生以下で組んだリレーでは、どれも苦戦をしいられ、800mにまでは、阪大、商船大に次いで3回に終わった。今回はエース川原田の不調もあったが、それに続く自由形陣の不在、特に久保田先輩の穴をうめるべき長距離泳者がいないことが最大の欠陥となった。また、得点者をみても3回生4人、2回生1人、1回生1人と、下級生の伸び悩みが今後の不安を何よりも物語っている。

そんな中で、坂田が混継の蝶泳で吉岡先輩の穴をうめるべく、1分4秒台を出したことが、唯一の収穫であったと言える。

(南谷 記)

「近国体」 8月25日・26日 於神戸西代市民プール(50m)

[男子]

・100m自由型

川原田 貢	59-5	2位
島崎 昌彦	1-03-8	
浜田 昌己	1-03-1	

・200m自由型

川原田 貢	2-16-2	3位
島崎 昌彦	2-23-9	
原田 久富美	2-27-0	

・400m自由型

久保田 勝己	4-45-8	1位
原田 久富美	5-18-7	
土井 健治	6-26-11	

・800m自由型

久保田 勝己	10-06-0	1位
黒川 良介	13-09-8	
井上 博行	18-11-4	

・100m蝶泳

吉岡 宏之	1-04-5	2位
吉岡 成人	1-31-5	

・200m蝶泳

坂田 純孝	2-28-7	2位
-------	--------	----

・100m背泳

坂田 純孝	1-09-7	2位
吉田 不二彦	1-12-2	3位
中川 善雄	1-32-0	

・200m背泳

吉田 不二彦	2-37-8	2位
黒川 良介	3-07-9	(8位)

・100m平泳

長崎 真人	1-14-6	大会新 2位
南谷 昌宏	1-19-2	(7位)
松居 敦史	1-23-7	

・200m平泳

長崎真人 2-40-5大会新 1位
南谷昌宏 2-57-3 5位
日比勝己 3-01-1

・200m個人メドレー

浦野敏明 2-32-7 3位
三好岳 2-46-1 6位
波戸智久 4-05-9

・400m個人メドレー

浦野敏明 5-28-6 1位
三好岳 5-57-6 5位
田中真司 9-10-4

・400mメドレーリレー

吉田・浦野・坂田・川原田
4-31-3

[女子]

・100m自由型

木村典子 1-14-6 2位

・200m自由型

木村典子 2-52-2 4位

・400m自由型

林磨智子 6-23-4 2位

・200m蝶泳

坂東美枝 2-50-3 2位

・100m背泳

坂東美枝 1-26-0 2位

・200mリレー

川原田・吉田・吉岡・坂田
1-46-9

・800mリレー

浦野・坂田・吉田・川原田
9-17-3

総合

1位	神戸大	93点
2位	神戸商船大	61点
3位	大阪大	49点
4位	京都教育大	35点
5位	京都大	35点
6位	和歌山大	13点

・200m背泳

林磨智子 3-34-9 2位

・100m平泳

川島えみこ 1-36-3 5位
三住千里 1-37-1 6位

・200m平泳

川島えみこ 3-25-5 6位
三住千里 3-29-4

・400mメドレーリレー

林・川島・坂東・木村
5-50-7 2位

・200mリレー

坂東・林・川島・木村

2-22-0 4位

・400mリレー

坂東・林・川島・木村

5-17-4 3位

総合

1位	京都教育大	80点
2位	大阪教育大	50点
3位	大阪大	44点
4位	神戸大	44点
5位	滋賀大	17点
6位	奈良教育大	16点

「日本学生選手権・雑感」

坂東美枝 (P33)

今年もインカレがシーズンの終り近い9月に行われた。目の前で高橋選手の日本新が出たり、ポロの素晴らしいプレイを見たり、それなりの収穫はあった。しかし、私にとってインカレは今年もやはり「参加するため」のものでしかなかった。緊張感もなく泳いでもピリッとしない。泳ぎ終れば肩の荷がおりたような気がするが、それは心地よいものではなく仕事をいいかげんに仕上げてしまったような後味のわるさを残している。「来年こそはインカレでベストを出そう！」とまた今年も思ってしまった。(来年は神戸で行われるこのインカレ、ポロの出場はもちろん、競泳でも、一人でも多く出場して欲しいと願っています。)

「日本学生選手権」 9月2日3日4日 於神宮プール

・100m自由型	川原田 貢	59-70
・400m自由型	久保田 勝己	4-48-52
・100m蝶泳	坂東美枝	1-18-07
・200m蝶泳	坂東美枝	2-57-16

来年に課題を残した関ポロJr戦

この大会から、阪大が加わり5校によるトーナメントになった。1回戦は1回生の原田の活躍などで順当勝ちした。決勝戦は先の神京戦で大敗を喫した京大であり、どこまで通じるか試してみようと半ば開き直ってぶつかっていった。

攻撃もいいところまで行き、退水もとるのだが、決定力を欠き、カウンターアタックをくらい逆に点を入れられるというケースが目立った。泳力テクニックなど個々の力には差がないだけに、今後、チームとしての動き、シュート力や詰めを強化してゆく必要が感じられた。結果的には負けて

しまったが、三好、日比の得点、川原田、原田の成長など来年につながる内容であった。

(浦野)

「関ポロ」戦 9月11日 於 大阪市立大プール

第一試合

神大	Q	市大
4	I	0
2	II	1
3	III	3
6	IV	2
15	計	6

メンバー

1. 吉岡 成人
2. 川原田 貢
3. 坂田 純孝 (2)
4. 南谷 昌宏 (1)
5. 浦野 敏明 (4)
6. 吉田不二彦 (2)
7. 原田久富美
8. 土井 健治
9. 黒川 良介
10. 三好 岳 (1)
11. 島崎 昌彦
12. 日比 勝己

第二試合(決勝戦)

神大	Q	京大
2	I	4
1	II	2
1	III	5
4	IV	3
8	計	14

メンバー

1. 田中 真司
2. 川原田 貢 (1)
3. 坂田 純孝 (1)
4. 三好 岳 (3)
5. 浦野 敏明 (1)
6. 吉田不二彦 (1)
7. 原田久富美
8. 土井 健治
9. 黒川 良介
10. 中川 善雄
11. 島崎 昌彦
12. 日比 勝己 (1)

昭和 58 年度 行事報告

- 4/ 4 (月) ~ 4/7 (木) 春期合宿(グリーンピア三木)
- 4/17 (日) 兵庫県室内選手権(かるもプール)
- 5/14 (土) 新入生歓迎コンパ(六甲台生協)
- 5/29 (日) 凌泳総会
- 6/12 (日) 京阪神三大学戦(京都大プール)
- 6/13 (月) ~ 6/18(土) 夏期合宿
- 6/20 (月) ~ 6/25(土) 強化練習
- 6/26 (日) 関西学生水球リーグ戦(大市大プール)
- 7/ 3 (日) 兵庫インカレ(西代プール)
- 7/ 9 (土) ~ 7/10(日) 関西国公立大学戦(大府大プール)
- 7/12 (火) ~ 7/15(金) ポロ合宿
- 7/17 (日) 三商大戦(大市大プール)
- 7/24 (日) 市大戦(六甲台プール)
- 7/30 (土) ~ 8/ 2 (火) 関西インカレ(ポートピアプール)
- 8/11 (木) ~ 8/12(金) 全国国公立大学戦(広島県呉・二河プール)
- 8/25 (木) ~ 8/26(金) 近国体(西代プール)
- 8/28 (日) 京阪神三大学Jr戦 京阪神ポロ(大阪大プール)
- 8/31 (水) ~ 9/ 4 (日) 日本学生選手権(神宮プール)
- 9/11 (日) 関西学生水球リーグJr戦(大市大プール)
- 9/15 (木) 月見の宴

現役自己ベスト一覧

	自由型				蝶
	100m	200m	400m	800m	100m
男子の部					
吉田 不二彦	<u>1-01-0</u>	2-17-8			1-15-8
坂田 純孝	1-01-6	2-19-2			1-07-6
浦野 敏明	1-01-7	2-16-2	<u>5-00-9</u>	<u>10-33-2</u>	1-08-5
南谷 昌宏	1-09-4		5-38-9		
土井 健二	1-11-7		6-22-0		1-39-1
南 宏尚	<u>1-02-1</u>	2-26-0			
池辺 正雄	<u>1-12-9</u>				
川原田 貢	57-1	<u>2-09-0</u>	4-46-9		
黒川 良介	1-12-0			12-20-0	
原田 久富美	1-02-6	2-19-0	5-16-8		1-12-9
日比 勝己	1-11-9		<u>6-10-0</u>		
三好 岳					
島崎 昌彦	1-01-8	2-19-1			
吉岡 成人					1-31-5
中川 善雄	<u>1-07-8</u>				
田中 真司	<u>1-15-3</u>		<u>7-35-1</u>		
浜田 昌己	<u>1-03-0</u>	2-22-7	<u>5-19-1</u>		
波戸 智久	1-18-7		6-54-2		<u>1-46-1</u>
女子の部					
坂東 美枝	<u>1-11-7</u>	2-37-3	5-18-5		1-14-3
川島 えみこ	1-19-3				
越智 順子	<u>1-34-7</u>	3-32-8		<u>16-01-0</u>	<u>2-01-0</u>
木村 典子	<u>1-14-5</u>	<u>2-47-6</u>	6-12-5		<u>1-36-0</u>
林 磨智子	<u>1-24-4</u>		6-19-7		
三住 千里	1-30-3	3-36-9			

泳	背 泳		平 泳		個 人	
	100 m	200 m	100 m	200 m	200 m	400 m
	<u>1-09-8</u>	2-31-2	1-23-5		2-44-7	<u>6-17-5</u>
<u>2-28-7</u>	1-08-7	2-30-4			<u>2-34-0</u>	<u>5-40-7</u>
<u>2-35-6</u>	1-17-1	2-47-9	1-15-6	2-51-2	<u>2-31-9</u>	<u>5-24-4</u>
<u>3-39-8</u>	1-26-3		1-18-1	<u>2-52-7</u>	2-52-0	<u>6-22-3</u>
<u>3-54-7</u>					<u>3-45-9</u>	
3-11-6			1-21-9			6-07-3
			<u>1-16-5</u>	2-58-9	2-52-6	
	1-13-1				2-35-1	
	<u>1-28-1</u>	<u>3-05-0</u>		3-24-5		
	1-19-9		1-20-8		2-39-3	
	1-41-7		1-23-1	3-01-1	3-03-0	
3-14-2	1-20-2	2-53-1	<u>1-25-1</u>	2-58-1	<u>2-44-4</u>	5-57-6
			1-47-2			
	<u>1-30-9</u>	<u>3-25-3</u>			3-08-4	<u>6-37-9</u>
			1-40-		3-35-8	
	1-26-1	<u>3-10-0</u>	1-28-4		2-49-4	
			1-48-		4-06-1	
<u>2-44-7</u>	1-21-7	2-58-6	1-33-8	3-17-6	<u>2-54-8</u>	6-04-0
			<u>1-32-0</u>	3-16-6	3-22-7	
	<u>1-40-3</u>	<u>3-50-4</u>	2-01-8		3-50-0	<u>8-13-6</u>
	<u>1-34-8</u>				<u>3-15-3</u>	<u>7-04-1</u>
	<u>1-40-8</u>		1-48-7	3-59-4	<u>3-32-6</u>	7-36-0
	<u>1-52-7</u>		<u>1-33-6</u>	3-28-	<u>3-45-9</u>	

歴代 10 傑表 (男子)

○ 100 m 自由型

1	川原田 貢	57-1(S)	S.57
		57-8(L)	S.57
2	金 一波	58-6(S)	S.56
		58-9(L)	S.57
3	浜川 広海	58-8	S.26
	杉山 和弘	58-8(S)	S.53
5	久保田勝己	1-00-2(S)	S.56
6	村田 邦夫	1-00-7(S)	S.51
		1-01-9(L)	S.51
7	吉田不二彦	1-01-0(L)	S.58
8	富岡 洋三	1-01-5(S)	S.56
9	坂田 純孝	1-01-6(S)	S.58
10	山本 隆	1-01-7(L)	S.54

○ 400 m 自由型

1	久保田勝己	4-37-4(L)	S.58
2	川原田 貢	4-46-9(S)	S.57
3	上田 剛弘	4-54-3(S)	S.55
		5-02-8(L)	S.55
4	山本 隆	4-55-1(L)	S.53
5	杉山 和弘	4-55-2(S)	S.52
6	金 一波	4-57-0(S)	S.56
7	浦野 敏明	5-00-9(L)	S.58
8	丸末 一之	5-01-5(S)	S.51
9	松野 圭悟	5-03-4(S)	S.57
10	酒井 康司	5-06-6(L)	S.56

○ 200 m 自由型

1	久保田勝己	2-08-5(S)	S.58
2	浜川 広海	2-09-0	S.26
	川原田 貢	2-09-0(L)	S.57
4	金 一波	2-13-8(S)	S.57
		2-16-5(L)	S.56
5	杉山 和弘	2-14-0(S)	S.52
6	浦野 敏明	2-16-2(S)	S.57
7	山本 隆	2-17-0(S)	S.52
8	上田 剛弘	2-17-1(S)	S.55
9	村田 邦夫	2-17-5(S)	S.51
10	吉田不二彦	2-17-8(S)	S.56

○ 800 m 自由型

1	久保田勝己	9-47-4(S)	S.56
		9-49-0(L)	S.57
2	山本 隆	10-22-1(S)	S.53
3	上田 剛弘	10-26-4(S)	S.51
4	浦野 敏明	10-33-2(L)	S.57
5	丸末 一之	10-36-3	S.51
6	松野 圭悟	10-38-0(L)	S.57
7	酒井 康司	10-40-5(S)	S.55
		11-00-7(L)	S.55
8	杉山 和弘	10-46-1(S)	S.52
9	大林 良和	10-48-4(S)	S.49
10	慈幸 弘樹	10-52-6(S)	S.

○ 1500 m自由型

1	久保田勝己	18-37-5(L)	S.58
2	浦野 敏明	20-08-3(L)	S.57
3	松野 圭悟	20-31-4(L)	S.57
4	上田 剛弘	20-40-0(L)	S.55
5	酒井 康司	20-55-0(L)	S.55

○ 100 m蝶泳

1	吉岡 宏之	1-04-0(L)	S.58
2	佐敷 定雄	1-04-8(L)	S.48
3	富岡 洋三	1-07-0(S)	S.56
4	山本 隆	1-07-4(S)	S.54
		1-08-4(L)	S.53
5	坂田 純孝	1-07-6(S)	S.56
6	浦野 敏明	1-08-5(S)	S.58
7	大橋 進	1-09-1(S)	S.44
8	久保田勝己	1-09-3(L)	S.55
9	杉山 和弘	1-09-6(S)	S.52
10	阿部 洋三	1-10-0(L)	S.41

○ 200 m蝶泳

1	坂田 純孝	2-28-7(L)	S.58
2	佐敷 定雄	2-29-6	S.48
3	吉岡 宏之	2-34-0(S)	S.57
		2-35-9(L)	S.58
4	山本 隆	2-35-2(S)	S.53
		2-36-9(L)	S.53
5	浦野 敏明	2-35-6(L)	S.56
6	久保田勝己	2-35-6(S)	S.55
7	阿部 洋三	2-40-1(L)	S.41
8	富岡 洋三	2-46-2(S)	S.56
9	谷水 利行	2-47-0(S)	S.55
10	大橋 進	2-48-1(S)	S.43

○ 100 m背泳

1	杉山 和弘	1-07-7(S)	S.53
		1-08-4(L)	S.53
2	坂田 純孝	1-08-7(S)	S.58
3	吉田不二彦	1-09-8(L)	S.58
4	太田 雅彦	1-10-9(S)	S.56
5	田淵 五郎	1-11-8(S)	S.27
6	酒井 正人	1-12-5(S)	S.51
		1-13-6(L)	S.52
7	木村多加緒	1-12-7(S)	S.43
		1-13-9(L)	S.43
8	川原田 貢	1-13-1(S)	S.57
9	井上 隆史	1-14-0	S.36
10	玉木喜代明	1-14-6(S)	S.44

○ 200 m背泳

1	坂田 純孝	2-30-4(S)	S.56
2	吉田不二彦	2-31-2(S)	S.58
3	杉山 和弘	2-34-1(S)	S.54
		2-34-2(L)	S.53
4	木村多加緒	2-34-8(S)	S.43
		2-37-0(L)	S.43
5	酒井 正人	2-35-2(S)	S.52
6	太田 雅彦	2-40-7(L)	S.56
7	玉木喜代明	2-43-6(S)	S.43
8	慈幸 弘樹	2-46-5(L)	S.53
9	松野 圭悟	2-46-7(S)	S.56
10	酒井 康司	2-47-0(S)	S.56

○100m平泳

1	長崎 真人	1-13-6(S)	S.57
		1-14-0(L)	S.58
2	鈴木 俊彦	1-14-3(S)	S.42
		1-14-7(L)	S.42
3	慈幸 弘樹	1-15-3(S)	S.53
		1-16-8(L)	S.53
4	浦野 敏明	1-15-6(S)	S.58
5	池辺 正雄	1-16-5(L)	S.56
6	山野 和則	1-17-1(S)	S.55
		1-17-2(L)	S.57
7	富岡 洋三	1-17-4(S)	S.55
		1-18-5(L)	S.53
8	平石 康	1-17-4(S)	S.51
		1-19-1(L)	S.52
9	南谷 昌宏	1-18-1(S)	S.58
10	菊田 修三	1-19-0	S.44

○200m平泳

1	長崎 真人	2-40-5(L)	S.58
2	平石 康	2-45-3(S)	S.52
3	鈴木 俊彦	2-45-5	S.43
4	慈幸 弘樹	2-49-2(S)	S.53
		2-52-5(L)	S.53
5	山野 和則	2-50-0(S)	S.57
		2-50-1(L)	S.57
6	浦野 敏明	2-51-2(S)	S.58
7	富岡 洋三	2-51-9(L)	S.53
8	南谷 昌宏	2-52-7(L)	S.57
9	後藤 信人	2-55-0(S)	S.52
10	阿部 洋三	2-55-5(L)	S.39

○200m個人メドレー

1	浦野 敏明	2-31-9(L)	S.58
2	慈幸 弘樹	2-33-0(S)	S.52
		2-35-6(L)	S.53
3	坂田 純孝	2-34-0(L)	S.58
4	富岡 洋三	2-34-2(S)	S.56
		2-35-2(L)	S.55
5	吉岡 宏之	2-34-9(S)	S.57
		2-36-7(L)	S.55
6	川原田 貢	2-35-1(S)	S.58
7	久保田勝己	2-36-0(S)	S.57
8	平石 康	2-39-0(S)	S.52
9	山本 隆	2-39-1(L)	S.54
10	原田久富美	2-39-3(S)	S.58

○400m個人メドレー

1	浦野 敏明	5-24-4(L)	S.58
2	山本 隆	5-25-9(S)	S.53
		5-43-6(L)	S.53
3	久保田勝己	5-38-4(S)	S.55
4	坂田 純孝	5-40-7(L)	S.57
5	吉岡 宏之	5-43-1(L)	S.57
6	慈幸 弘樹	5-44-2(S)	S.51
7	富岡 洋三	5-45-2(L)	S.55
8	芝 暢彦	5-52-8(L)	S.54
9	平石 康	5-56-2	S.51
10	三好 岳	5-57-6(S)	S.58

○ 400 m 混継

1	坂田・長崎・吉岡・川原田	4-26-3(L)	S. 57
2	坂田・長崎・吉岡・金	4-29-5(L)	S. 57
3	吉田・浦野・坂田・川原田	4-31-3(L)	S. 58
4	吉田・長崎・吉岡・川原田	4-32-2(L)	S. 57
5	坂田・池辺・吉岡・金	4-34-8(L)	S. 56
6	吉田・長崎・吉岡・金	4-36-2(L)	S. 56
7	太田・長崎・吉岡・金	4-37-1(L)	S. 56
8	杉山・富岡・山本・金	4-37-7(L)	S. 54
9	杉山・慈幸・山本・中尾	4-39-7(L)	S. 53
10	吉田・山野・坂田・呉竹	4-42-5(L)	S. 57

○ 400 m 継泳

1	吉田・久保田・金・川原田	3-58-5(L)	S. 57
2	吉田・坂田・久保田・川原田	4-01-2(L)	S. 58
3	田中・金・杉山・山本	4-06-2(L)	S. 54
4	吉田・呉竹・久保田・金	4-06-5(L)	S. 56
5	金・久保田・吉岡・田中	4-06-6(L)	S. 55
6	島崎・呉竹・久保田・川原田	4-08-9(L)	S. 58
7	田中・富岡・久保田・金	4-09-2(L)	S. 56
8	田中・上田・久保田・金	4-10-1(L)	S. 55
9	田中・呉竹・吉田・川原田	4-10-4(L)	S. 57
10	吉田・浦野・富岡・金	4-11-0(L)	S. 56

○ 800 m 継泳

1	浦野・金・久保田・川原田	8-57-2(L)	S. 57
2	川原田・浦野・坂田・久保田	8-59-8(L)	S. 58
3	呉竹・浦野・久保田・川原田	9-13-1(L)	S. 57
4	坂田・浦野・金・久保田	9-16-6(L)	S. 56
5	久保田・酒井(康)・浦野・金	9-17-1(L)	S. 56
6	浦野・坂田・吉田・川原田	9-17-3(L)	S. 58
7	酒井(康)・呉竹・浦野・久保田	9-17-5(L)	S. 56
8	浦野・富岡・金・久保田	9-17-7(L)	S. 56
9	田中・金・上田・久保田	9-19-1(L)	S. 55
10	酒井(康)・呉竹・久保田・川原田	9-27-0(L)	S. 57

女子 5 傑 表

○ 100 m 自由型

1	坂東 美枝	1-11-7(S)	S. 56
2	寺尾 紀子	1-13-6(L)	S. 54
3	木村 典子	1-14-5(L)	S. 58
4	石本日和子	1-14-7(L)	S. 56
5	有本 智恵	1-15-3	

○ 100 m 平泳

1	山田 玲子	1-30-3	
2	川島えみこ	1-32-0(S)	S. 56
3	国本 温代	1-33-1(S)	
4	三住 千里	1-33-6(L)	S. 58
5	坂東 美枝	1-33-8(S)	S. 56

○ 100 m 蝶泳

1	坂東 美枝	1-14-3(S)	S. 57
2	有本 智恵	1-25-6(S)	S. 52
3	石本日和子	1-26-6(S)	S. 55
4	辻 陽子	1-32-8	S
5	木村 典子	1-36-0(L)	S. 57

○ 200 m 個人メドレー

1	坂東 美枝	2-54-5(L)	S. 56
2	石本日和子	3-07-5(S)	S. 56
3	清水 万里	3-09-7(S)	S. 52
4	寺尾 紀子	3-12-7(S)	S. 53
5	木村 典子	3-15-3(L)	S. 58

○ 100 m 背泳

1	坂東 美枝	1-21-7(S)	S. 58
2	石本日和子	1-25-5(S)	S. 55
3	竹島 信子	1-27-9	
4	清水 万里	1-29-6	
5	浜西美智子	1-29-9	

○ 400 m 継泳

1	木村・石本・川島・坂東	5-07-8(L)	S. 57
2	坂東・林・川島・木村	5-09-4(L)	S. 58
3	小井戸・石本・清水・寺尾	5-10-9	S. 54
4	石本・坂東・小井戸・寺尾	5-11-7(L)	S. 56
5	有本・清水・高木・浜西	5-12-6	S. 51

○ 200 m 継泳

1	寺尾・小井戸・石本・坂東	2-14-3(L)	S. 56
2	浜西・清水・高林・有本	2-16-3	
3	清水・辻・有本・寺尾	2-18-0	S. 53
4	坂東・林・川島・木村	2-19-0(L)	S. 58
5	坂東・石本・小井戸・川島	2-19-4(L)	S. 56

○ 400 m 継泳

1	石本・川島・坂東・木村	5-40-0(L)	S. 57
2	石本・国本・坂東・寺尾	5-41-0(L)	S. 56
3	石本・川島・坂東・小井戸	5-42-2	S. 56
4	林・川島・坂東・木村	5-45-5	S. 58
5	石本・国本・坂東・小井戸	5-49-5	S. 56

○ 200 m 混継泳

1	浜西・粟野・高木・有本	2-21-8	S. 50
2	清水・森田・有本・寺尾	2-35-4	S. 53
3	浜西・山田・有本・高木	2-35-5	S. 50
4	石本・国本・坂東・小井戸	2-36-4(L)	S. 56
5	越智・川島・坂東・木村	2-38-5(L)	S. 57

◆ 桑本万里 (P 28) (旧姓 清水万里)

長谷川美智子 (P 25) (旧姓 浜西美智子)

凌 泳 会 会 則

第 1 章 総 則

第 1 条(名 称) 本会は凌泳会と称する。

第 2 条(事 務 所) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第 3 条(目 的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第 4 条(事 業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

1. 会誌「凌泳」の発行
2. 会員相互の連絡
3. 定例総会及び各種の親睦会合
4. 神戸大学水泳部発展の為に指導及び援助
5. その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第 5 条(会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第 2 章 会 員

第 6 条(会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員、準会員及び在学会員とする。

第 7 条(正 会 員) 正会員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 同附属経営学専門部 神戸大学以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第 8 条(特別会員) 特別会員とは次のものを云う。

1. 前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。
2. その他、総会の決議によって推薦した者。

第 9 条(準 会 員) 準会員とは前 2 条に該当する者以外の者で神戸大学水泳部と行動を共にし、その活動に協力した者の内、本人が入会を希望し且つ在学会員より推薦のあった者を云う。

第 10 条(在学会員) 在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第 11 条(会 費) 正会員は会費として年額 6,000 円を当会へ納入する。但し卒業後 4 年を経過した者は会費を免除する。準会員は会費として正会員の半額を当会へ納入する。

第 3 章 役 員

第 12 条(役 員) 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名
副 会 長	2 名

監 事	若干名
幹 事 長	1 名
本 部 幹 事	若干名
支 部 幹 事	若干名

第 13 条 (改 選) 役員の変更は総会の決議によって行なう。

第 14 条 (任 期) 役員任期は 1 年とし再選を妨げない。

第 15 条 (会 長) 会長は本会を代表し且つ統轄する。

第 16 条 (副 会 長) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第 17 条 (監 事) 監事は本会の会務及び会計を監査する。

第 18 条 (幹事長及び本部幹事) 幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第 19 条 (支部幹事) 支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第 4 章 総 会

第 20 条 (招 集) 総会は少くとも 2 週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て会長がこれを招集する。

第 21 条 (時 期) 総会は毎年 5 月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第 22 条 (議 決) 総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第 5 章 会 計

第 23 条 (経 理) 本会の経理は、会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。

第 24 条 (決 算) 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第 25 条 (期 間) 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

第 6 章 凌 泳 の 送 付

第 26 条 本会員で会費を 3 年間滞納した者には「凌泳」の送付を停止する。但し特別の事情が有る者(海外駐在員等)は除くものとする。

第 7 章 雑 則

第 27 条 本会則は昭和 58 年 5 月 29 日より発効する。

附 記 (退会者の取扱について)

昭和 57 年度総会において下記のとおり決定した。

文書その他の方法で退会の意志を表明した者は退会を認める事とし、その事実を明確にする為、名簿の最後に退会者欄をもうける。

凌 泳 会 役 員 名 簿

会 長	小 山 賢之助(学1)	
副 会 長	吉 野 榮(学9)	山 口 宗 樹(学10)
監 事	伊 藤 英 二(学7)	平 井 洋(学11)
幹 事 長		
幹 事	岡 田 重 義(B10)	井 上 与志男(J18)
	佐 敷 定 雄(A22)	
会計担当幹事	酒 井 潤(E31)	
凌泳編集幹事	石 井 義 章(学22)	
支 部 幹 事		
(関 東)	支部長 山 口 宗 樹(学10)	
	井 上 隆 史(B10)	
	樋 口 周 平(B14)	丸 末 一 之(E25)
(中 部)	浅 間 啓 介(E10)	
(中 国)	大 内 義 仁(学8)	
(四 国)	中 村 市 治(学9)	
(九 州)	印 藤 勝 美(学13)	
(関 西)		
	京 都 柳 本 正 雄(B10)	
	大 阪 井 上 与志男(J18)	佐 敷 定 雄(A22)
	姫 路 山 口 仁 郎(B5)	

物 故 会 員

氏 名	卒業年次	氏 名	卒業年次
藤 井 正 太 郎	特	太 田 清	昭 7 高 2 6
多 田 德 雄	特	土 肥 駒 次 郎	7 2 6
山 田 幸 男	特	鍵 本 芳 次	8 学 2
北 村 五 良	大 6 高 1 1	熊 野 利 夫	8 2
小笠原 房 穂	1 0 1 5	小 西 熊 雄	9 3
中 村 精 一	1 0 1 5	片 山 四 郎	1 1 5
加 納 茂	1 1 1 6	栄 口 昌 二	1 2 6
野 田 曾 一	1 1 1 6	村 上 秀 造	1 3 7
岡 本 幸 一	1 2 1 7	高 橋 徹	1 3 7
神 原 零 一	1 2 1 7	和 泉 真 弘	1 4 8
山 村 馨	1 2 1 7	松 木 勇	1 4 8
山 下 虎 蔵	1 3 1 8	新 原 拓 夫	1 5 9
鈴 木 不 覇 雄	1 4 1 9	尾 原 芳 行	1 6 8
繁 益 繁 治 郎	1 4 1 9	部 坂 克 夫	1 6 1 0
古 林 喜 楽	1 4 1 9	恩 地 正 伍	1 6 1 0
三 輪 嘉 一 郎	1 5 2 0	鈴 木 啓 介	1 6 1 0
高 田 寿 三	1 5 2 0	井 上 正 平	1 1
大 谷 親 之 輔	旧姓 (井関) 昭 2 2 1	柏 木 慶 三	1 6 1 1
大 島 勝 利	2 2 1	稻 垣 懋	1 6 1 1
中 村 毅	2 2 1	山 口 八 郎	1 7 1 2
浅 野 猛 雄	3 2 2	池 田 勲 治	1 8 1 3
田 川 亮 一	3 2 2	前 田 礼 之	1 9 1 4
阪 本 豊 一	3 2 2	伊 藤 一 郎	2 1 1 6
作 田 耕 三	3 2 2	斉 藤 嘉 一 郎	2 1 1 6
白 井 儀 三	3 2 2	衣 川 昭	2 4 専 1
東 光 武 三	4 2 3	中 島 功	2 8 新 1
尾 上 長 三 郎	4 2 3	今 井 彰	3 0 3
川 西 武 雄	昭 7 高 2 6		

昭和 58 年度物故者

山田幸男 (S 58. 8. 8)

白井儀三 (S 58.1.15)

熊野利男 (S 58.1.121)

尾原芳行 (S 58.2.18)

斉藤嘉一郎 (S 58.1.121)

商 神

1. 商神彩なす翹をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ菊水かおる
淡河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
靈果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかけに
八州の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り互る山ぶところに
数の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえす清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葦合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凍たる後に嵐
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起たしむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
養い得たるうつ勃の意気
抱負を語れや干余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年
かがやく光は剣の誉
心はおなじ大和男子の
我等は牙を執って起ちなん
日出ずる旗を高くかざして
日入らぬ国と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ずる蒼鷹幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶揺万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

商 神

しょうしん あやなす つばさをあげて
れいじゅう はるかに ひがしをさせば
くしき このみは くもまをもりて
あきつーしまねに おつとぞ みえしと
こゝろは ここぞきくすいか おるみ
なとが わらのち かきほとりに
かくつたわりしあめのさとしも
ひとはさとらでいくとせかへぬ

宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元氣よく

まやろっこりに いだかれーて
みどりのそのに はなふりかゝる
ここおかのーべの わこーどーが
もゆるおもいを むねにひーめ
まなぶやゆうひの ときをきし

一

摩耶六甲に抱かれて
緑の園に花ふりかかる
ここ丘の上の若人が
燃ゆる思いを胸に秘め
学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて
茅渚の浦ゆ紀伊の山
右手に四国上淡路島
左手にうかぶ金剛山
大らかにぞ抱負わく

三

燃ゆる紅葉たそがれて
宵聞せまる山路を踏めば
真理に挑む若鷹が
ネオンの海を見おろして
いよよ決意をかたむ哉

四

身に泌みわたる峯おろし
冬来りなげ春近し
巢立つ晴れの日時せまる
翼ひろげて悠然と
宇宙を股に羽ばたかん

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄

作曲 黒田 浩一

編曲 土橋 康宏

たて や たー て われらがえらばれ
しせんし ほころのたかき ほまれにかけ て た
だ めざす しゅうりのかむり
ふる えいさ ふるーえ ちからのかぎり かがやかんえい
こうはつーね に われらーにー
こうべこうべこうべ われらがこうべだいがーく ゆけ

一、 起てや起て
われらが選ばれし戦士
母校の高き誓にかけて
ただ目指す勝利の栄冠かむり
振るえいざ振るえ力の限り
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸
われらが 神戸大学

二、 征けや征け
われらが選ばれし戦士
若人の大き誇を秘めて
胸深く制覇の誓
振るえいざ振るえ雄々しく強く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸
われらが 神戸大学

三、 聞けや聞け
われらが選ばれし戦士
青春の若き血潮たぎらせ
相和するかちどきの歌
振るえいざ振るえ意気いや高く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸
われらが 神戸大学

水 泳 部 歌

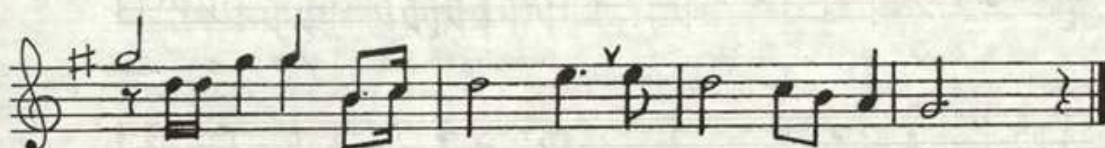
作詩 古林 喜楽
作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ り に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
2. フ リ ー プ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク リ レ ー に
3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ り だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ
ポ ロ ま で も ぬ ろ え い け ん じ の い き た か し い ざ
ブ ー ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る



き(しぶき) を あ げ る け ん だ ー ん じ
や(いざや) - き そ わ ん う で を - ぶ し
な(くるな) つ ま っ - て い き り - た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し
茅渚の浦曲を見下して
しぶきをあげる健男子

二、フリープレスト バタフライ

バックリレーにポロまでも
凌泳健児の意気高し
いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎ止め
来る夏待っていきり立つ

※※～※※～※※～※※～※※～※※～※※

編 集 後 記

※※～※※～※※～※※～※※～※※～※※

本年度は関ポロ制覇、全国インカレ（神戸大会）でのポロ出場もさることながら、競泳面で四回の抜けた穴を埋めるべく新しい力を生み出さなくてはなりません。そのために、ビギナーは経験者に迫り着き、追い越すための手段を考へるべきであり、もちろん経験者もその経験の上にあぐらをかいているわけにはいきません。

山田先生の密葬が御自宅で行なわれたのは全国国公立戦で広島遠征の途に着く前日、暑い夏の盛りでした。もうあれから半年たった今、我々は一路筑波大へと、水泳修業に発とうとしています。山田先生の御遺志でもあったプール新築の動きは未だ進展をみておりませんが、悲願達成のため、現役もできる要求をしていくつもりでおります。凌泳会諸兄の御協力をお願い致します。

最後になりましたが、特集部分の編集にあられた石井さんをはじめ、御協力いただいた戸田元学長ならびOB諸兄に心から感謝します。ありがとうございました。

5 9 . 3 . 9

発行責任者 黒 川 良 介

昭和五十九年五月二〇日発行

発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌 泳 会

神戸大学水泳部

原稿等郵送宛先

●六五七

神戸市灘区六甲台町二

神戸大学 水泳部

会費等振込口座

郵便振替口座番号

神戸 一〇二一八四一

加入者名

神戸大学凌泳会

編集 神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者 黒川 良 介

印刷所 神戸市東灘区住吉町垣内三

小野印刷株式会社

電 〇七八 八五丁〇六〇一